国民との科学・技術対話
Kyoto University

Kyoto University
Academic Day 2024

京都大学アカデミックデイ2024

わたしたちとつながっている 研究は

We are connected to research.

語りたいはここにある

Here, we can find what we want to talk about.

報告書

京都大学アカデミックデイ 2024
「わたしたちと研究は　つながっている」

1.　京都大学アカデミックデイ 2024@ゼスト御池
開催日時　2024 年 9 月 21 日（土）11 時から 18 時
会場　　ゼスト御池（京都市役所前地下街）河原町広場・市役所前広場・寺町広場・御幸町広場
　　京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース

2.　京都大学アカデミックデイ x ホームカミングデイ 2024
開催日時　2024 年 11 月 2 日（土）11 時 30 分から 16 時 30 分
会場　　京都大学百周年時計台記念館 2 階 国際交流ホール II・III

１．イベント概要

2011 年度から始まった「京都大学アカデミックデイ」は、今年度初めて 2 回開催しました。1 回目は 2024 年 9 月 21 日、京都市と共催でゼスト御池（京都市役所前地下街）河原町広場・市役所前広場・寺町広場・御幸町広場、並びに京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペースにて開催。昨年度に引き続き京都大学外で行われたイベントには、学部・大学院生含む 126 名（34 組）の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は受付を通過された方だけで 990 名に上りました。
2 回目は 2024 年 11 月 2 日、本学のホームカミングデイとのコラボレーション企画として京都大学百周年時計台記念館 2 階 国際交流ホール II・III で開催。学部・大学院生含む 68 名（16 組）の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は 227 名に上りました。

「京都大学アカデミックデイ」は、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指しています。

学外で開催したあと、学内で開催する循環型の会となった今年度、様々な来場者との対話を促す企画としてこれまで核としてきた「研究者と立ち話」、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「研究者の本棚」の 3 つの企画は 2 回ともに実施しました。加えて昨年度よりも会場面積が大きくなったゼスト御池でのアカデミックデイでは、昨年度同様「お茶を片手にトーク◎トーク」も企画。出展ブースを紹介する出展者ピッチプレゼンやソロトークショー、座談会を特設ステージで実施することで、道行く人々が気軽に立ち寄れる工夫をしました。

企画のデザインや運営は学術研究展開センター（KURA）が行いました。今回の開催の経験、参加者からの意見を参考にしながら、今後の対話活動をさらに発展させていきます。

２．湊総長からのメッセージ

京都大学アカデミックデイにご来場のみなさまへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと創造の精神を涵養し、多様で質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してまいりました。歴史的に京都大学は自由な発想による独創的な研究により知を創造し、新しい知的価値の創出によって人々の福祉と社会の発展に貢献してきた大学であり、時代を超えて継承されてきた伝統があります。

今日、私達は予想を超えるテンポで進行する地球の気候変動と大規模な自然災害や地球環境悪化、様々な国際的対立抗争の激化や格差の拡大、さらには新型コロナウイルスに代表される感染症の拡大など、地球上の人々の生命と健康を脅かす多くの困難な課題に直面しています。今京都大学として、高度な多様性をもつ総合研究大学ならではの強みを最大限に生かし、これらの地球社会における多元的で困難な諸課題の解決に向けて真摯かつ果敢に挑戦し、着実にその成果を社会に発信していく必要があると思っています。

京都大学アカデミックデイは、みなさまと京都大学の研究者が直接対話をする場として企画したものです。学術研究の成果だけでなく、実際に研究が営まれている現場の様子や、1 人の人間としての研究者を知っていただく機会になればと思っています。この機会を利用して、是非、研究者に直接疑問やご意見を投げかけてください。みなさまとの直接対話は、研究者にとっても自らの研究の社会の中の位置づけや課題を捉え直す良い機会となりますし、成果の社会還元の可能性や新たな活躍の場が広がることでしょう。

この対話の場である京都大学アカデミックデイが、みなさまと共に我が国の学術研究を育む場になることを期待しています。

京都大学総長　湊 長博

報告書の中盤までは二部構成となります。

第一部　京都大学アカデミックデイ 2024@ゼスト御池・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

第二部　京都大学アカデミックデイ x ホームカミングデイ 2024・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１

それぞれの部に以下の内容が記載されています。

目次

１．概要
　１−１．会場配置図
２．プログラム
　２−１．研究者と立ち話
　２−２．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
　２−３．お茶を片手にトーク◎トーク（ゼスト御池開催のみ）
　２−４．研究者の本棚
　２−５．附属図書館関連企画（ゼスト御池開催のみ）
３．アンケート
　３−１．来場者アンケート
　３−２．出展者アンケート
　３−３．京都大学アカデミックデイ賞
４．出展者情報
　４−１．研究者と立ち話
　４−２．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話
　４−３．出展参加者一覧

以降の項目は、第一部・第二部まとめて 112 ページから記載されています。

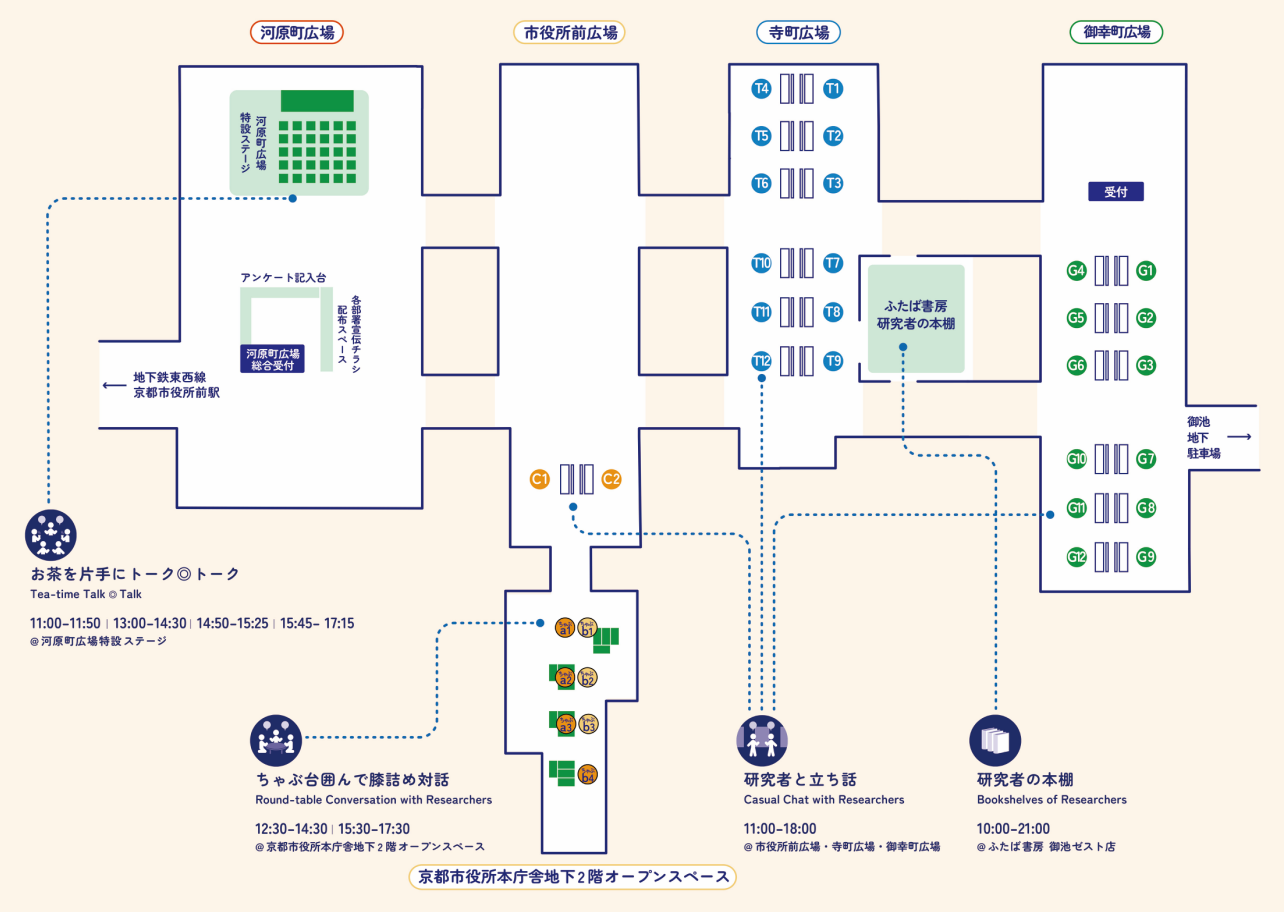
５．その他
　５−１．各種説明会
　５−２．会場間の移動誘導企画（ゼスト御池のみ）
　５−３．「京都大学」をアピールする仕掛け（ゼスト御池のみ）
　５−４．広報物
６．支援体制・準備スケジュール
　６−１．支援体制
　６−２．スタッフリスト
　６−３．準備〜事後スケジュール
７．資料
　７−１．ブックリスト

第一部　京都大学アカデミックデイ 2024@ゼスト御池

1．概要

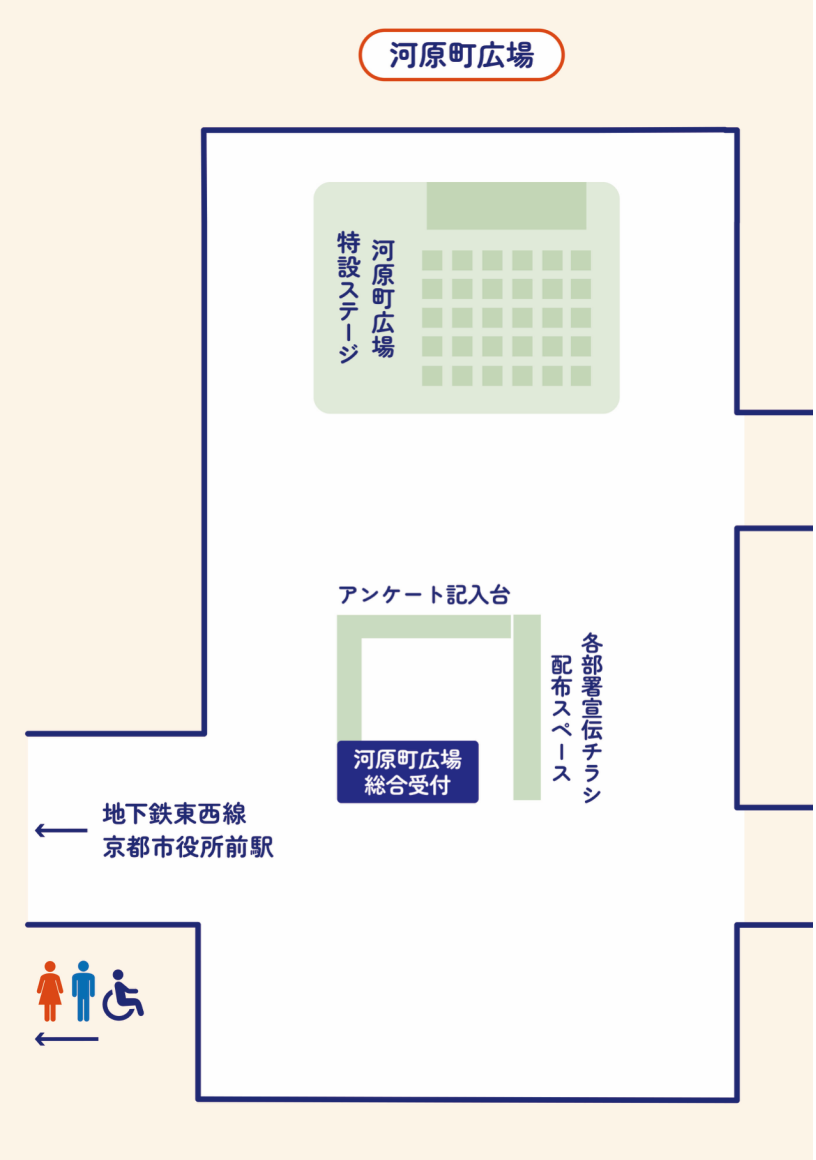
1−1．会場配置図

■　1−1−1．「京都大学アカデミックデイ @ゼスト御池」配置図



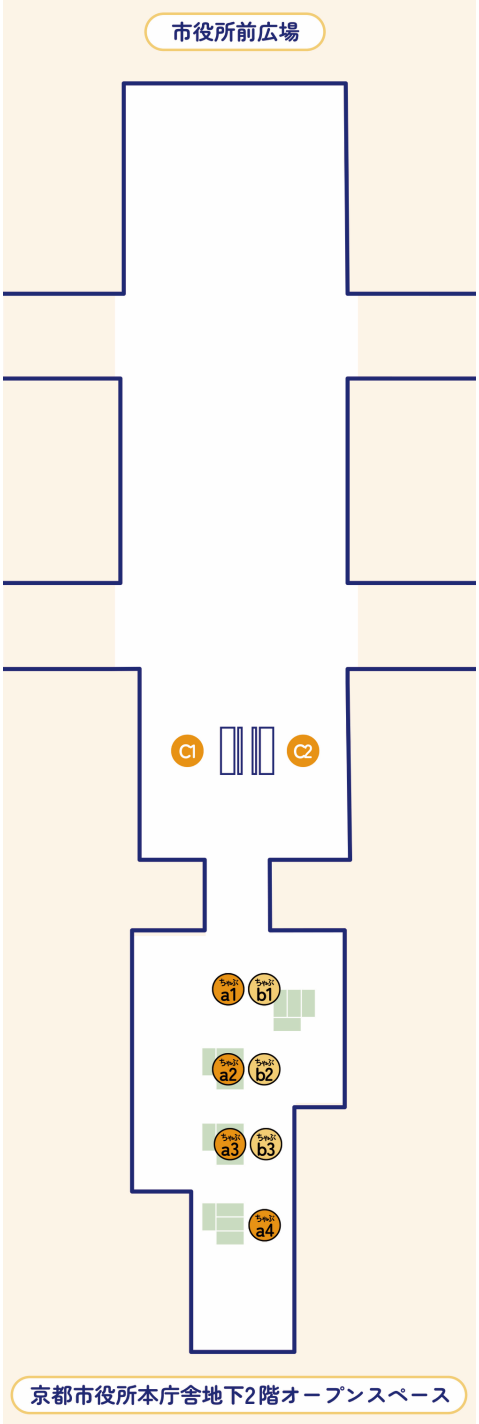
■　1－1－2．各コーナーレイアウト

● 河原町広場：お茶を片手にトーク◎トーク・総合受付

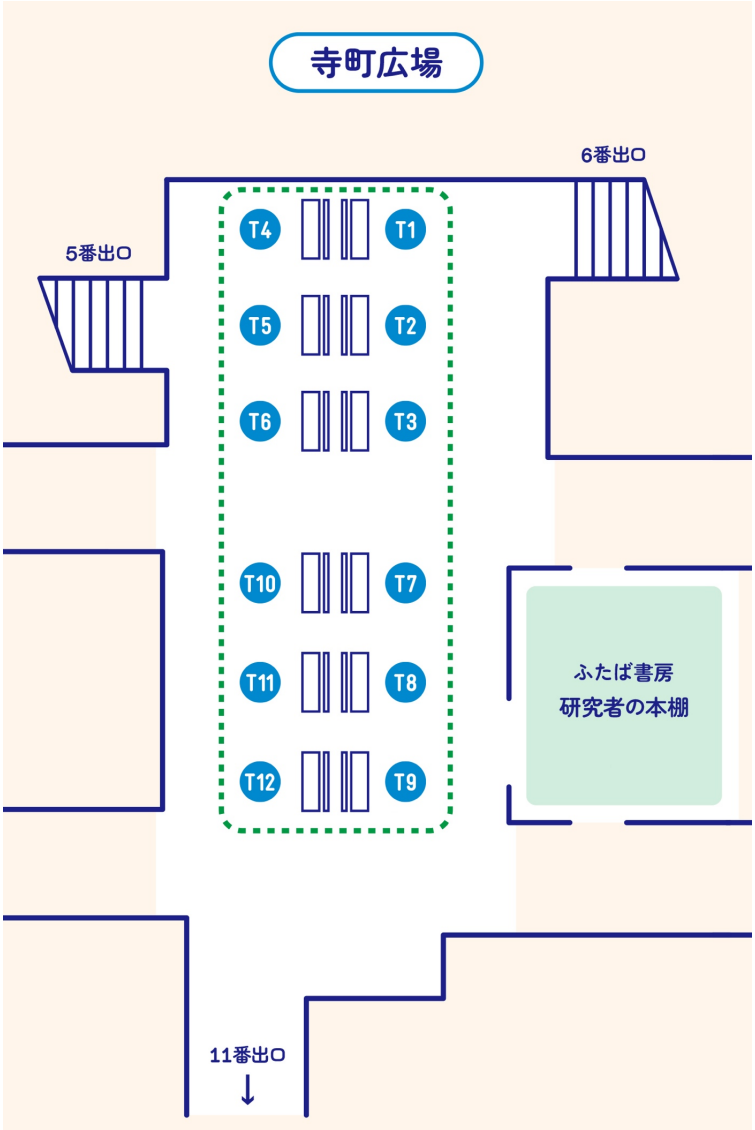


● 市役所前広場：研究者と立ち話

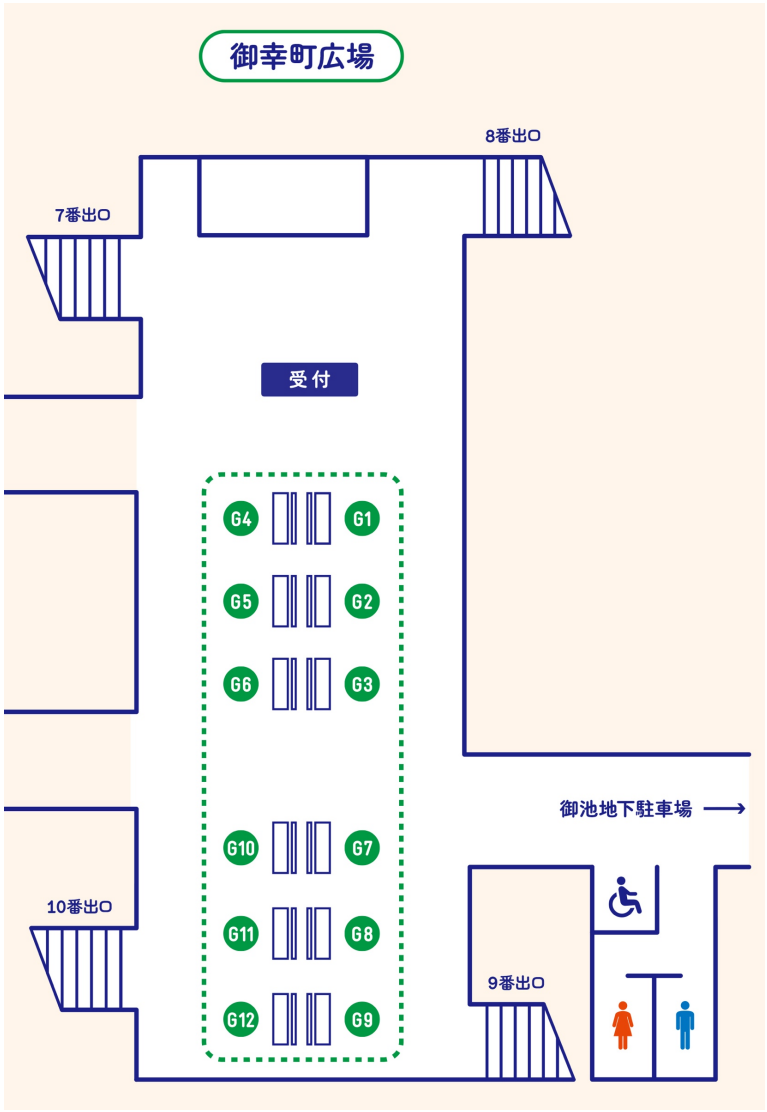
● 京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース：ちゃぶ台囲んで膝詰め対話



● 寺町広場：研究者と立ち話・研究者の本棚



● 御幸町広場：研究者と立ち話



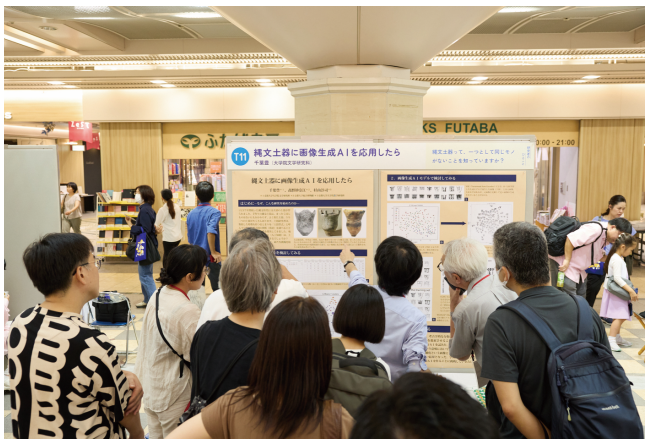
2．プログラム

2−1．研究者と立ち話

■　2−1−1．概要

日時　　9 月 21 日（土曜日）11 時～18 時
会場　　ゼスト御池　市役所前広場、寺町広場、御幸町広場

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度も 3 箇所の会場で合計 26 のポスター展示が等間隔にずらりと並び、ポスターの前で研究者が来場者と直接語り合いました。ポスターの前にある机には模型や実験器具、モニター、資料といった個性豊かなものたちが並べられ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿が見られました。新型コロナウイルス感染症が第 5 類に移行されたことで、かつての密な賑わいが復活、ゼスト御池全体が大変な熱気に包まれていました。また、「街中で開催することで、SNS にはない、研究に関することが街に漏れ出していく感じがいいなと思った」など、まちなかの場ならではの効果が、昨年度よりも大きくなっている印象です。一方で、今年のアカデミックデイは昨年度よりもさらに多くの方にお越しいただいたことで、出展研究者同士の交流にはまだ課題が残る結果となりました。また、過密状態に近い人の数と想定外の残暑の影響により会場内は相当な暑さとなり、出展者にとってかなり過酷な環境となりました。これは次年度の大きな課題です。



■ 2－1－2．「研究者と立ち話」出展一覧

● 市役所前広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
祐野恵（大学院医学研究科）	霞が関の博士人材活用
中村秀仁（複合原子力科学研究所）	先端科学リテラシー教育の新展開

● 寺町広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
疋田純也（大学院理学研究科）	何が世界を構成するのか？
野口高明（大学院理学研究科）	宇宙から来た物質を調べると何が分かるの？
村井俊介（大学院工学研究科）	ナノアンテナって何なの？
森川健太郎（大学院工学研究科）	からだ工務店：カブトムシの体の形作り
松本嘉彦（大学院工学研究科）	制御もないのに歩き出す
豊田直人（大学院理学研究科）	おサルさんの頭のホネから分かること
尾形清一（大学院エネルギー科学研究科）	太陽光の恩恵を全ての人が享受する技術と社会 -Solar for All の実現へ-
埴淵知哉（大学院文学研究科）	頭の中にある世界地図
大山修一（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）	ごみは地球を救う
鴻池菜保（白眉センター／ヒト行動進化研究センター）	サルから学びともに暮らす
千葉豊（大学院文学研究科）	縄文土器に画像生成ＡＩを応用したら
真常仁志（大学院地球環境学堂）	アフリカでゴミを資源にする

● 御幸町広場

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
河本宏（医生物学研究所）	T リンパ球を使ってがんやウイルスを退治！
中川誠人（iPS 細胞研究所）	“じぶん”の iPS 細胞で怪我や病気を治す未来！ ～iPS 細胞の歴史・作り方・応用まで～
Xiaoyan Ren（大学院医学研究科）	ヒトゲノム改編の匠を目指す！
森拓也（医学部附属病院）	医学系研究における倫理的懸念事項の数値化への挑戦
薮塚武史（大学院エネルギー科学研究所）	生体鉱物「アパタイト」で身体を治す新素材をつくる
川又生吹（大学院理学研究科）	DNA オリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介
田中司朗（大学院医学研究科）	臨床統計学ー医療に貢献する科学ー
渡邉卓也（医学部附属病院）	同意取得が障壁になる時、倫理委員会は何を考えるか
後藤幸織（大学院情報学研究科）	行動依存症とは？～ギャンブル、ゲーム、スマホから窃盗まで～
髙橋良輔、眞木崇州、山門穂高（大学院医学研究科）	認知症、その未病の正体に迫る
伊沢亘洋（大学院文学研究科）	コロナ禍におけるパンデミックポスターの分析
西村勉（医学部附属病院）	孤独感推定 AI の開発

2−2．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

■ 2−2−1．概要

日時　　9 月 21 日（土曜日）12 時 30 分～14 時 30 分／15 時 30 分～17 時 30 分
会場　　京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には 4 帖の畳から成る 4 つのちゃぶ台ブースを設置。12 時 30 分から 14 時 30 分の間に 4 つ、15 時 30 分から 17 時 30 分の間に 3 つ、計 7 つの研究者／グループが対話に臨みました。各研究者／グループは自身の研究にまつわる資料や物品、機材などを使いながら「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気が醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。

■ 2−2−2．「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
9 月 21 日（土）12:30～14:30	足立幾磨（ヒト行動進化研究センター）	動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る　ーチンパンジーのこころの研究を中心にー
	宇佐美文理（大学院文学研究科）	中国の山水画はなにを描いているのか
	髙野紗奈江（総合博物館）	‘ひかり拓本’、縄文原体を可視化する
	宇高寛子（大学院理学研究科）	ナメクジってどんな生き物？
9 月 21 日（土）15:30～17:30	松井隆太郎（大学院エネルギー科学研究科）	光で実現する相対論の世界
	高木博登（大学院文学研究科）	倫理学の最前線
	井上春緒（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）	太鼓がしゃべる！ 歌う！ 物語る!～インドのふしぎな太鼓文化の諸相～

2−3．お茶を片手にトーク◎トーク

■　2−3−1．概要

日時　　9 月 21 日（土曜日） 11 時 00 分～17 時 15 分
会場　　ゼスト御池　河原町広場特設ステージ

今年度のアカデミックデイでは、3 つの企画を用意しました。最初の企画が『出展紹介ピッチプレゼン一気になるブースを見つけてみよう！』、続いて対談企画『人生を語る、人生を聞く。』、そして最後は京都市との共催座談会企画『人々にとっての観光とは』でした。どの企画も立ち見の来場者が多く出る大盛況で、訪れた方は熱心に聞き入られていました。後半 2 つの企画では、終了時間をオーバーするまでひっきりなしに来場者から質問が寄せられ、登壇者と来場者の垣根を超えた対話が繰り広げられていました。

■　2-3-2. トークテーマ・参加者一覧

● テーマ：出展ブース紹介ピッチプレゼン―気になるブースを見つけてみよう！
日時　　9 月 21 日（土曜日） 11 時 00 分～11 時 50 分、14 時 50 分～15 時 25 分
会場　　ゼスト御池　河原町広場特設ステージ
登壇者　　各出展ブースより 1～3 名程度（詳細はタイムテーブル参照）

来場者に興味のあるブースを見つけてもらって会場間の行き来を促進することを目的とした、参加研究者によるピッチプレゼン。昨年度初めて試みたところ、好評の声があった一方で時間の改善要望も複数あったことを受け、今年度は 2 部制としました。1 ブースあたりの制限時間は昨年度 3 分間だったのに対し、今年度は 2 分間、聞いている人から「行ってみたい！」と思ってもらえるプレゼンを心がけてもらいました。昨年同様、登壇者は出展代表者以外の方でも構わないこととし、当日は資料や小物を使われたり、身一つで登壇されたりと、思い思いのスタイルでプレゼンいただきました。今年度も来場者からは「ブース紹介ピッチプレゼンが興味を引いた」など、こちらの目的が達成されたことがわかる声が寄せられました。

● タイムテーブル

時間	発表者		出展タイトル
11:00	アカデミックデイ事務局より開会のアナウンス		
11:05	C1	祐野恵	霞が関の博士人材活用
11:07	C2	中村秀仁	先端科学リテラシー教育の新展開
11:09	G1	永野誠治	T リンパ球を使ってがんやウイルスを退治！
11:11	G2	柚木康弘	“じぶん”の iPS 細胞で怪我や病気を治す未来！ ～iPS 細胞の歴史・作り方・応用まで～

11:13	G3	Hafiza Ishrat Fatima	ヒトゲノム改編の匠を目指す！
11:15	G4	森拓也	医学系研究における倫理的懸念事項の数値化への挑戦
11:17	G5	薮塚武史	生体鉱物「アパタイト」で身体を治す新素材をつくる
11:19	G6	川又生吹	DNA オリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介
11:21	G7	大森崇	臨床統計学ー医療に貢献する科学ー
11:23	G8	渡邉卓也	同意取得が障壁になる時、倫理委員会は何を考えるか
11:25	G9	後藤幸織	行動依存症とは？～ギャンブル、ゲーム、スマホから窃盗まで～
11:27	G11	伊沢亘洋	コロナ禍におけるパンデミックポスターの分析
11:29	G12	西村勉	孤独感推定 AI の開発
11:31	ちゃぶ a1	足立幾磨	動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る ーチンパンジーのこころの研究を中心にー
11:33	ちゃぶ a2	宇佐美文理	中国の山水画はなにを描いているのか
11:35	ちゃぶ a3	髙野紗奈江	‘ひかり拓本’、縄文原体を可視化する
11:37	ちゃぶ a4	宇高寛子	ナメクジってどんな生き物？

時間	発表者		出展タイトル
14:50	アカデミックデイ事務局より「お茶を片手にトーク◎トーク」後半のはじまりのアナウンス		
14:52	ちゃぶ b1	松井隆太郎	光で実現する相対論の世界
14:54	ちゃぶ b2	高木博登	倫理学の最前線
14:56	ちゃぶ b3	井上春緒	太鼓がしゃべる！ 歌う！ 物語る!～インドのふしぎな太鼓文化の諸相～
14:58	T1	笠井優太郎	何が世界を構成するのか？
15:00	T2	野口高明	宇宙から来た物質を調べると何が分かるの？
15:02	T3	丸山紘矢	ナノアンテナって何なの？
15:04	T4	森川健太郎	からだ工務店：カブトムシの体の形作り
15:06	T5	松本嘉彦	制御もないのに歩き出す
15:08	T6	豊田直人	おサルさんの頭のホネから分かること
15:10	T7	尾形清一	太陽光の恩恵を全ての人が享受する技術と社会-Solar for All の実現へ-
15:12	T8	光本凌大	頭の中にある世界地図
15:14	T9	大山修一	ごみは地球を救う
15:16	T10	鴻池菜保	サルから学びともに暮らす
15:18	T11	千葉豊	縄文土器に画像生成ＡＩを応用したら
15:20	T12	真常仁志	アフリカでゴミを資源にする

● テーマ：人生を語る、人生を聞く。
日時　　9 月 21 日（土曜日） 13 時～14 時 30 分
会場　　ゼスト御池　河原町広場特設ステージ
登壇者　　岸政彦（京都大学大学院文学研究科）

社会学の中でも「生活史」を中心に、さまざまな人たちの人生の語りに耳を傾けてきた文学研究科の岸政彦さんによるトークセッションでした。

前半の 1 時間では岸さんが「生活史」に取り組むようになった経緯や、ご自身が沖縄戦の聞き取り調査で感じたことなどについて語られました。体験談の核心部分だけでなく、その周縁にある「心にのこる部分」を大事にされる岸さんの姿勢に、来場者は深く引き込まれていました。

後半 30 分は会場を巻き込んだ対話が展開されました。「インタビューする際に意識すべきポイントとは？」「インタビュー対象が寡黙な人の場合、どのように工夫すれば良いか」「語り手が自分で記録するのではなく、聞き手を介在させることの意義とは？」など質問は多岐に渡り、これらに対し岸さんが丁寧に答えていました。

事前に用意した席は満席で、立ち見の方も数多くいる中、みなさん真剣に岸さんの話に聞き入られていました。

当日の様子は総合研究推進本部 YouTube チャンネルにて、ご覧いただけます。
https://www.youtube.com/channel/UCVGo6ssICNEK9IzO1F8NC4A/videos

● テーマ：人々にとっての観光とは（共催：京都市）
日時　　9 月 21 日（土曜日） 15 時 45 分～17 時 15 分
会場　　ゼスト御池　河原町広場特設ステージ

登壇者　　林幸史（大阪国際大学人間科学部）
　　姫野由香（大分大学理工学部）
　　宗田好史（関西国際大学国際コミュニケーション学部）
コメンテーター　　藤木祐介（京都市産業観光局観光 MICE 推進室）
ファシリテーター　　前川佳一（京都大学経営管理研究部・京都先端科学大学経済経営学部）

二つ目のトークセッションでは、研究者の「知」と、市民に寄り添う「官」と、京都市をはじめ実際にその地で生活する「民」の視点を交差させながら、『市民生活と調和した持続可能な観光の実現』をテーマに議論しました。

千年を超える悠久の歴史の中で、文化芸術をはじめとした多くの魅力がある京都。これらの魅力に触れようと京都の街には毎年多くの観光客がやってきます。京都にとって観光は経済面を中心にポジティブな影響を与える一方で、交通混雑や観光客のマナー問題といった課題も生み出しています。観光には「市民」「観光客」「産業」という３つのステークホルダーが存在し、三方良しとなって初めて京都市が公約として掲げる「市民生活と調和した持続可能な観光」が実現されますが、この実現にはどのような課題が挙げられるのでしょうか。また、そもそも人々にとって観光とはどのような価値があるものなのでしょうか。

前半の１時間ではまず「官」の視点から、京都市の抱える観光課題とその対策について藤木さんがお話しされました。その後、姫野さんが地元、大分県を例に「観光」を学術的に捉える視点を、林さんが「観光客」の心理的視点を、宗田さんが京都市の歴史的背景や産業を軸にした観光の多面的な側面を、それぞれご自身の専門に立脚したユニークな視点を紹介しながら、前川さんファシリテーションのもと対話を展開しました。

後半 30 分は質問紙を用いて、会場を巻き込んだ対話を展開しました。「観光客一人あたりの単価が上がることは本当に良いことなのか？」「京都が抱える観光課題とその対策についてどう考えるべきか」「京都での暮らしは観光客にとっては見えにくいものになっているのではないか」といった声が上がり、登壇者によるディスカッションが盛り上がりました。

当日の様子は総合研究推進本部 YouTube チャンネルにて、ご覧いただけます。
https://www.youtube.com/channel/UCVGo6ssICNEK9IzO1F8NC4A/videos

KYOTO UNIVERSITY
京都大学

京都大学アカデミックデイ 2024
開催中!
10:45–17:15
人々にとっての観光とは

2−4．研究者の本棚

■　2−4−1．概要

日時　　9 月 21 日（土曜日） 10 時～21 時
　　※ 展示自体は 9 月 16 日よりスタート
会場　　ふたば書房 御池ゼスト店

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画は、ふたば書房 御池ゼスト店協力のもと、店舗そばの一角にて展示され、気に入った書籍は書店内で購入できるようにしました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

■　2−4−2．研究者おすすめの書籍

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の 4 つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は幅広いジャンルが並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

また、店内にはお茶を片手にトーク◎トーク企画「人生を語る、人生を聞く」に登壇された岸政彦さんの書籍もあり、企画に参加された方の中には会の終了後に書店へと足を運ばれた方もいらっしゃいました。

２−５．附属図書館関連企画

■　２−５−１．「おしえて！あなたのファースト・ブック」企画

日時　　9 月 21 日（土曜日） 11 時～18 時
会場　　ゼスト御池　御幸町広場

京都大学附属図書館にて、2024 年 4 月 1 日 - 6 月 30 日の間、京都大学の新入生・在校生ならびに教職員を対象に実施された、「おしえて！あなたのファースト・ブック」企画（https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/bulletin/1400459）とのコラボレーション企画で、昨年度に続き 2 回目の実施となりました。2024 年度に入り最初に京都大学の図書館で借りた書籍のタイトルとひとことコメントを募集した附属図書館のこの企画、寄せられた 26 の書籍とコメントを映像として一挙公開しました。

■　２−５−２．京都市役所連絡通路装飾企画

日時　　9 月 21 日（土曜日） 11 時～18 時
会場　　京都市役所連絡通路、京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース

京都大学附属図書館にて行われている、貴重資料デジタル化プロジェクトとのコラボレーション企画です。ゼスト御池と京都市役所をつなぐ連絡通路床面が京都市の古地図で、壁面が源氏物語の挿絵で、それぞれ装飾されました。道ゆく人々はかつての京都がどんな姿だったのか、自分が今立つ場所を地図に当てはめながら興味津々で装飾に魅入られていました。

また、「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」15:30 からの部では、ちゃぶ台に特設ブースが設けられ、図書館職員らによるデジタルアーカイブ資料の紹介が行われました。

当日の様子はこちらからもご覧いただけます（https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/news/2024-09-25）。

3．アンケート

3−1．来場者アンケート

■ 3−1−1．アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場された方へアンケートにご協力いただきました。昨年度に引き続き、1）来場された方の属性（知ったところや年齢職業など）、2）滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどを回答いただきました。昨年度と異なる点として、商業施設が多数近接する場所での開催であることを鑑み、お水との交換は廃止し、1）2）両方に回答いただくことでおかえりの際に記念品と交換できるようにしました。また、アンケートシステムを用いてインターネット上で、どの場所からでも回答ができるようにしました。

● 記念品と交換アンケート（A5 サイズ：210×148mm）

京都大学アカデミックデイ2024

記念品と交換アンケート

2024.9.21

本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。
ご記入の上、**受付**までお持ちいただくと、**京都大学アカデミックデイオリジナルグッズ**を差し上げます。※品切れの場合はご容赦ください。

WEB版でも回答いただけます。
受付にて終了画面をご提示ください。

Q1.「京都大学アカデミックデイ」の開催をどこで知りましたか？（複数回答可）
ポスター・チラシを見て ① 京都大学 ② その他大学（大学名: ） ③ 高校（高校名: ） ④ 地下鉄東西線 ⑤ 同窓会 ⑥ ホームカミングデイ ⑦ その他のポスター・チラシ（ ）
ホームページを見て ⑧ 京都大学 ホームページ ⑨ 京都大学学術研究展開センター（KURA）、K.U.RESEARCH ホームページ ⑩ サイエンス ポータル ⑪ その他のホームページ（ ）
その他を見て ⑫ 京都市役所前デジタルサイネージ ⑬ 新聞 ⑭ X（旧Twitter） ⑮ Facebook ⑯ メール案内 ⑰ 同窓会メールKUON ⑱ その他（ ）
その他 ⑲ 知人からの紹介 ⑳ 会場に来て初めて知った ㉑ その他（ ）

Q2. 京都大学のその他のイベントに参加されたことはありますか？（複数回答可）
① 春秋講義 ② 京大ウィークス ③ 京都大学オープンキャンパス ④ ホームカミングデイ ⑤ 京都大学アカデミックデイ（ 過去 回 参加） ⑥ その他（ ）

Q3. 京都大学ホームページや京都大学Facebookサイトを閲覧されたことはありますか？
① よく閲覧する ② 数回閲覧したことがある ③ 閲覧したことがない、知らない

Q4. 科学・技術に関心がありますか？
① とても関心がある ② 関心がある ③ 関心があるともないとも言えない ④ 関心がない ⑤ 全く関心がない ⑥ わからない

Q5. 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？
① はい ② いいえ ③ わからない

Q6. 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？
① 見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。
② 見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。
③ 見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。
④ わからない。

Q7. ご自身について教えてください。（※年齢は 年代 をご記入ください）
① 小学生 ② 中学生 ③ 高校生 ④ 高等専門学校生 ⑤ 京大生 ⑥ 京大以外の大学などの学生 ⑦ 京大教員・研究者（年代 ） ⑧ 京大職員（年代 ） ⑨ その他（ご職業 年代 ）

Q8. お住まいはどちらですか。
① 京都市内 ② 京都府内 ③ その他（ 都・道・府・県） ④ 海外（国名: ）

Q9. 本日の「京都大学アカデミックデイ」の滞在時間はどの程度でしたか？最も近いものを1つだけお答えください。
① 1時間未満 ② 1時間～2時間 ③ 2時間～3時間 ④ 3時間～4時間 ⑤ 4時間～5時間 ⑥ 5時間以上

Q10. 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？

Q11. 本日の「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」の中で、あなたが良かったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？
例：「ワクワクしたで賞」、「ぱくの話をよく聞いてくれたで賞」、「研究のウラ話を赤裸々に話してくれたで賞」、「これからも研究をがんばってほしいで賞」など

出展番号（例：G1、ちゃぶ a1、など、出展番号はパンフレットを参照） 賞の名前

賞
賞
賞

Q12.「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。
良かった点 悪かった点

ご協力、ありがとうございました。

Dialog with the Public

● 記念品（マスキングテープ）

Dialog with the Public

■　3－1－2．年度ごとの参加者層の違い

アカデミックデイ 2024 は、初めて街中で開催された昨年度に引き続きゼスト御池で開催されました。昨年と今回の結果とでどのような違いがあるのか、また過去に時計台やロームシアター京都で開催された時との違いにも焦点を当てながらアンケート結果を集計しました。

● 参加者数／アンケート回答者数

・来場者　990 人以上 ／ 回答者数　406 人（回収率　41%）

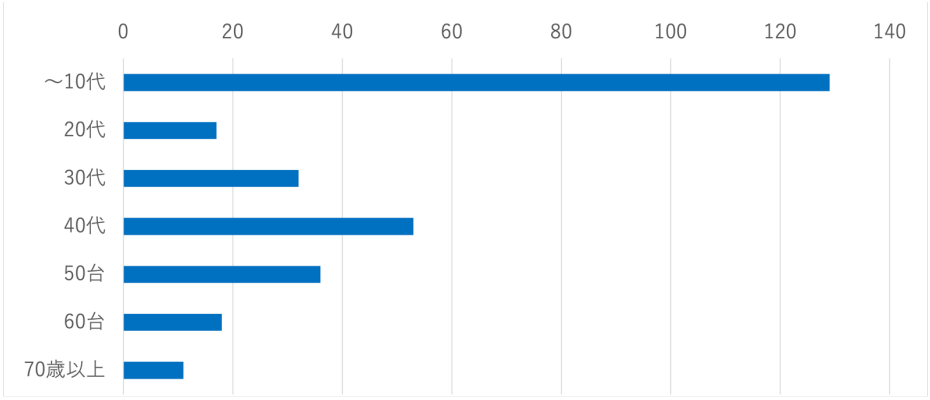
※　出入口が複数あり、正確な来場者数は不明

※　インターネットからの回答者数は 75 人

アンケート回収率は昨年度より少し上がりましたが、学内で開催されていた頃から比べるとまだまだ低い結果となりました。「回答する項目が多すぎる」という声も寄せられていますので、回答項目も含め次年度以降の課題です。

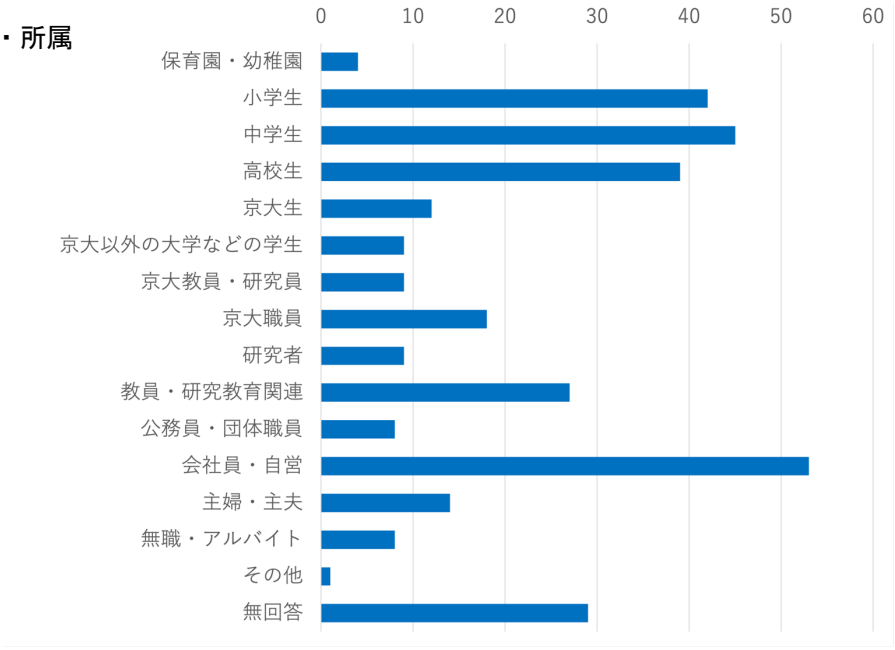
● 参加した人はどのような方だったのか？

・年齢層



（単位：人）

・所属

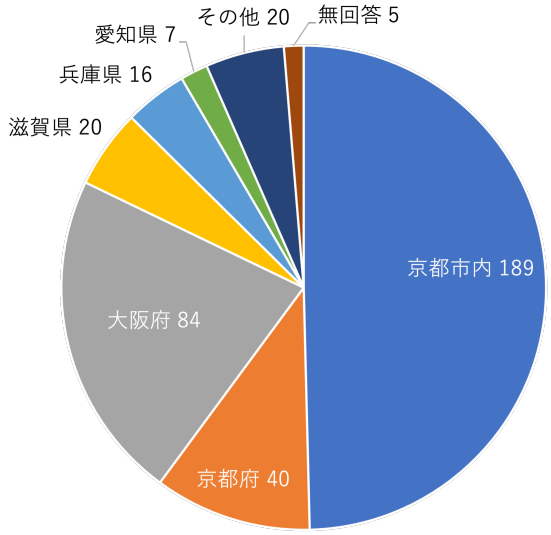


（単位：人）

例年同様、10 代が最も多い結果となりました。内訳は高校生が多かった昨年と異なり、小中学生の参加者数が多くなっています。小中学校へは積極的に広報をしてはいないので、なぜ増えたのかはっきりとした原因は不明です。それ以外は昨年と同様の参加者層でした。

・住まい

関西圏の方が 9 割超を占めたのは、例年と変わらない傾向です。

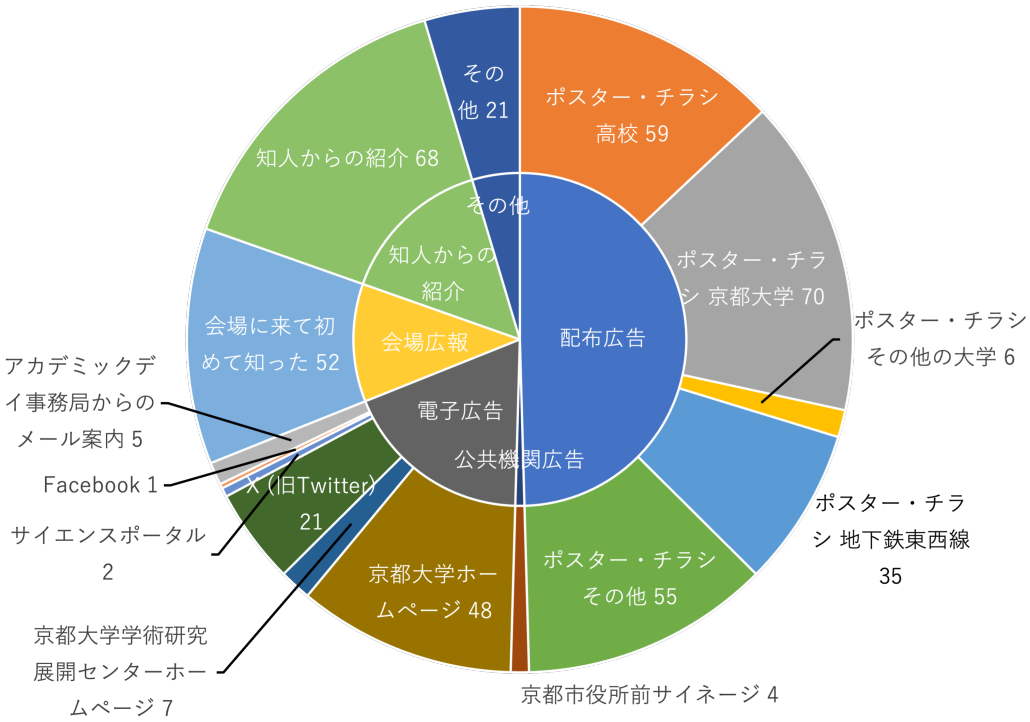


（単位：人）

※ その他内訳：石川県３、三重県２、岐阜県２、静岡県２、奈良県１、和歌山県１、北海道１、宮城県１、埼玉県１、東京都１、千葉県１、香川県１、愛媛県１、山口県１、福岡県１

● 参加者 ／ 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

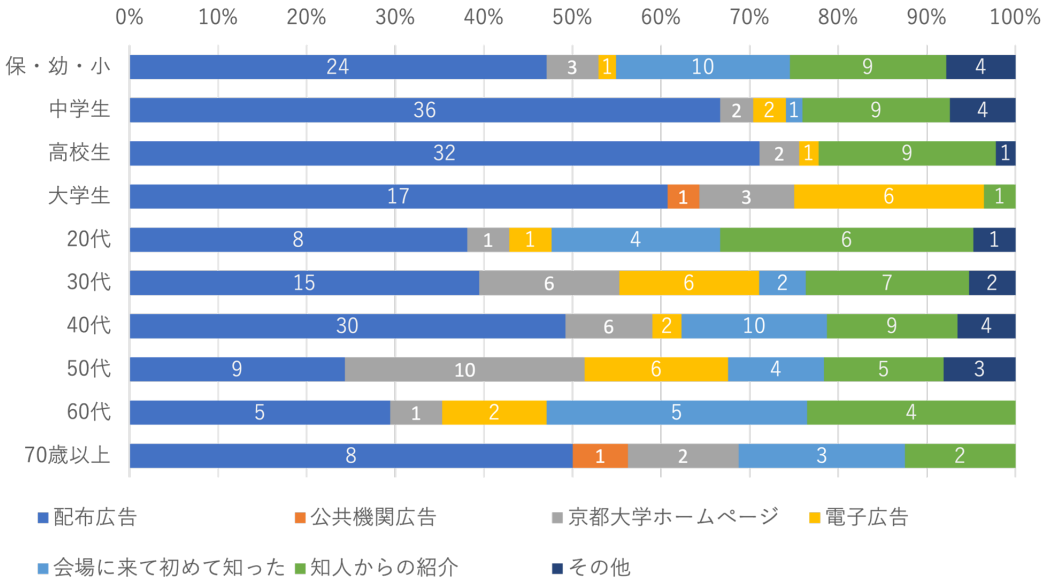
・開催を初めて知ったところ（全体）



（単位：件）

全体の傾向としてはポスター・チラシの効果が最も大きく、次いで知人からの紹介と続き、インターネット経由で知ったという人は 2 割程度の結果となりました。これはゼスト御池で初めて開催した昨年およびロームシアター京都で開催した一昨年と同じ傾向です。次いで、会場で初めて知ったと回答された方が多く、これは昨年と同じ傾向です。次のグラフに示されるように、高校生はチラシで知った人の割合が 70%に達しており、京都市教育委員会を通じて京都市内のいくつかの高校にチラシを配布した効果が見えています。中学生についてもチラシで知った人の割合が高くなっており、中高一貫校へのチラシ配布の効果かもしれません。

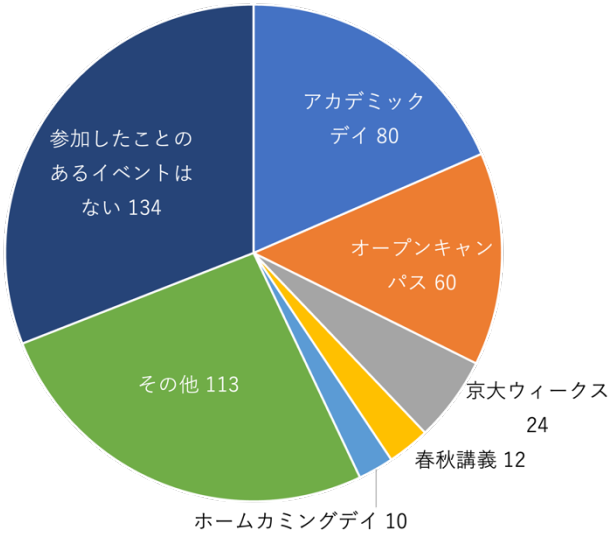
・開催を初めて知ったところ（年代別 ※いずれも複数回答を含む）



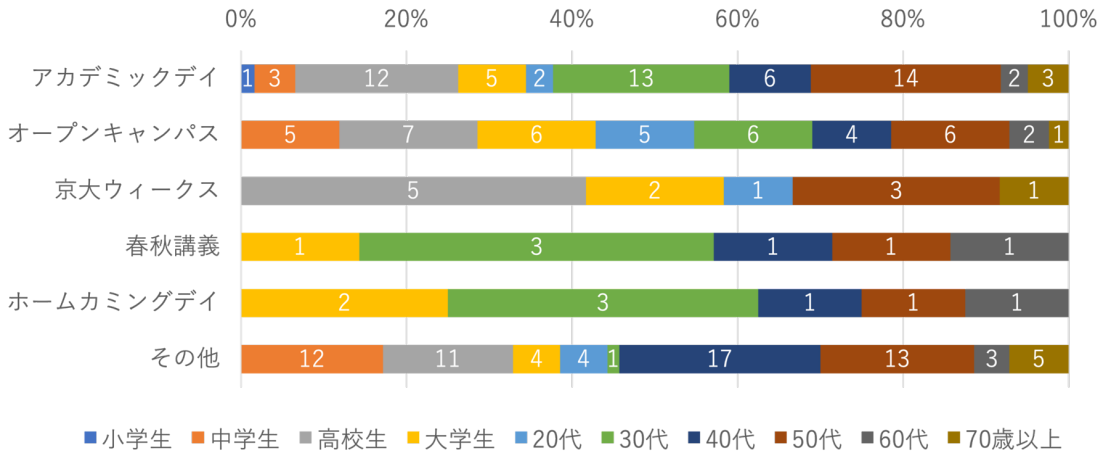
（単位：人 ／ 年齢不明の人は除く、保・幼・小：保育園・幼稚園・小学校の合計、以下同じ）

● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）



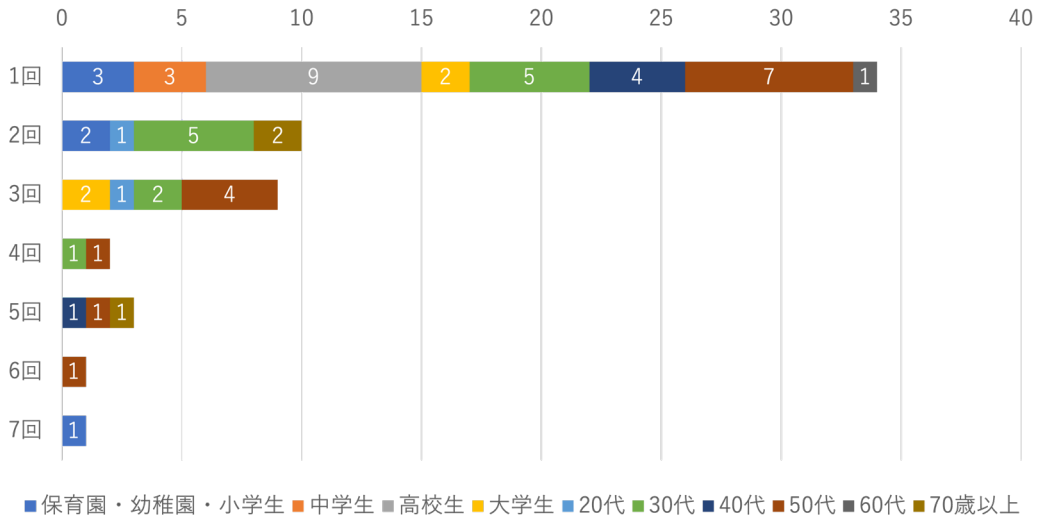
（単位：件）



（単位：人 ／ 年齢不明の人は除く）

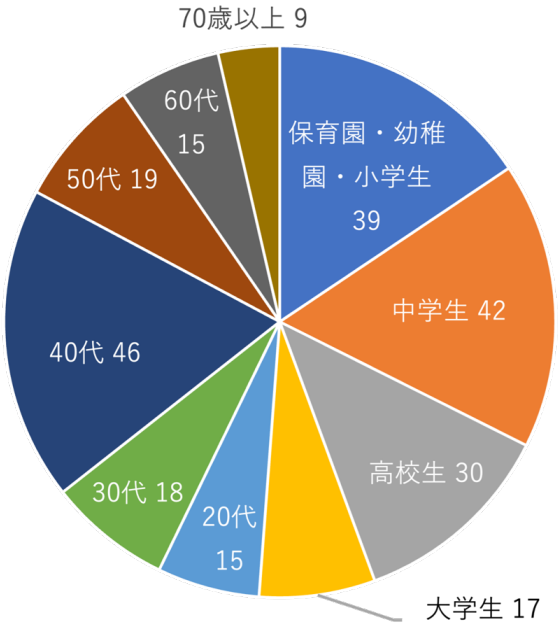
アカデミックデイに参加したことのある人の割合は例年と大きな変化はありません。一方、今年は「その他」のイベントに参加したことがあると答えた人の割合が大きく、全体の約 1/4 に達しています。「その他」と答えた人の中には、11 月祭、京大博物館の各種イベント、入試説明会、部局主催の講演会などが含まれていました（未回答も多数あり）。
アカデミックデイのリピーターの年齢構成と、初めて参加した人の年齢構成を比べると、高校生では過去に 1 回参加したことのある人が全体の 2 割を越え、30 代と 50 代では 1 回以上参加したことのある人が 4 割以上とリピーター率が高くなっています。

・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？



（単位：人 ／ 年齢不明の人、今回が初参加でカウントを 1 とした人は除く）

・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

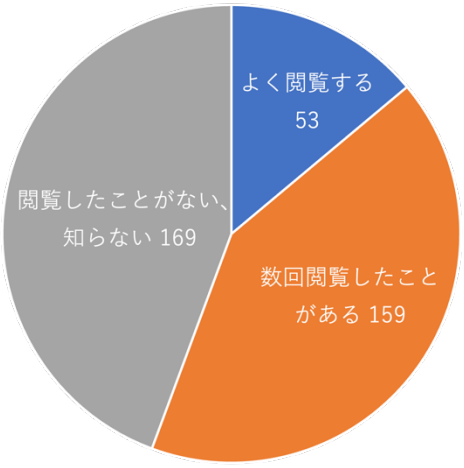


（単位：人）

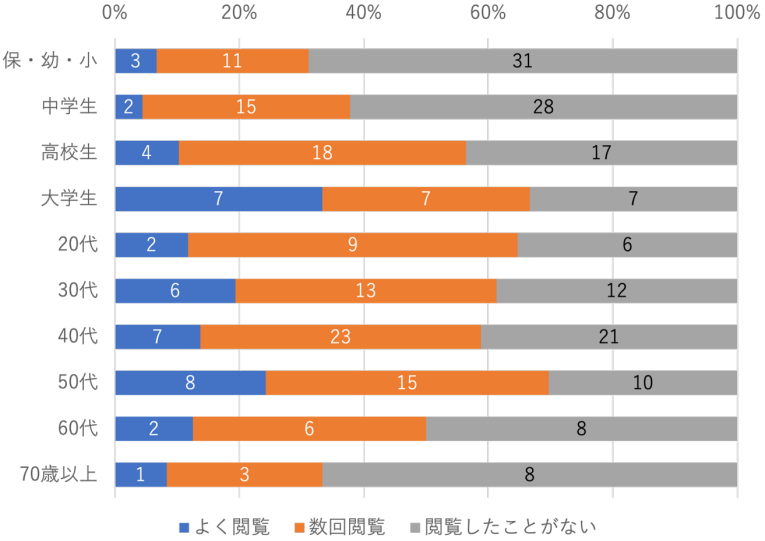
● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

一昨年までは「数回閲覧したことがある」層が最も多かったのですが、昨年から「閲覧したことがない、知らない」方が最も多くなり、今年も同様の傾向でした。ゼスト御池で開催するようになったことで、京都大学に関心が必ずしも高くない人が参加してくださるようになっている可能性があります。

・全体



・年代別



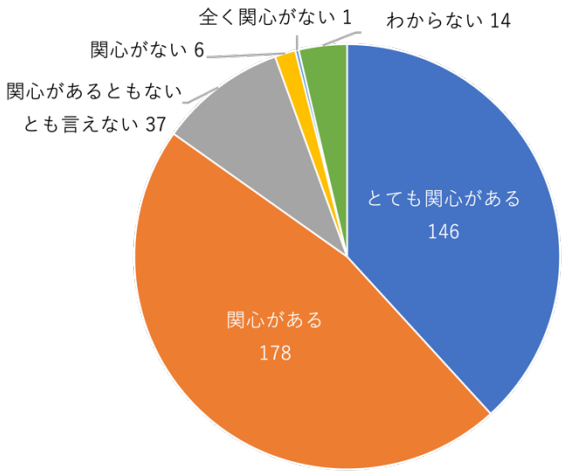
（単位：人）

● 科学・技術に関心がありますか？

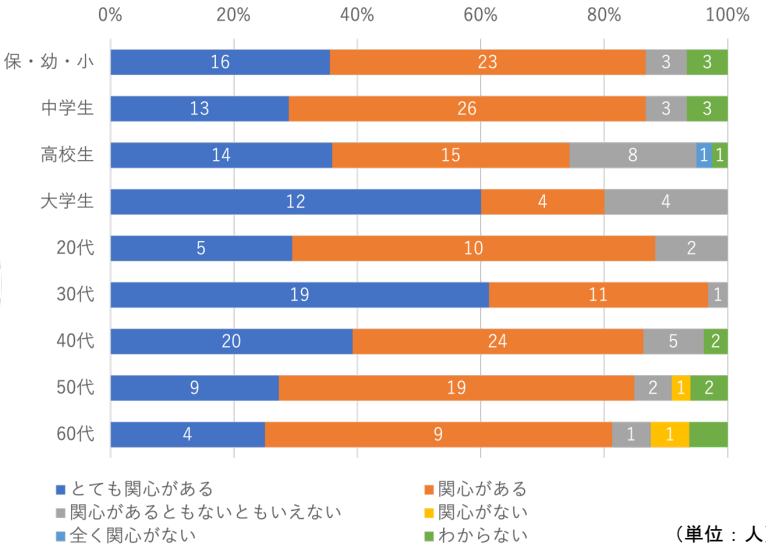
科学・技術への関心に対する回答は、全体として見ると、昨年および時計台で開催されていた時と同様、「関心がある」と答えた人が最も多い結果となりました。情報の積極的な探索についても、例年と同じ傾向が続いています。

探している情報を見つけられたか、の問いについては昨年と同様の傾向ですが、若干「見つけられたけれどその内容を理解することは難しい」人の割合が増えています。

・全体



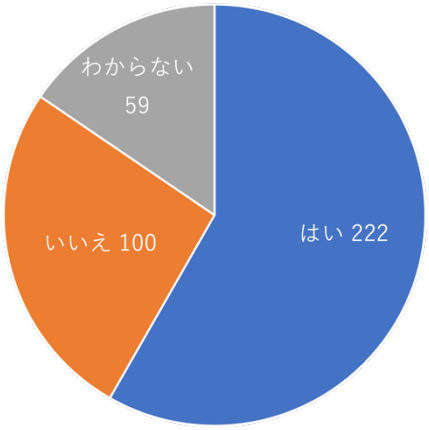
・年代別



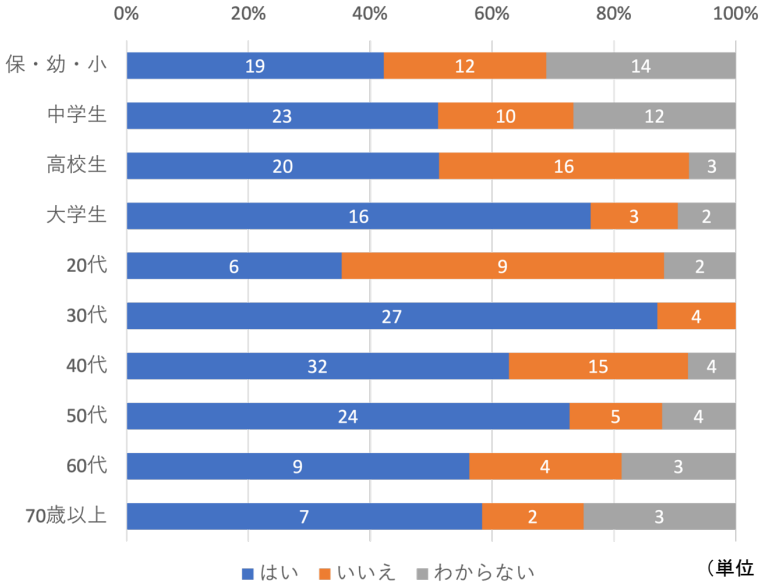
（単位：人）

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

・全体



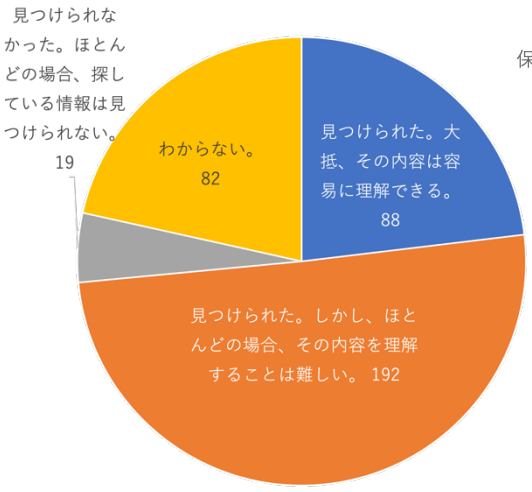
・年代別



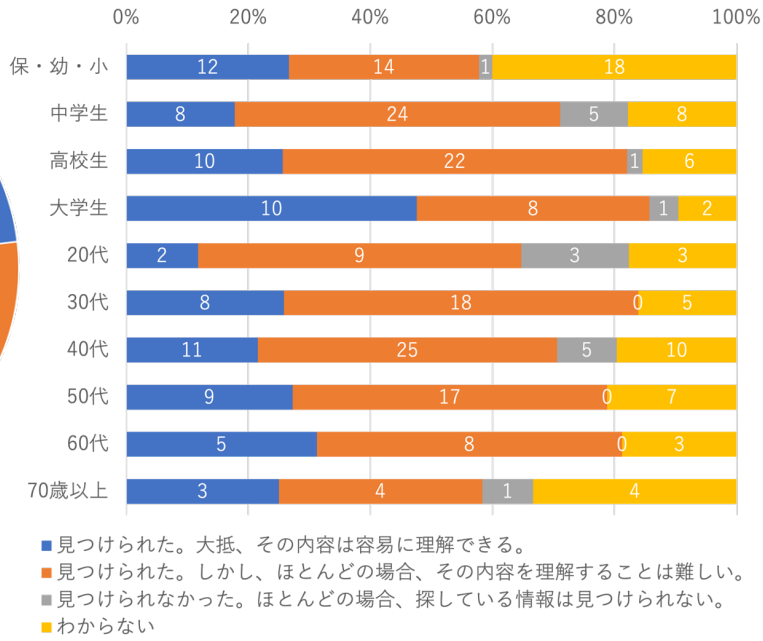
（単位：人）

● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・全体



・年代別

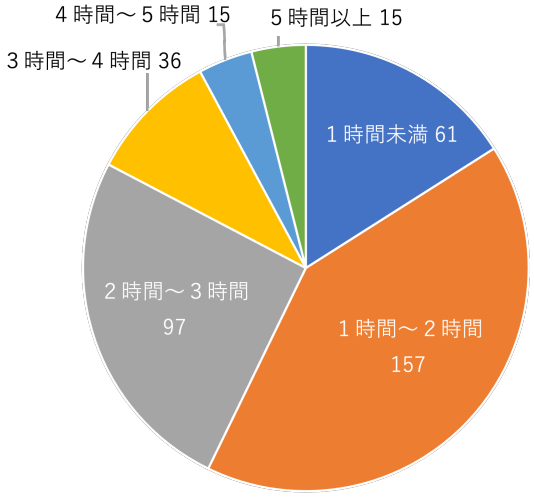


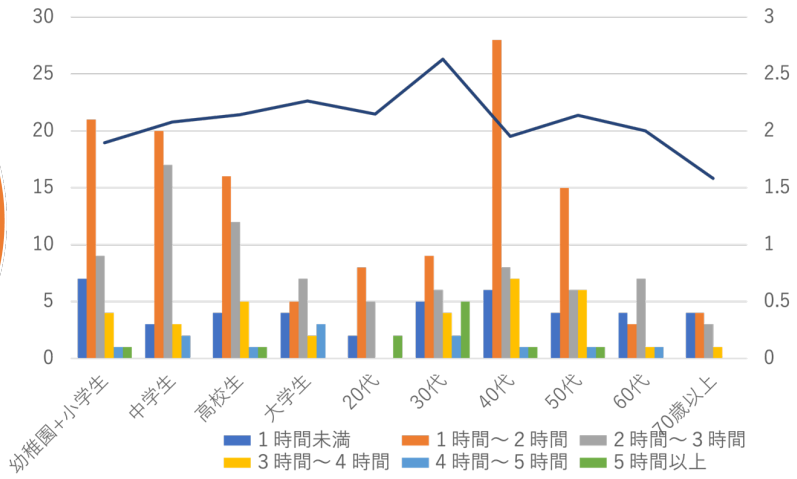
（単位：人）

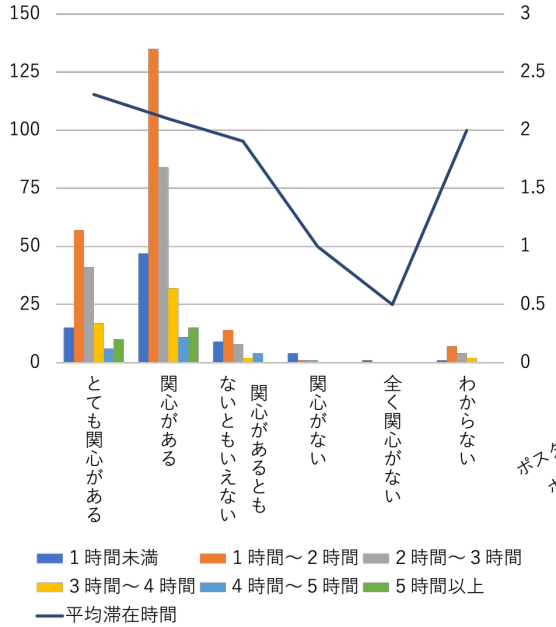
■ 3－1－3．イベント参加後のアンケート結果

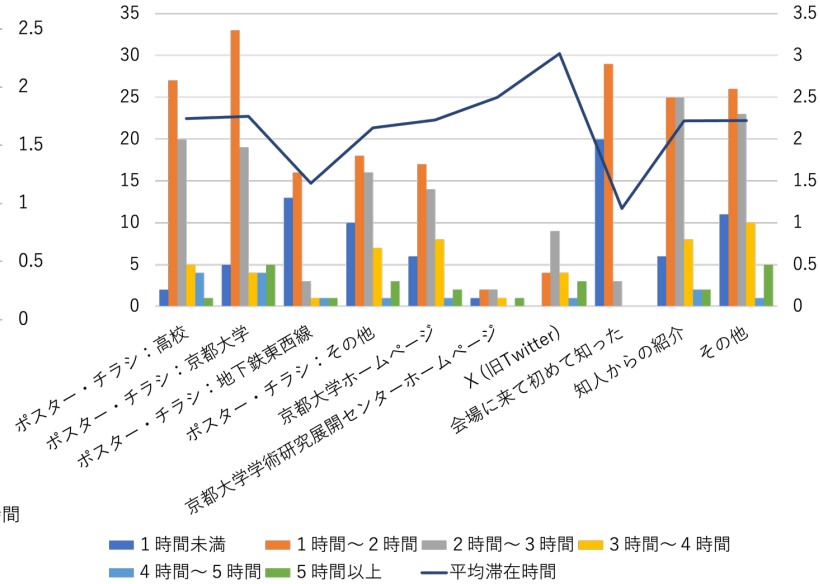
● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

全体の平均滞在時間は 2.1 時間で昨年と同じです。年代別に見ると、滞在時間が長い方に最も平均から離れているのは 30 代、短い方に最も離れているのは 70 歳以上という結果になりました。昨年滞在時間が長かったのは中高生と 50 代で、今回とは異なる結果でした。ただし、平均からのズレは昨年も今年も各年代で 0.5 時間以内に収まっています。科学技術への関心度と滞在時間の関係を見ると、関心が高いほど滞在時間が高い傾向があることがわかりました。「アカデミックデイをどこで知ったか」という質問と滞在時間の関係では、滞在時間が長い方に最も平均から離れているのは X（旧 Twitter）で知った人、短い方に最も離れているのは会場に来て初めて知った人でした。X で知った人の平均滞在時間は 3.0 時間と平均より 0.9 時間長くなっています。SNS は参加人数を集める効果はポスターやチラシよりも低いかもしれませんが、より関心度の高い人を集めることには効果があるのかもしれません。





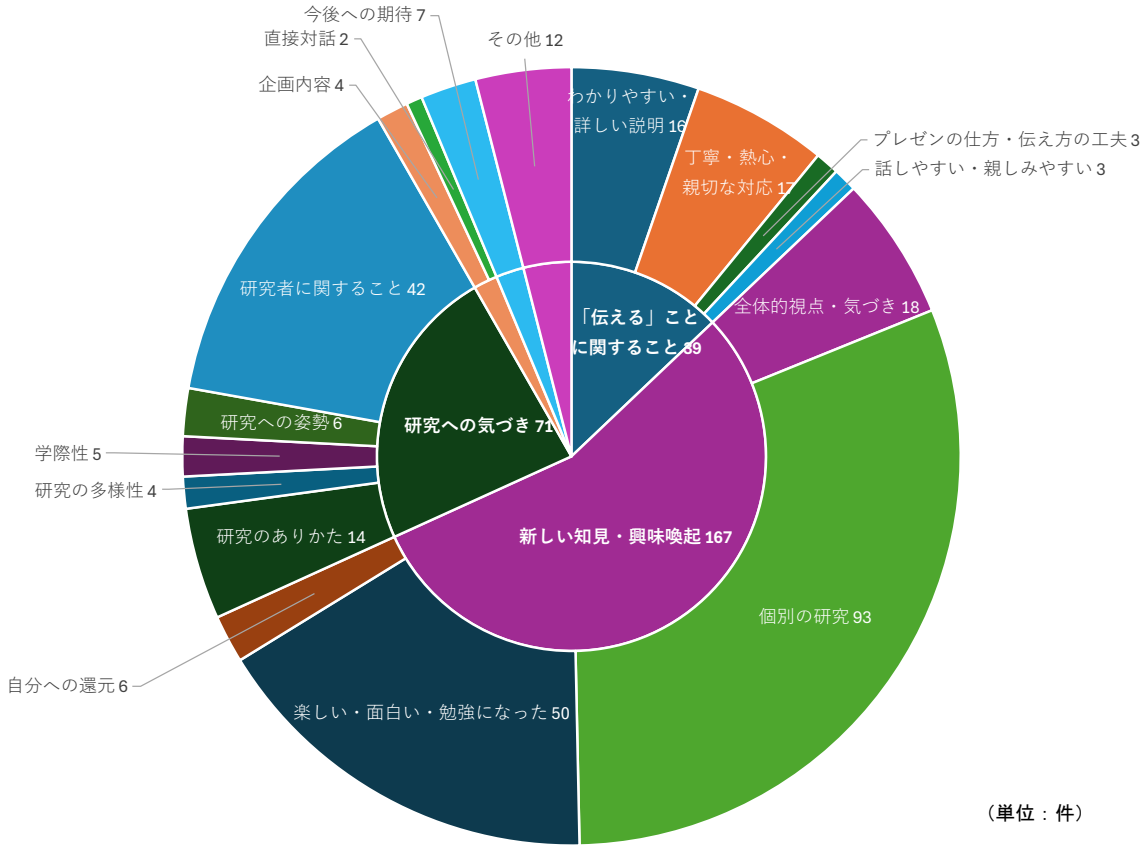




※ 平均滞在時間は、「1 時間未満」を 30 分、「1 時間～2 時間」を 1.5 時間、「5 時間以上」を 5.5 時間などとして算出。全体の平均滞在時間は、2.1 時間。無回答を除く。

※

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？



・主な意見（抜粋）

〈「伝える」ことに関すること（42 件）〉

わかりやすい・詳しい説明（16 件）

- みんないきいきとそれぞれわかりやすく話してくれた。こちらのどんな質問にも的確に答えてくれた。
- 専門分野に関わる周辺の知識についても対応してもらえて、知識の深さのみではなく、幅広さも良かった。
- みなさんの説明がすべて論理的でなんでここにつながったとか、どうしてこの結果がでて、それをどう使うのかとかを私のような素人にも分かりやすく説明してくださったことです。
- もうちょっとゆっくり話してほしかった。

丁寧・熱心・親切な対応（17 件）

- どの方も非常に熱心にお話をして下さりました。今まであまり興味のなかった分野も熱意をもって語っていただくと、聞く側も楽しくなりますね。

プレゼンの仕方・伝え方の工夫（3 件）

- 持ち帰ることができる資料を用意してくださって理解しやすかった。

話しやすい・親しみやすい（3 件）

- 積極的に来場者に説明しようとしてくれていて、大学が身近に感じやすいのでは？と思った。
- こちらが質問しないとお答え頂けない場合もあり、できれば、積極的に説明して頂きたい。（こちらは興味はあれど素人なので）

〈新しい知見・興味喚起（166 件）〉

全体的視点・気づき（18 件）

- 科学や研究によって、視野がすごく広がると思いました。

- 基礎研究のような内容でも様々な活用方法を想定していて、アイデアを求められていると感じた。
- 世の中にはいろんな学問があるのだなと発見になりました。
- 知らない世界を認識すること、知らないことを知っていくこと、どれもおもしろい！！と思いました。
- 言葉として知っていることにも、まだまだ未知と学びのタネがあるということに気づかされました。
- 費用対効果の部分は度外視されているのを多く感じた。
- コロナ前に参加して以来で訪れました。各研究分野がそうこうしているうちにも進化を遂げているのだなと思いました。

楽しい・勉強になった・面白い（50 件）

- 気になったことだけでなく、さらに発展させて、色々なことに応用できるようになっていて面白かった。
- 研究者が調べていたことが意外と最近身近なことだったので理解しやすかった。面白かった。
- 様々な分野の色々な研究があるのを肌で感じられて楽しかったです。
- 昨年も来ましたが、またこんなに色んなことを研究されていると知りました。
- 難しいのかな？と思ったことが話しを聞いてみると意外と面白い。
- ついつい、いろいろ質問してみたくなる内容ばかりでした。 大学の研究者の方がどんなことをしているのか少し知ることができ、より興味がわきました。
- 幅広い知識に基づいた話が大変おもしろく、時間のたつのを忘れた。
- とにかく何を聞いてもおもしろい！お話してもらったことの本を探して読みたいしイベントも行ってみたい。

自分への還元（6 件）

- たくさんの人たちがあきらめずがんばっていると知ったので、私もこれからがんばろうと思いました。

〈研究一般への気づき（70 件）〉

研究のあり方（14 件）

- 身の回りのことを逆手にとって研究対象にしていることに感動しました。
- いろいろな社会課題を解決するため研究がされていることを知りました。
- 小さなことでも研究しつづけることが大事だと思う。
- 最近はデータを数字で示さないとなかなか受け入れられないかもしれないなど、学問分野によって(一般的なものもあると思いますが)まだまだ知らない「常識」がたくさんあること。
- 長い間研究されている分野でも、まだ分かっていないことが沢山あるということ。
- 発表する大切さ。

学際性（5 件）

- 医学と統計学、土壌学と地域コミュニケーションなど、異分野の組み合わせにより研究の成果が相互に発展する可能性があるということ。
- 研究の内容が、他の研究に結び付くかもしれないということ。

研究への姿勢（6 件）

- 世界の基礎を追求することの美しさ。
- 一つのことに没頭できる集中力が大切。 興味深い関心の強さなど、自分がやりたいと思う気持ちにかかっているんだと思う。
- 解の得られていない課題に前向きに取り組まれている姿勢のすばらしさ。

研究者に関すること（42 件）

[生き生き・楽しそう（8 件）]

- 一個のことを極めた人はすごい楽しそう
- 皆様、楽しそうに説明されている姿が印象的でした。 アカデミックな世界が身近に感じられました。

［真剣・夢中・熱意（14 件）］

- 研究したいものをしっかり決めて、のめり込めるところがすごいなと感じました。
- みなさん、輝いた目でうれしそうにお話をされているのが印象的でした。

［考え方・思い・モチベーション（5 件）］

- 研究したいことから、何かできないかと物事をつなげようとすることがステキだと思いました！
- 知的好奇心とチャレンジ精神に溢れている。

［その他の研究者の印象（8 件）］

- 研究者というと自分にとって関わることがなく遠い存在と感じていたが、 どの研究者の方も気さくにお話ししてくださって身近かな存在に感じられた。

〈企画（9 件）〉

直接対話（2 件）

- 実際にお話しできる貴重な機会です！楽しかったです！

企画内容（4 件）

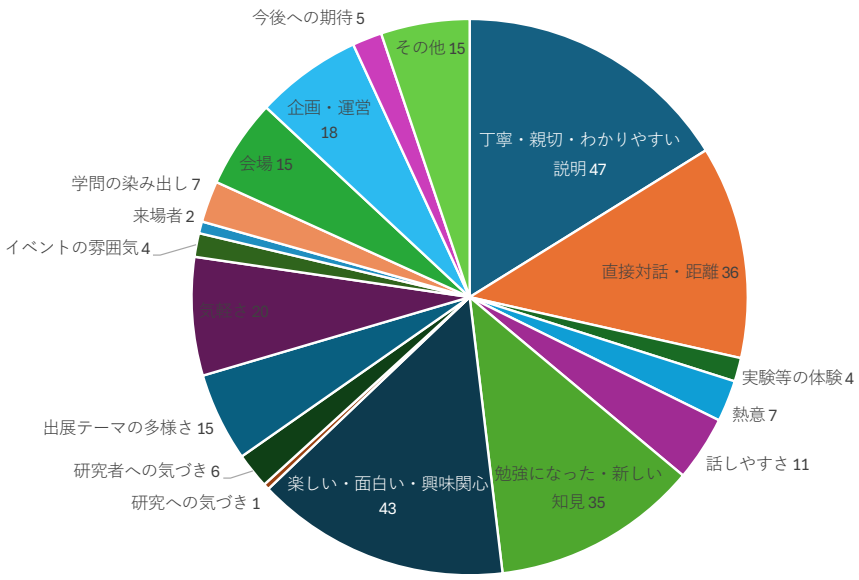
- 子どもを連れていけるイベントがあることを知れた。
- 他業種、多年代との交流の場を作ってくださり、ありがたいです。
- パネルを通してお話できる、もしくは、お話を聞くことができるのは、ハードルが低いので楽しいです。
- 社会科学系が少なかったかも。

〈今後への期待（7 件）〉

- 研究が未来につながっていくことが希望になりました。
- アカデミックデイで発表していたまだ、実用化されていない研究が実用化できてほしいと思いました。
- 京大の研究の素晴らしさを実感できました。 日本の未来は明るいと思いました。

- 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉



（単位：件）

・主な意見（抜粋）

〈丁寧・親切・わかりやすい説明（47 件）〉

- 皆様話し方が上手で、一見難しそうなテーマでも、私たちが分かるように、くだいて話してくれて分かりやすかった。
- アカデミックデイ用にサンプルや模型など準備されている研究者が多く、わかりやすく説明して下さっていました。

〈研究者との直接対話・距離（36 件）〉

- 一対一だから話しやすい。
- 普段、研究者さんたちとこんな風に話せることはないので、良い機会を頂きました。
- 研究者さんと直接話せたのがよかった。 研究のおもしろさを聞けた。
- 一般の方と研究者がオープンに会話でき、生活と学術の交流する場がつくられていたこと。

〈熱意（7 件）〉

- 京大の熱量を感じた。
- 様々な題があり、それについて本気の説明をしてくれて面白かった。

〈話やすさ（11 件）〉

- 近い距離でフランクに話せた点。
- ちゃぶ台など、発表者との距離が近く、非常に話が入ってきやすかった。

〈勉強になった・新しい知見（35 件）〉

- 多様な「語りたい」に出会えました。 これからの生き方にも影響がある内容にふれられました。
- ニュースなどで聞いたことがあるが詳しく知らないキーワードや分野、またはまったく知らなかったキーワード、分野について知る機会が得られてよかった。 どんな研究か進められているのか知れるきっかけになった。

〈楽しい・面白い・興味関心（43 件）〉

- 興味がわき、関心をもてたので、これからもっと調べてみたいと思えました。
- 色々な分野の話をこんなにたくさん聞ける機会はなかなかないので楽しかったです。
- とても楽しかった！最前線に気軽にふれられた。
- ふつう聞かないテーマでもシールほしさに聞いてみる。 聞いてみると面白い。興味あることは即に面白い。もっと深堀して聞きたいと思う。 おしゃべりが広がって楽しい。
- 大人になっても勉強は楽しい！！と思った。
- それぞれの内容が専門的で好奇心が非常にくすぐられたこと。

〈研究への気づき（1 件）〉

- 研究者の方々が取り組まれている研究が意外に自分たちにとって、近い間からきているのを感じることができました。

〈研究者への気づき（6 件）〉

- 研究者や学生さんが楽しみながら研究をされている姿勢が伝わってきて、私も楽しく仕事に臨みたいなという気持ちになりました。
- 一般人に対しても惜しみなく研究対象への愛情いっぱいに話して下さる研究者のみなさんありがとうございました。

〈出展テーマの多様さ（15 件）〉

- 色んな分野の研究があって見ていて飽きなかった。
- 学会と違って異なる分野を同時に聞けること。

- 展示内容が様々で各方面で勉強になる点。

〈気軽さ（20 件）〉
- 気軽に立ち寄りお話の聞ける点
- 大学での研究にこんなに手軽に子供と一緒に触れることができてとても楽しかったです。
- 分野にとらわれず、気軽に立ち寄れること。
- 予約なしで気軽にこれた。
- 街中で開催されていると敷居が低く感じられて参加しやすい。

〈イベントの雰囲気（4 件）〉
- アットホームな雰囲気で研究者の方と距離が近く、とてもたのしかったです！
- 大変活気があって良かったです。
- 賑やかでとても楽しかった。

〈来場者（2 件）〉
- 出席者（一般参加者）の方々が積極的であったことが印象的でした。
- 子どもだちが目をキラキラさせて楽しそうにしている！

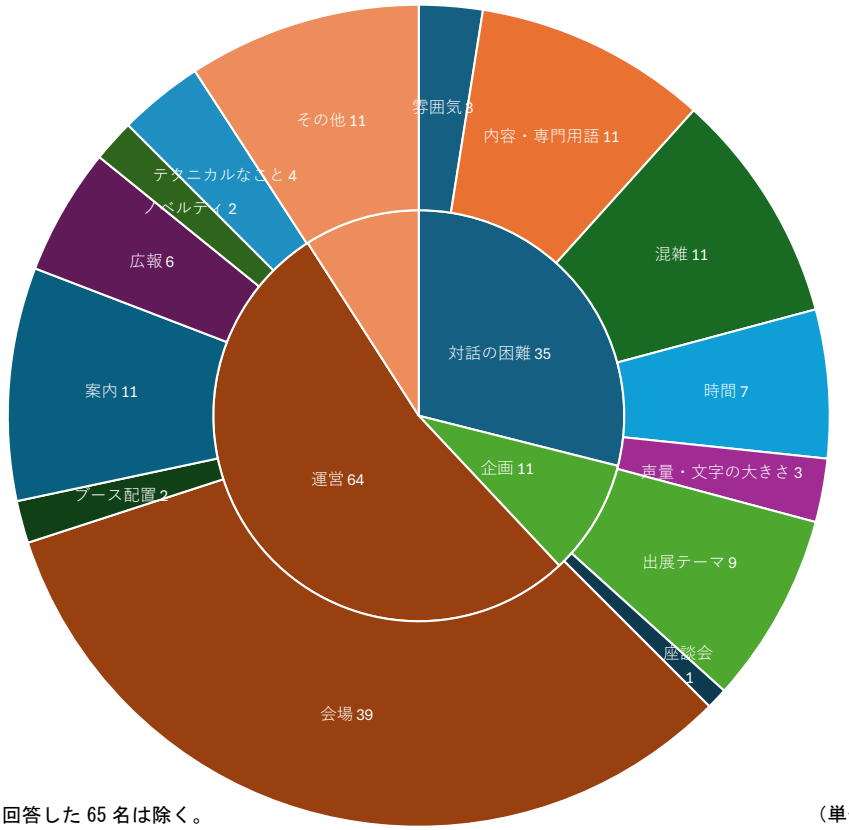
〈学問の染み出し（7 件）〉
- 地域に根差した形でオープンにやっていて良かった。
- 京大に行っているみたいだった（小 2 息子）。
- 京大に興味を持ちました。
- ひらかれた大学になっていると感じる。
- 街中で開催することで、SNS にはない、研究に関することが街に漏れ出していく感じがいいなと思った。

〈会場（15 件）〉
- 買い物ついでに楽しめるところ。
- 地下街という場所もなんとなくワクワクする。
- 市民が多く通る場所で開催することで、初めからその目的で来る人以外の関心をひけた。

〈企画・運営（18 件）〉
- ポスター発表に限らず、ゆったり話せるちゃぶ台形式や、講演形式など、いろいろなアプローチをしているのは良かったと思います。あと、オリジナルグッズが可愛かったです！
- ポスターセッションで分かりやすかった。
- 子どもにとってシール集めもナイスアイデアでした！
- やってくれたこと。双方向性。
- 青いバッグを配布しているのは、目につきやすくて興味がもてるので良いと思いました。 ポスターを貼っているパネルが見やすかったです。
- 分野ごとにまとまっている点。
- まさにアカデミックだった。同時にたくさんの研究者の居るスペースで過ごせるのが良い。
- ちらしデザインはとてもかわいい！！
- システムが工夫されていて、研究者の方とも他の来場者の方とも、とても対話がしやすかったこと。
- ブース紹介ピッチプレゼンが興味を引いた。

〈今後への期待（5 件）〉
- 希望につながる。
- 人のためになる研究が多く、iPS などは早く実用化されたらよいなと思う。
- 今後も参加しようと思いました。

〈改善点〉



※ 特にないと回答した 65 名は除く。　　（単位：人）

・主な意見（抜粋）

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：内容・専門用語（11 件）〉

- 内容が難しく、よく分からないことも多かった。
- 一般向けでこれから研究しようかなとして少し前提知識がある人への対応が少し足りてないこと。
- 話があまりまとまってなくだらだら話しがつづいていた。
- その後のテーマをリアルに描けているとさらによいのではと思った。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：雰囲気（3 件）〉

- ちゃぶ台～、研究者と立ち話、それぞれ、遠巻きにみているのに気がついて積極に説明してくださるところもあれば、顔見知りとおぼしき人と話し込んでいて入りづらいブースも多々あった。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑（11 件）〉

- 人がたくさんいて落ち着かなかった。
- 混雑しているブースは後回しにせざる負えないところ。
- 人が多く、なかなか自分の番が回ってこなかった。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（6 件）〉

- 一日で見回れない。二日間してほしい。また参加したいです。
- 時間がないのでサクッと説明してと言ってるのにえんえんとしゃべられてこまった。説明ききたい人、ざっくりでいい人を見きわめてほしい。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：声量・文字の小ささ（3 件）〉

- 声が聞き取りにくいことがあった。
- ポスターの字が小さい。
- 資料が少し読みにくかった。

〈企画に関すること：出展テーマ（9 件）〉

- 去年より少しバラエティに欠ける気がしました。わたしは法学に興味があるのですが、もう少し文系も多いとうれしかったです。

〈運営に関すること：会場（39 件）〉

設備（3 件）

- ゼストは各スペース間がはなれているので移動がつかれる。
- 楽しくてずっと立ちっぱなしだったので、イスがもう少しあるとうれしい。

会場の気温（27 件）

- エアコンがもう少し効いていてほしい。
- 会場が地下とはいえ暑かった。 説明してくださる先生や学生さんが大変そうだった。

〈運営に関すること：ブース配置（2 件）〉

- 狭かった。

〈運営に関すること：案内（11 件）〉

- パンフがわかりにくい（特に地図）。 見開き 1 枚でパっと見てわかるようにしてほしい。P4,5 を開いても P10-13 とか見ないと何のブースかわからない。
- ちゃぶ台の部屋に行くためのルートがわかりにくかった。
- 図書館の展示場所がわかりにくかった。
- 出展ブースがどこか直感的に分かりづらかった。

〈運営に関すること：広報（6 件）〉

- もっと宣伝すれば良いのにと思いますが、今以上に混むと困るな。
- たまたま通りかかって知ったのですが、もっと宣伝してもらっても良かったのではないかと思いました。

〈運営に関すること：ノベルティ（2 件）〉

- 説明中「シール下さい」と言ってシールだけもらって行く人もいて不公平だと思った。

〈その他（11 件）〉

- 各ブースの持ち帰り可能な資料を増やして欲しい。
- 3 歳と 7 歳の子供にもアンケートを渡されましたが、回答が難しいと思います。回収率が悪くなるばかりなので、そもそも子供にはアンケート配布しない方が良いのではないでしょうか。

３−２．出展者アンケート

■　３−２−１．アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

・ウェブフォームから回答
・連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
・アンケート受付期間：13 日間

〈設問〉

・問 1.　「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）
［選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない］
（a）専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
（b）専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
（c）自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
（d）自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
（e）他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
（f）研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
（g）参加は日々の研究活動の負担となった
（h）機会があったらまた参加したい
（i）このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
（j）他の研究者との交流の機会になった

・問 2.　来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or　必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 3.　来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 4.　「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
4-1【良かった点】
4-2【改善点/課題】
4-3【今後に向けた提案】

・問 5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・役職（回答必須）
［選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他］

・研究分野（回答必須）
［選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系］

・お名前（回答必須）

・ご所属（回答必須）

・ご連絡先（E-mail）（回答必須）

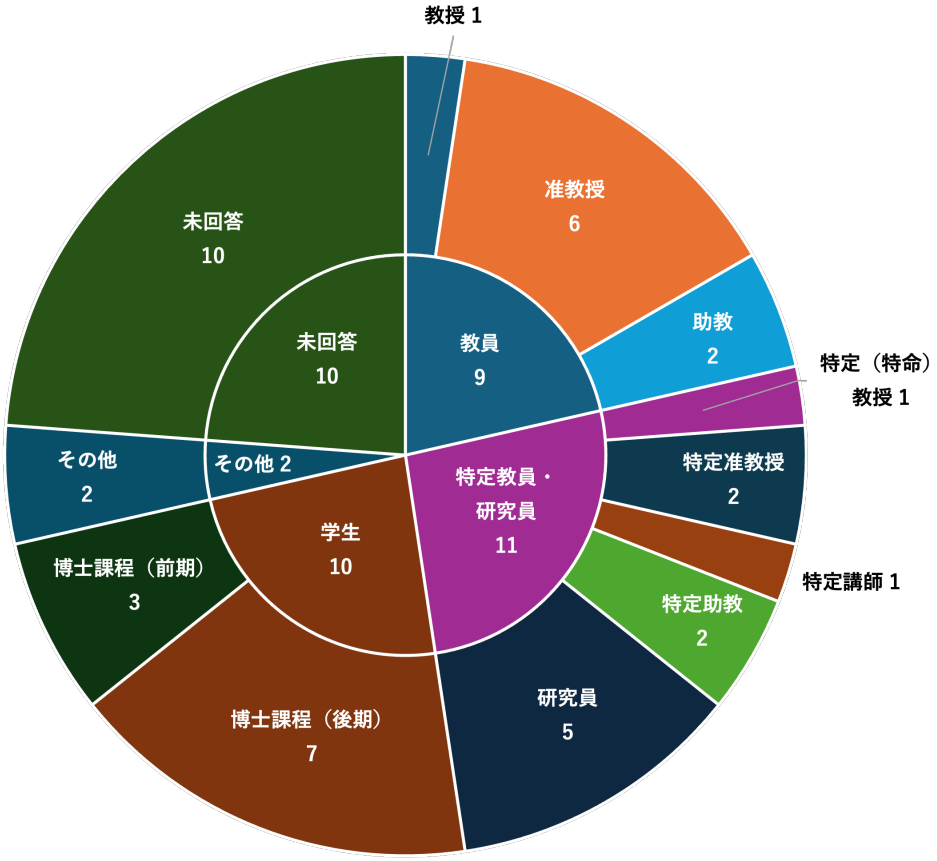
・出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名（または学年）については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。
※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載したい方がいらっしゃる場合、氏名／ご所属／職名または学年をご記入ください。

■ 3－2－2．「出展者アンケート」の結果

出展者数　126 人（のべ数）
回答者数　42 人（回収率　33.3%）

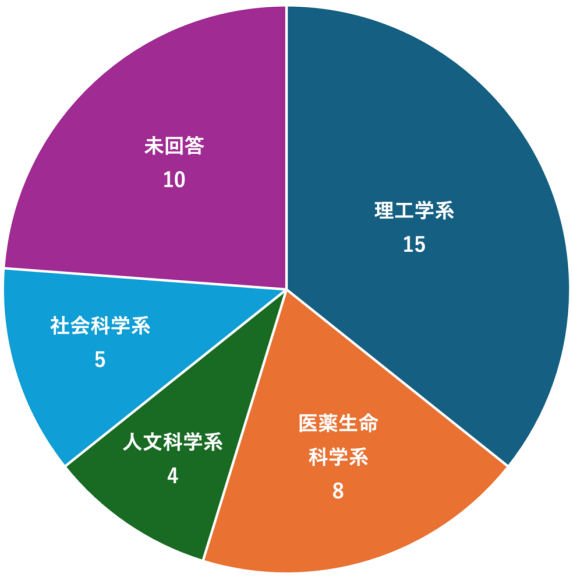
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



（単位：人）

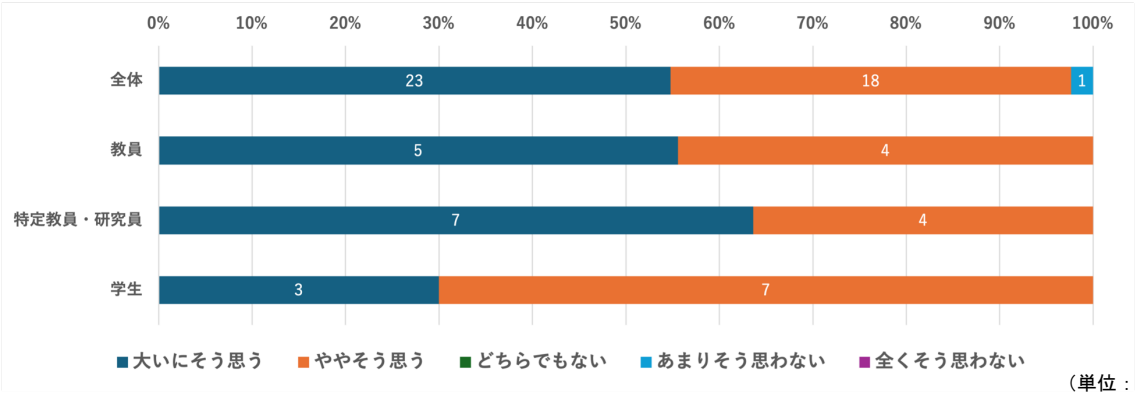
・専門分野による回答者属性



（単位：人）

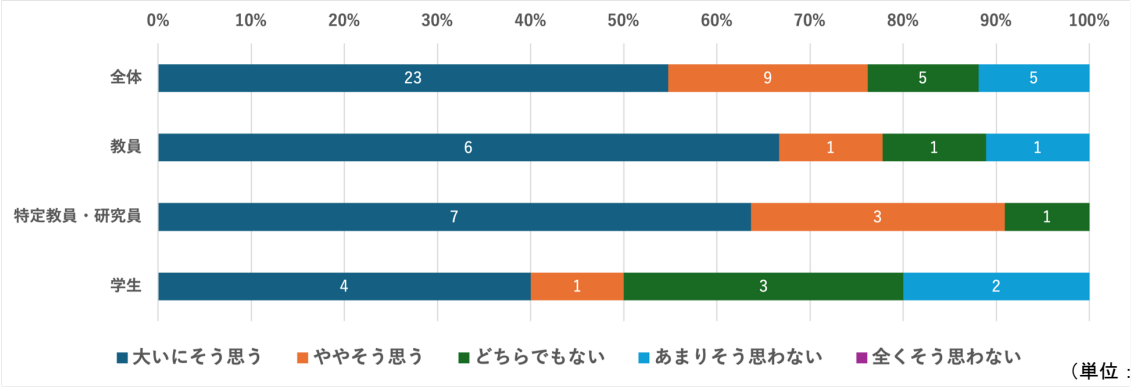
● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

（a）専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



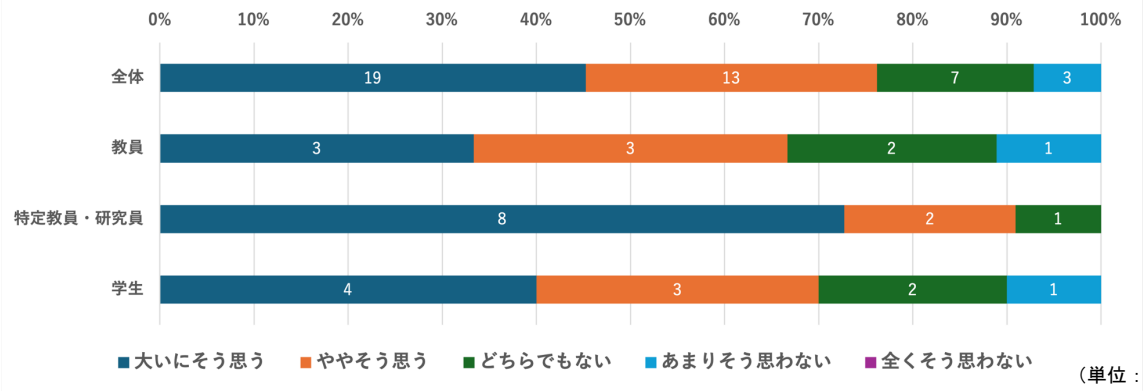
（単位：人）

（b）専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



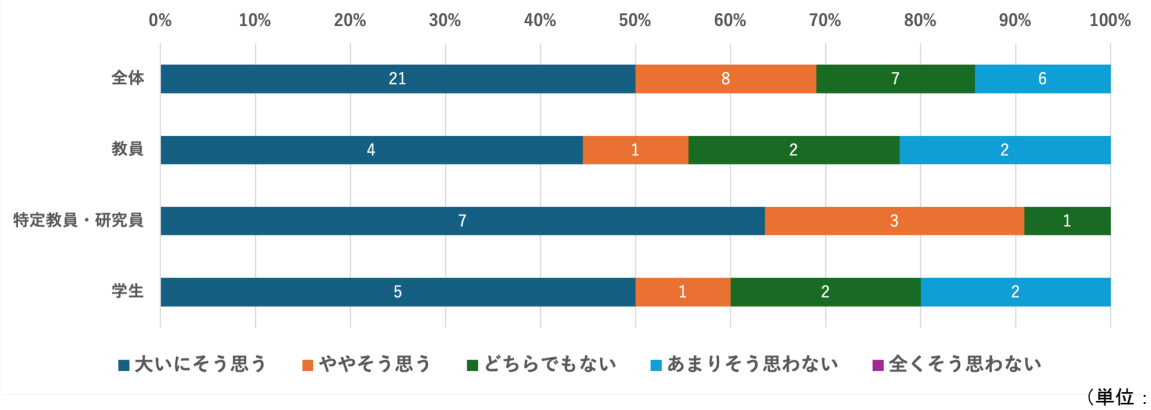
（単位：人）

（c）自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



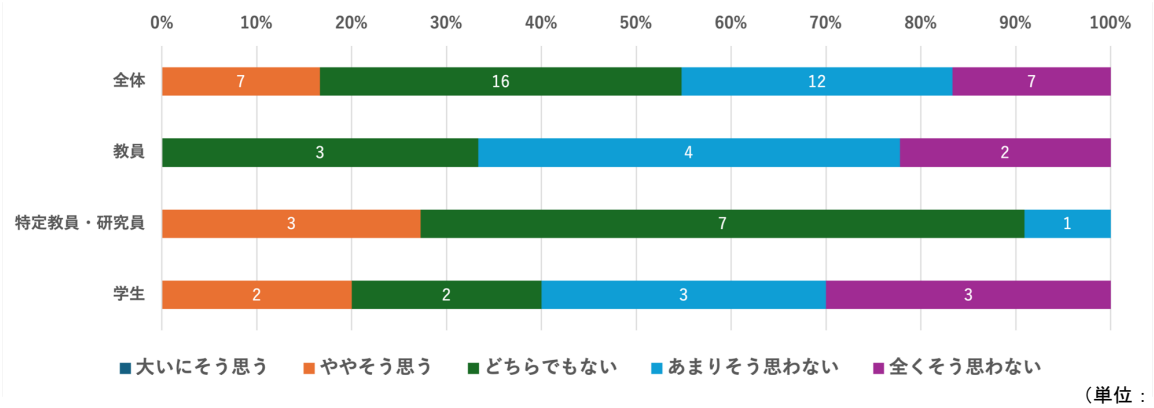
（単位：人）

（d）自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



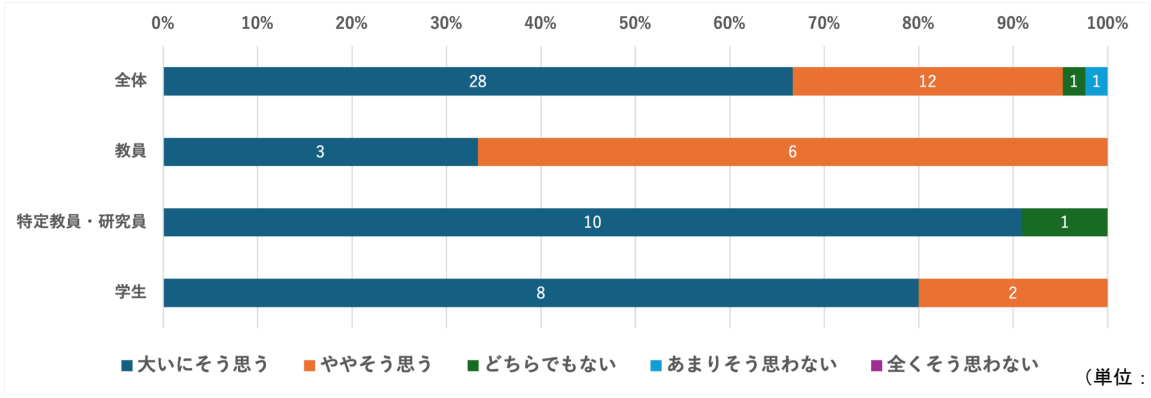
（単位：人）

（e）他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



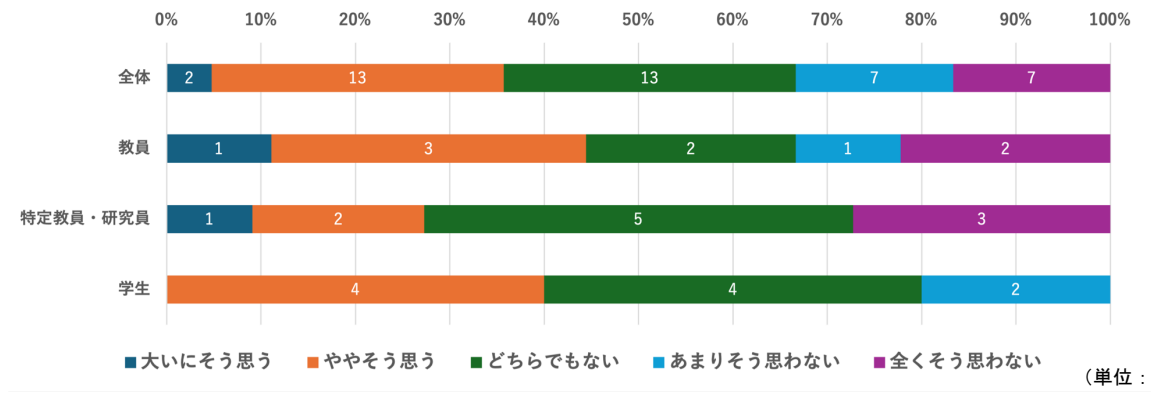
（単位：人）

（f）研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



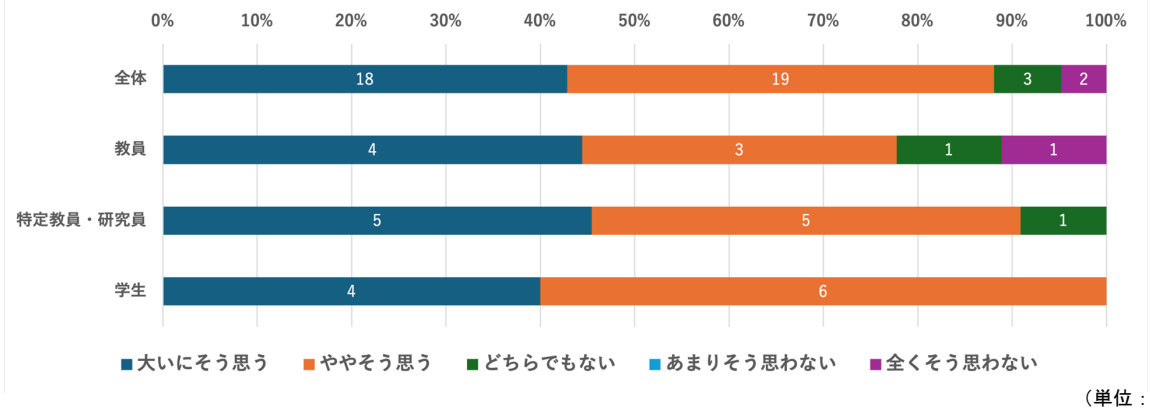
（単位：人）

（g）参加は日々の研究活動の負担となった



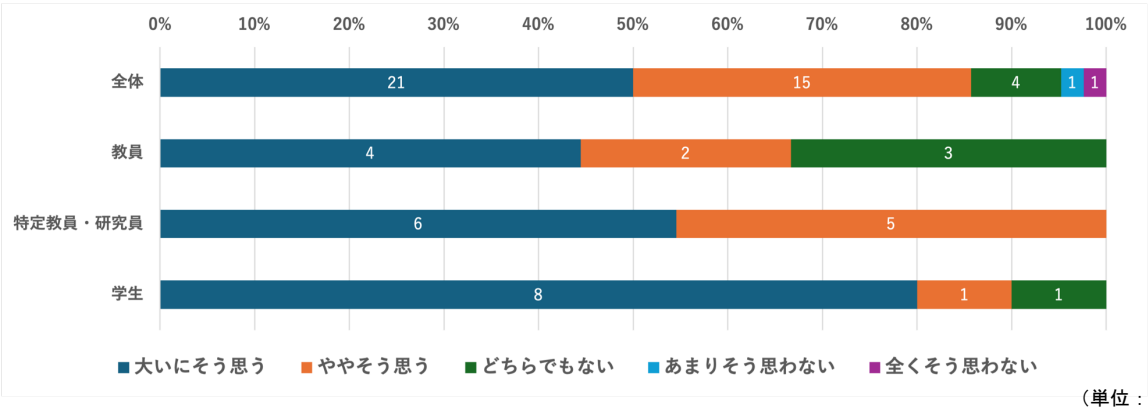
（単位：人）

（h）機会があったらまた参加したい



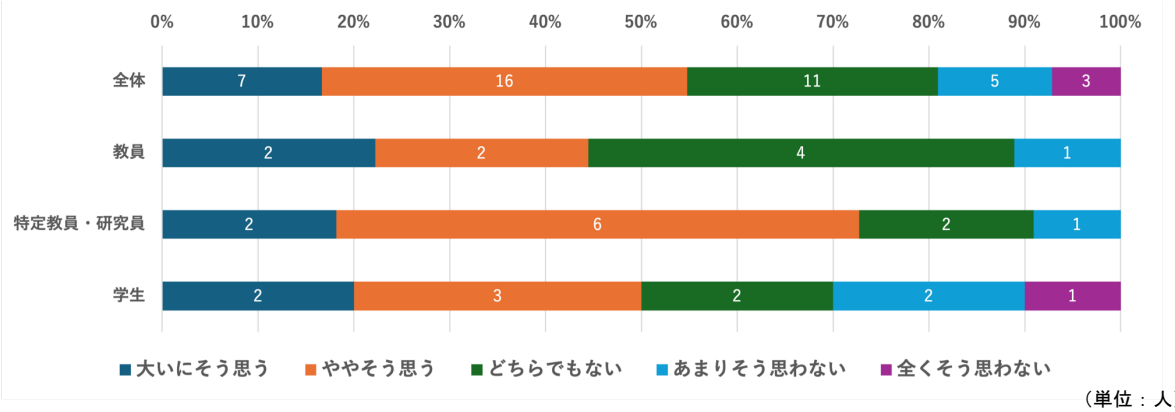
（単位：人）

（i）このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



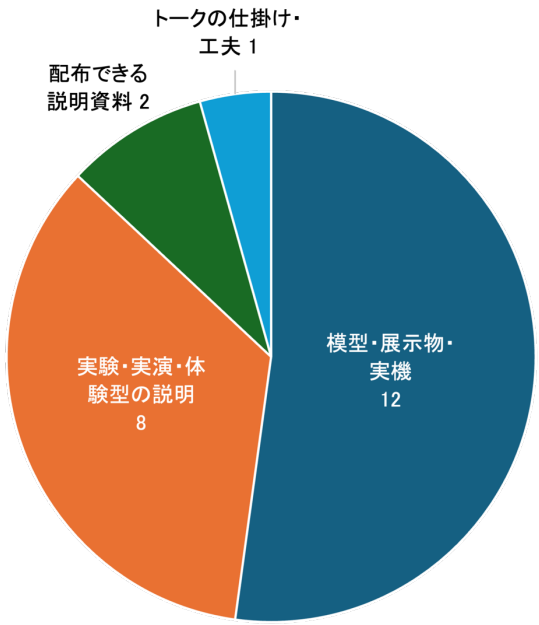
（単位：人）

（j）他の研究者との交流の機会になった



（単位：人）

● 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or　必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



（単位：件）

〈模型・展示物・実機（12 件）〉

● スーパーカミオカンデ(超巨大ニュートリノ観測装置、幅 40m 高さ 40m)の内部の様子をうつした VR を用意していたのですが、皆様から好評でした。VR そのものの面白さもあると思うのですが、実際の装置の内部が観れる

というのも良かったのだと思います。より抽象的に考えると、現場の実際の様子などがみれるものがあると良いというフィードバックになるのですかね？（理工学系）

- 自身の実験内容を端的に説明する 3D プリンターで作ったモデルが役に立った。また、自身の研究を説明するスライド資料やポスターが役立った（理工学系）
- 機構学の説明をする際に、3D プリンターで作成した簡単な実機を目の前で動かすとかなり反応が良かった。ディスプレイでシミュレーションを見せるよりは手に触れられるものを用意した方が、対面で行うイベントにおいては役立つと感じた（理工学系）
- 模型や印刷した資料（理工学系）
- こどもが触って楽しめる展示品とビデオを準備したのはよかった（理工学系）
- 手で触れるものを用意しておいたことは、役に立った。細かい研究内容は、ポスターでは、もっと省略して、研究の流れが大づかみにできるようにしておけばよかったかなと思う（理工学系）
- 研究に関するグッツ（医薬生命科学系）
- 模型、動画、クイズ、体験可能な道具などが役に立ちました（理工学系）
- ポスター前が混雑した際には、手持ちで説明できる資料が必要不可欠だと感じた（理工学系）
- 物を触るだけではなく研究に関する話を聞きたいと感じている人が思ったより多い印象を受けたので、ポスターを印刷したチラシを用意して説明できたらより良いと感じた（理工学系）
- パウチした印刷物を提示しながら解説しました。参考資料がないとよく伝わらないので、持参して良かったです（人文科学系）
- ポスターだけではなく研究に関連した現物を用意するのは、研究をイメージしてもらう意味でも役立った（所属未回答）

〈実験・実演・体験型の説明（8 件）〉

- 小学生低学年以下の子連れの親御さんに説明していると、子供が集中力をなくしてしまうために説明が困難になることがあった。しかし子供用に、キラキラしたシールを貼る作業を用意していたため、子供さんに一時的にそちらに集中してもらって親御さんに説明することができた（人文科学系）
- 演習的な講義で、学生がおこなう作業に必要な教材が一般に人にも興味を持ってもらえて、話のとっかかりとなった（人文科学系）
- 微生物によるコンポスト内の温度上昇が体感できるように作った仕掛けが役立った。目に見えない微生物の活動が活発化するのを、温度計で見せるとともに、サーモグラフィーカメラでも見せることで、視覚的に捉えることに役立ったと思う（社会科学系）
- 実習形式のイベントを用意しておいたのは正解だった。多くの子供達が参加しており、コミュニケーションを取る際に、ポスターだけでは不足していたことは明白だった。（医薬生命科学系）
- ポスターは概ね親御さんかそれ以上の年齢層の参加が目立ったが、実習に関して、意外にも高齢の方や親御さんも積極的に参加されていた。よって、実習内容は子供にターゲットを絞りすぎるよりも、誰が来ても楽しめて一定の知識が得られるものが理想的だと考えられる。狙ってはなかったが、この点は満たせていたと思う（医薬生命科学系）
- 実際に手にとって研究を体感できるもの、また目で見てわかりやすい実験結果（理工学系）
- 説明内容を体感出来るデモを用意しておいて良かった。アイスブレーカーにもなるし、体験を通して理解してもらえる（所属未回答）

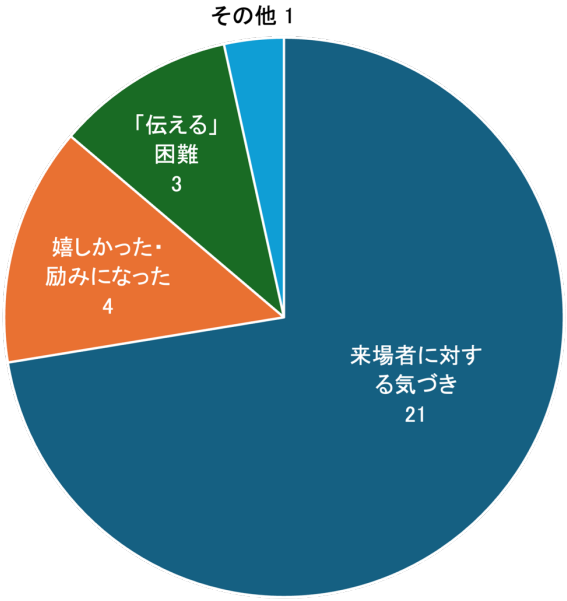
〈配布できる説明資料（2 件）〉

- 今年はポスターと同じものの A4 ハンドアウトと，追加説明したいことについても A4 ハンドアウトを各 1 枚（両面）作成した．その他数枚用意して，セットとしたものを話をしてくれた来場者に配った．100 部作成したが全数配布できたので，100 部くらいは作った方が良いことが分かった（理工学系）
- ポスターと同じ内容の配布資料が便利でした（社会科学系）

〈トークの仕掛け・工夫（1 件）〉

- 我々の研究室ではいくつかのサブグループに分かれているので、2 枚あるポスターのうち一枚を general な内容、2 枚目をサブグループの specific な内容とすることで、説明する上で役に立った。特に、聞き手の知識や興味の深さに応じて、1 枚目だけ話すか 2 枚目も話すかなど、使い分けられた点がよかった（所属回答なし）

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



（単位：件）

〈来場者に関して、気づいたこと（21 件）〉

- 非常に幅広い年齢、バックグラウンドの方々に研究テーマに興味を持っていただいていることが印象に残りました（医薬生命科学系）
- 普段当たり前のように扱っている現象が、来場者にとってはとても驚きであり新鮮であるということが分かりました（理工学系）
- どんな研究をしようとしているのかを熱心に聞いてくれた（人文科学系）
- 人によって興味を持つ内容が異なるので、反応を見ながら対話をする必要があることが印象的でした（理工学系）
- やや難しい内容の研究でも、学生からお年寄りまで、大いに興味を持って説明を聞いてくださったことに感銘を受けた（医薬生命科学系）
- 「その研究がどう役に立つのか」というような、いつもの閉じた研究室での発表とは異なる、研究の応用に関する質問が多く印象に残った（理工学系）
- 研究者と話している時よりも、研究が何に役立つのかを質問されることが多かった。研究者と話しているときはどこが面白いのかを話すだけでいいが、世間ではそれよりもどのように役立つのかが重視されていると感じた（理工学系）
- 研究する際には当たり前の基礎知識となっている用語を聞いたことがないと答えた人が思っていたよりも多い印象を受けた。アカデミックデイのようなアウトリーチイベントに積極的に参加して、周知していきたい（理工学系）
- 研究者との対話を求めていると感じられたこと（社会科学系）
- 来場者の関心が総じて高いこと（社会科学系）
- 何を聞くか明確な人は 1〜2 割と言ったところで、とりあえず楽しそうだから、または、何となく参加してみたが大半を占めているように見えた（医薬生命科学系）
- 体感では 8 割型家族で来ており、その大半は何となく来ているので、好奇心をくすぐるような会話になるように腐心した。その際に、研究テーマよりも、教育や今後の進路、あるいは今の子供の状態（例えばヤンチャすぎる等）をケアするような会話が好まれたように感じた（医薬生命科学系）
- 相手の話したいことは必ずしも研究テーマと合致してない場合があるので、臨機応変な対応を取り、相手の好奇心を切り崩すことで、初めてブースに本気で向き合ってもらえるチャンスが来るなという印象を持った（医薬生命科学系）
- 社会科学分野の実証研究について、研究の結果だけでなく、テーマに関する内容の評価を求められることが多いこと（社会科学系）
- 年齢層および性別と質問の内容に相関があるような気がした（理工学系）
- うちのブースは社会人のリカレント教育や大学院での学びなおしに関心がある層からの反応が良いのだなと思った（社会科学系）

- 質問を上手く言語化できない参加者であっても、疑問を一緒に対話の中で解きほぐしていくことで、参加者自身が研究者になったかのように論理的に問題に向き合うようになっていく変化が印象的だった（所属未回答）
- 研究内容そのものも勿論ですが、私（研究者）がなぜこのような研究テーマに興味をもったのか、そのきっかけや幼少期の体験などを知りたい方が複数名いらっしゃったのは意外でした（所属未回答）
- 一般市民の方が，やや難しい内容の研究でも大いに興味を持っておられたこと（所属未回答）

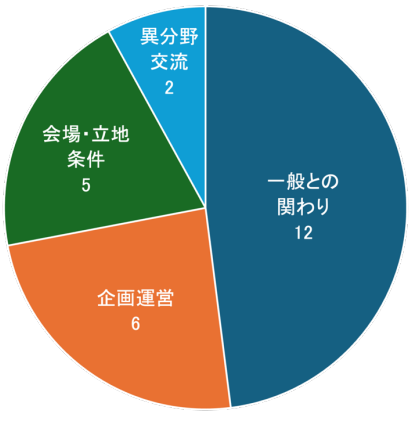
〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと（4 件）〉
- 他の分野の研究者から専門的なことを尋ねられたり、日本のトップの大学に所属する研究者として、世界に伍する覚悟を問われたりすることがあって、今後の研究活動に対して、いい刺激をもらいました（理工学系）
- 私のブースは、過去に太陽光の技術開発などに携わっていた方々がわりと多く来訪してくれました。そこで、日本における太陽光発電等の技術開発や社会実装の過去の課題点などを踏まえて、今後の我々の研究や日本の太陽光発電等の技術開発の方向性についていても多く提案して頂けるとともに、過去の失敗を繰り返さないで前に進んで欲しいという趣旨のエールを貰ったことが印象的でした（理工学系）
- 告知をみて、私の研究を見るために目的をもってきてくれた方が数名おられて、少し驚きました。もちろん一般の方もいましたが、どちらかというと目的をもって見に来てくれている方の熱意に感心しました（人文科学系）
- ふらっと立ち寄られた方に研究に関心を持っていただき、エールをいただけたことが嬉しかったです（社会科学系）

〈「伝える」にあたり、困難を感じたこと（3 件）〉
- 素粒子物理学という内容をわかりやすく説明するにはハードルがあるなぁと感じました（理工学系）
- 子供への説明がかなり難しい。どうしても親に向けて説明してしまい、子供を退屈させてしまうことが何度かあった（理工学系）
- 物理を身近に感じてもらう楽しさと難しさを感じた（理工学系）

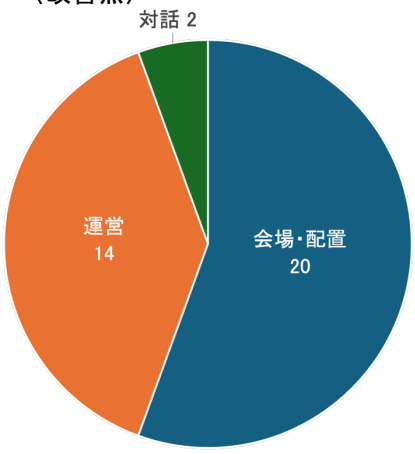
〈その他の気づき（1 件）〉
- あなたのこれまでの研究で、一番のブレイクスルーを教えてください、と参加者の方に言われたのが印象に残りました。そういったリクエストにダイジェストで且つわかりやすく伝えるスキルがまだまだ足りないな～と実感しました（理工学系）

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

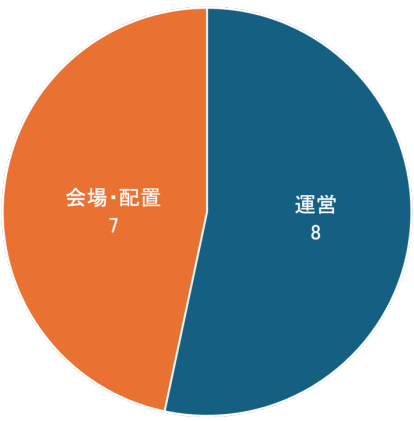
〈良かった点〉



〈改善点〉



〈今後に向けた提案〉



（単位：件）

〈①良かった点〉

一般の方との関わり（12 件）
- 一般の方とお話しする機会が得られたのは良かったです（理工学系）

- 専門外の方がどんなことに興味があるのか直接お話を聞くことができ、研究についてたくさんのお話ができたのが楽しかったです（理工学系）
- 色々な人が見にきてくれた。基本的に説明待ちの人が途切れずにいて、よかった（理工学系）
- 来場者が気軽に話を聞ける雰囲気が良かったです。こちらも楽しい気分となりました（理工学系）
- 潜在的ユーザーのニーズを聞くことができた（医薬生命科学系）
- 一般の方に自分の研究を知ってもらえた点（理工学系）
- 沢山の方に来ていただけた点（理工学系）
- 総じてよかった。自分たちの研究をもう一度一般の人々の目から見つめ直す機会を得た。研究に意義があるのか、マニアックになり過ぎていないか、独りよがりになっていないかなど（社会科学系）
- 多くの来場者が常に居る点。充実感を覚えた（医薬生命科学系）
- 京大の関係者とは異なる一般の方々と交流できたこと（社会科学系）
- 一般の方と話すことは非常に良い経験になった（理工学系）
- 直接、対話ができたことが何より良かったです。またちゃぶ台で、実際に参加者に体験してもらえたことも良かったです（人文科学系）

企画運営に関すること（6 件）
- 運営スタッフの活躍（理工学系）
- 電源が使いやすくセットされていて良かったです（理工学系）
- 運営側で、きめ細かな準備がされており、出展者の負担が少ない（医薬生命科学系）
- 自分の発表の準備をするだけで、たくさんの方に話を聞いていただける機会を作ってもらって、URA はじめスタッフの皆さんには感謝です（理工学系）
- 少人数で参加したので、スタッフの方のサポートがありがたかった（人文科学系）
- 運営本部の丁寧なハンドリングにより、スムーズに実施できた（所属未回答）

会場・立地条件（5 件）
- 来場者が集められる会場を用意していること（人文科学系）
- 開催場所・日時（医薬生命科学系）
- 地下鉄直結、繁華街の近く、屋内（地下）という立地は、控えめに言って最高と言えます。ポスターボードや机のサイズも完璧でした（理工学系）
- たまたま立ち寄ったから見てくれたと言ってくれる人が結構いた（理工学系）
- アウトリーチ活動を商店街のなかでやったこと。普段まったく接点のない方が偶々訪れて自身の興味に合う企画に参加できることは、とても良いことだと思う。このような活動を研究者が一から創り上げるのは大きな負担となるので有り難い（所属未回答）

異分野交流について（2 件）
- 出展側も、３名の分野違いのメンバーでチームを組み、お互いの理解が深まりました（理工学系）
- 研究の進展のために必要だったネットワーク構築の糸口がつかめたこと（社会科学系）

〈②改善点、今後に向けた提案：一部抜粋〉

会場・配置について（改善点：20 件/提案：7 件）
- 暑すぎること。蚊がいること（人文科学系）
- 会場が時間帯によってはとても暑く、出展者、来場者ともに大変そうだった（理工学系）
- 人が多すぎて、4 人体制だったが休憩する時間や他の研究紹介を見る時間がなかった点（理工学系）
- 人が多く予想以上に暑かった点（理工学系）
- ポスターセッションを行ったところが出口の近くだったせいかとても暑かった（理工学系）
- 去年は全く聞けなかったが，両隣の方々の話はお互い聞けたのでかなりよかった（理工学系）
- ブースの場所と、来場者の数が全然フェアではないように感じた。明らかに河原町周辺が涼しく人が多いので理想的な場所である（医薬生命科学系）

- 人の流れ、特にちゃぶ台が奥まったところに分離して設置されたことで、少数が固定で長時間いることになったこと（所属未記載）
- 仕方のないことですが、来場者が絶え間なくいらっしゃると休憩する時間がありませんでした。無理やりにブースごとに休憩時間を設けるのも案の一つではありますが、地下街に人が行きかうという性質上、それも難しいのでどうしようもない気もしますが。（所属未記載）
- 大人数の来場者に対応できる(1 チームあたりの負荷が減る)ような対策ができればいいと思う（理工学系）
- 若干まだ気温が高かったとおもいますが、地下街という性質上空調設備が万全に整っているわけではないかと思いますので、もう少し日程を後ろにしても良いかなと思いました。科研費の締め切り直後でしたし、もう少し日程が後の方が余裕をもって準備できます（記載なし）

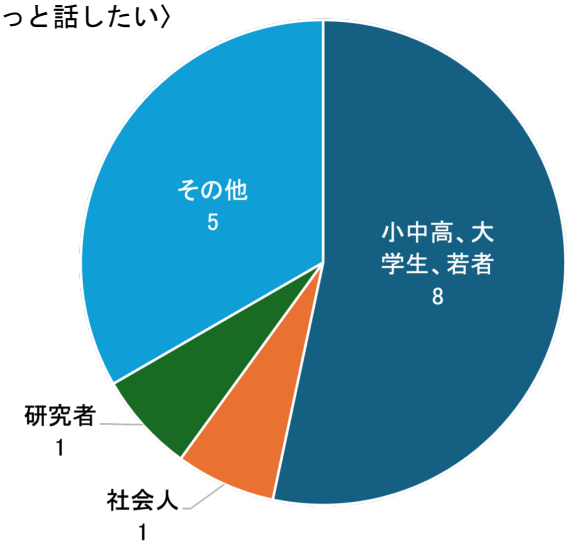
運営について（改善点：14 件/提案：8 件）

- せっかくピッチプレゼンの時間があったが、あまり聞きに来ている来場者は多くないように思えた（理工学系）
- 対話型のブースで出展し、多くの方にお越しいただいたが、出展者側が長時間話し込む来場者に対応するために応対できなかった方がいた（人文科学系）
- ひっきりなしに訪問してくださった方がいて、すべての方にうまく対応できなかったのが残念でした。また、他の研究者の展示が全く見れなかったです（理工学系）
- 来場者が多く、スクリーンや大型モニターを利用した説明が必要だと感じました（理工学系）
- ポスター前に一番人が来ているタイミングでピッチプレゼンのために説明を切り上げなければならなかったので、できれば午後 2-3 時の時間帯はポスター前を離れないで済むようなスケジュールにして欲しい（理工学系）
- 研究者の自発的意思に基づく発表の機会としては、すばらしいと思います。「京大」と銘打つからには、全部局がもっと積極的に参加すればいいのにと思いました（理工学系）
- 配布物を 40 枚作成していたが、足りなかった点（人文科学系）
- シールを渡し忘れることが多かった（社会科学系）
- 一般の来場者相手に手いっぱいになり、出展者自身が他のブースを見学する時間がなかった（社会科学系）
- 私はちゃぶ台とポスターと両方に入っていたので、休む間がなく、そこが大変でした。解説者は多い方が良いと聞いていたので、本当に、そうすべきであったなと感じました（人文科学系）
- 研究者の本棚はせっかくどういう意図で選んだ本かを申込時に記載したのに、実際にはただ本が並んでいるだけなので、もったいない。Web にアクセスして見るのも大変なので、研究者が書いたコメントの印刷体を一緒に掲示したほうが来場者にも書店さんにも親切だと思った（たとえばＡＯサイズに一覧表を載せて棚の横に置くなど）（理工学系）
- 対話型のブースは時間制限を設けた方が適切だと思われる（人文科学系）
- 研究発表の場といえ一般の方もかなり往来するので、もう少し運営側のプライバシーを考慮した方が良いと感じた。ネームプレートに名前を書く欄を省略し、所属と研究内容のみ書くようにするなどで対策できると思う（人文科学系）
- 全部局からの参加を実現できる仕組みがあるといいなと思いました（理工学系）
- 事前に、小学生などの科学教育に底上げになりそうな科学コミュニケーションに近いゾーン（子供達に人気がある宇宙とか生態学とかブース）。と、大人向け、産業界との連携やさらには研究資あつめ（クラファン）を狙ったブースとかに分けても良いかなと。そうすることで、ポスターの作り方の焦点を変えることができる（社会科学系）
- 一般の来場者がいない時間で、互いのブースを訪れる機会があってもいいと思った（社会科学系）
- ポスターは解説時間が長いので、コアタイムのような時間を設けて、少し休憩時間を入れて、その時間は自由に掲載物・展示物を見ていただくのも良いのではないかと思いました（人文科学系）

対話について（改善点：2 件）

- 1 対多数になることが多くこちらの工夫が足りなかったせいか、「対話」をした、という実感が薄かった（理工学系）
- 一般の人に一から自分の発表を説明するのは予想していたよりも時間がかかる上、どうしても一方向のコミュニケーションになりがちだった点（理工学系）

〈③このような来場者ともっと話したい〉



（単位：件）

小中高、大学生、若者（8 件）

- 中学生や高校生がもっと気軽に立ち寄れると良いなぁ、と思いました（社会科学系）
- 高校生に熱心な方が多いように感じた。大学での学問、研究のイメージを高校生向けに伝えることで、学歴思考的な部分以外の受験勉強のモチベーションになればと思う。高校生に来て欲しい（人文科学系）
- 小学生や中学生くらいの子がもっと来てくれると良いのかと思いました。近隣の小学校、中学校に宣伝するなどはどうでしょうか？（理工学系）
- 学校でアカデミックデイについて資料が配られた中学生、高校生のグループが数組来てくれました。熱心に研究の話を聞いたり、質問をしてくれたりしました。今後、このような交流が増えると良いなと思います（理工学系）
- 幅広い世代にお越しいただきましたが、小中学生に面白さを伝えることができればより良いかと思いました（理工学系）
- 子供から大人、シニアまで幅広い来場者がいたと思います（理工学系）
- 小学生向きの機会があってもいい。小学生の来場者が一番難しいが、それゆえにプレゼン力が鍛えられる（社会科学系）
- 高校生や学部生の訪問者がもっと増えても良いかと思いました（記載なし）

研究者（1 件）

- 他の研究者の方（理工学系）

社会人（1 件）

- 25～40 歳くらいの年齢層（理工学系）

その他（5 件）

- 老若男女満遍なく来てくれたと感じています（理工学系）
- 子供から大人、シニアまで幅広い来場者がいたと思います（理工学系）
- 可能な限り、普段科学との接点がない、または、積極的に科学との接点を求めている人のどちらかが良いと考える。今回でいえば、普段科学との接点がない人との接点を多く持てた点、大変満足している（医薬生命科学系）
- 例えば、一般市民向けの科学講座を実際に行っているグループとの共同イベントなどが効果的なのかなと感じた。今回、こども公園大学の人と話す機会があったが、子供向けに何を実習でやれば良いかアイデアで困っているケースもあるようだった。よって、今回一般市民向けに僕たちがやった実習の各種コンテンツはもっと有意義に活用していく方法を模索しても良いように感じた。例えばだが、今回の実習内容をデポジット方式で集めた上で、より積極的に一般市民との交流を求めたイベントの開催を検討するのも手ではないだろうか（医薬生命科学系）
- いろんな方とお話しできることが醍醐味ですので、「このような来場者」と特に希望するものはありません（人文科学系）

- 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

新企画に関する意見（6 件）

- 高校生向けの企画。～学部にはいったらこういう研究ができるという、イメージをつけてあげる。パンフなどに、タイトルだけでなく、学問分野を書くといいのかもしれない（人文科学系）
- 出展者の工夫次第だと思いますが、来場者が体験・主体的に参加できる出し物を増やすとさらに楽しくなると感じました（理工学系）
- 研究にかんするクイズ大会（医薬生命科学系）
- 来場者の統計的な振る舞いをもっと記録・分析して、客観的かつ長期的なサイエンスコミュニケーションに関するような知見を得ようとする視座があっても良いかと思いました（理工学系）
- アンケートを行うだけではなく、定点カメラを設置するなどして来場者の動きを記録したり、来場者が気軽に行える簡単な集計表の作成（ボードにシールを貼ってもらう等）したり、などがあり得ると思います（理工学系）
- 研究者どうしが討論する、会場内ラジオ放送（理工学系）

現状改善案（4 件）

- 新企画というほどでもないのですが、来場者の人数が多かったのでちゃぶ台企画はもっと時間が長くてもいいかなと感じました（人文科学系）
- また、分野によっては学会等でポスター発表が一般的ではない（あるいはまったくない）ので、そういった分野の研究者でも気軽に出展できるように、ちゃぶ台企画の出展数をもう少し増やしてもいいのではないかとも感じた（人文科学系）
- 会場は、一般の人たちが行き来するという意味ではよかったが、空間が区切られていたため、一体感は欠いていた。2 分プレゼンも他の人たちのを聞くことはほとんどできなかった。大きなひとまとまりの会場であれば、後ろの方からでも聞けたと思う。
- もしくは各区切りのところにスクリーンや音声で届けられれば、全体感を出展者も共有できたと思う（社会科学系）
- 企画ではないのですが、午前に 2 min の宣伝をした後、午後にも同じようにやった方が良いのかなと思いました。まだ観客が温まっていない午前の 2 min の宣伝がそれほど効果があった印象を持てませんでした（医薬生命科学系）

その他（1 件）

- 地域を変えての開催（理工学系）

● 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

URA への意見（6 件）

- 大切な取組をしていただき、感謝しております（社会科学系）
- URA は非常に重要な仕事であり、研究支援とひとくくりにしても、様々な内容があるため、今後さらに細分化して URA としての専門的地位が上がればいいなと思っています（人文科学系）
- 今回、とてもたくさんの URA スタッフの方が会場でサポートしてくださり、準備からずっと支援してくださいました。科研費や JST への応募に際しても、いつもご支援いただき感謝しております！！！（理工学系）
- 大変良い取り組みだと思います。URA の方による事前講習会の説明がとても分かりやすく、当日も講習会で学んだ点を意識して説明しました（理工学系）
- 積極的に対話をしていただき、準備も助けていただき、ご助言もたくさんいただきました。本当に感謝しています。負担が重過ぎないか不安になる程です。常に見回りしていただけた点も、本番当日、非常に心強かったです（医薬生命科学系）
- 1 点だけ、8/23 の伝わりやすい研究紹介について、相当丁寧なスライドだったと記憶します。もちろん今回の発表、多くの人に強い影響があったとは思うのですが、相当な時間をかけており、説明が分厚すぎる印象もありました。どちらかと言うと、URA の人達との交流（このブース内容で大丈夫だろうか？ポスターはこれでどうでしょうか？みたいな）の時間に焦点を当てて、これも例えばですが、不安な人は現時点でいいので、ブースの内容とポスター持ってきてくださいと言って個別対応に時間を割く（もちろん今回も十分な時間は割かれていましたが）ような方向性の方が結果的に良い方向に進むのかなと思いました（医薬生命科学系）

アカデミックデイ全般に関する意見（5 件）

- とても良い取り組みだと思っています（医薬生命科学系）準備の負担は少ない（ポスターをつくるだけだった）のは大変助かりました。 一般的な備品（コンセント）も引き続き URA の方で準備いただけると幸いです。（理工学系）
- とても良いイベントでした（理工学系）
- こういった機会は貴重ですので、有難く思っています。どうもありがとうございます（人文科学系）

その他（2 件）

- もっとサイエンスコミュニケーションの重要性を学部のうちからアピールするべきだと思う。講義でサイエンスコミュニケーションを扱って欲しい（理工学系）
- このような対話は積極的にやっていくべきだと思う。象牙の塔にならないよう。国民と科学が隔絶してしまわないように（社会科学系）

３−３．京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、よりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

■ ３−３−１．2024 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：おサルさんの頭のホネから分かること
出展代表者：豊田直人（大学院理学研究科）
骨はすごいで賞、直接さわれて楽しかったで賞、「サル」と言ってもいろいろで賞、など

● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門

出展名：先端科学リテラシー教育の新展開
出展代表者：中村秀仁（複合原子力科学研究所）
今まさに日本に必要な科学教育のモデルケースで賞、若い未来の担い手賞、触発されたで賞、など

● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：ナメクジってどんな生き物？
出展代表者：宇高寛子（大学院理学研究科）
なぜその研究を選んだので賞、はじめて知る世界でしたで賞、なかなか愛らしいで賞、など

■ 3−3−2．アンケートの上位の出展

来場者からの賞についてのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 10 件、ちゃぶ台上位 2 件は、以下の出展でした。

● 研究者と立ち話

「“じぶん”の iPS 細胞で怪我や病気を治す未来！　～iPS 細胞の歴史・作り方・応用まで～」 出展代表者 中川誠人（iPS 細胞研究所）	
・怖いけど期待大賞	・実験楽しかったで賞
「T リンパ球を使ってがんやウイルスを退治！」出展代表者 河本宏（医生物学研究所）	
・いつか臨床に来るのを待っています賞	・いろいろな形の細ぼうがあっておもしろかったで賞
「からだ工務店：カブトムシの体の形作り」出展代表者 森川健太郎（大学院工学研究科）	
・モノづくりが面白そうで賞	・いつかは”しわ”で家がつくれる！？で賞
「DNA オリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介」出展代表者 川又生吹（大学院理学研究科）	
・目からうろこの発想だったで賞	・ DNA 技術についてイメージがわいたで賞
「サルから学びともに暮らす」出展代表者 鴻池菜保（白眉センター／ヒト行動進化研究センター）	
・研究者の魅力が一番大きかったで賞	・自分も研究したいと思ったで賞
「ごみは地球を救う」出展代表者 大山修一（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）	
・発酵のちからはすごいで賞	・コンポストが暖かいで賞
「頭の中にある世界地図」出展代表者 埴淵知哉（大学院文学研究科）	
・もっと地図を見たくなったで賞	・みんなの考えをしれてよかったで賞
「何が世界を構成するのか？」出展代表者 疋田純也（大学院理学研究科）	
・誰もがワクワクするで賞	・とにかく壮大で賞
「臨床統計学ー医療に貢献する科学ー」出展代表者 田中司朗（大学院医学研究科）	
・やってみたいで賞	・良い薬治療法が世の中に出る賞
「孤独感推定 AI の開発」出展代表者 西村勉（医学部附属病院）	
・研究の過程をおもしろく説明してくれたで賞	・研究継続して社会に貢献してほしいで賞

● ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

「動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る　ーチンパンジーのこころの研究を中心にー」 出展代表者 足立幾磨（ヒト行動進化研究センター）	
・大学に行ってみたいと思ったで賞	・あらゆるジャンルへのつながりがありま賞
「中国の山水画はなにを描いているのか」出展代表者 宇佐美文理（大学院文学研究科）	
・深い話がワクワクしたで賞	・美術館での視点が変わりそうで賞

４．出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2024 の WEB サイトでもご覧になれます（https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2024/）。

４－１．研究者と立ち話

C1 霞が関の博士人材活用

祐野 恵（大学院医学研究科）

博士の地位向上させてほしいで賞

行政が対応すべき課題は、高度化・複雑化しており、問題解決に必要な専門性を確保し、政策の質を高める取組が求められています。そこで、博士号に焦点を当てた人事制度の国際比較と現役官僚へのサーベイ調査の結果を用いて、これからの霞が関における人材活用について、来場者のみなさんと一緒に考えます。

C2 先端科学リテラシー教育の新展開

中村 秀仁（複合原子力科学研究所）

高校生が生き生きしていて頼もしいで賞

身近なプラスチックに起きる未知の現象を主軸に先端科学に触れる機会を、一般高校で理系文系を問わず、総勢 2000 名の生徒・教員に設け、知的探求と未来社会像構築への参加による人材育成を連動させる新しい研究教育システムの開発をしています。その二年目の成果として第二世代の高校生による活躍を中心に報告します。

T1 何が世界を構成するのか？

疋田純也（大学院理学研究科）

素粒子にロマンを感じたで賞

私たちは、全ての物質を構成する最小の構成要素である「素粒子」の研究を行っています。例えば、素粒子の性質を調べたり、新しい素粒子の発見を目指しています。本出展ではその研究内容を皆さんとお話しします。是非遊びに来てください！

T2 宇宙から来た物質を調べると何が分かるの？

野口高明（大学院理学研究科）

もっともっと宇宙のナゾを追求してほしいで賞

地球には宇宙から毎年 4 万トンの物質がやってきて、約 6 千トンが地上に届きます。その内のごく一部を私達は手に取って調べることができます。また、はやぶさ 2 のような探査機を飛ばして小惑星などからものを取ってくることもあります。そんな宇宙から来た物質を調べると何が分かるのでしょうか？

T3 ナノアンテナって何なの？

村井俊介（大学院工学研究科）

めがねをかけたらみえたで賞

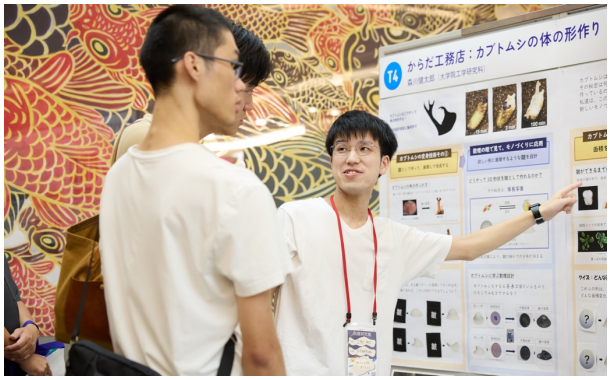
ナノテクノロジを使い、”ナノアンテナ”と呼ばれるナノサイズの微粒子が並んだ構造を作っています。ナノアンテナは光を閉じ込めたり、集めたり、放ったりすることができます。私たちはナノアンテナの科学と応用を研究しています。

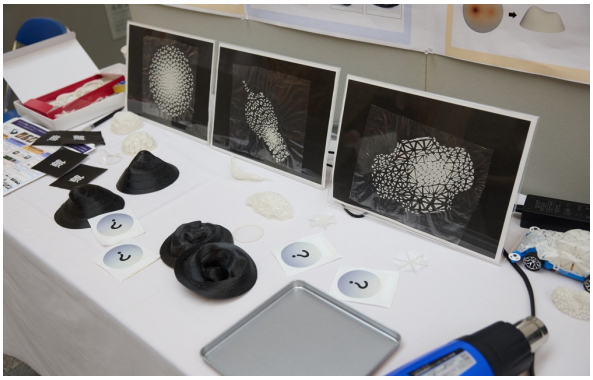
T4 からだ工務店：カブトムシの体の形作り

森川健太郎（大学院工学研究科）

虫の知恵を借りるで賞

カブトムシは、蛹になるとき、まるで別の生き物のように姿を変えます。その秘密は何でしょうか。実は、幼虫は、蛹の形を体内で「小さく折り畳んだ状態で」作っているのです。それが展開されて幼虫の体から出てくるのが脱皮です。私達は、この「折り畳んだまま形を作る方法」を数学的に理論化することで、新しいモノづくりの方法を開発しています。



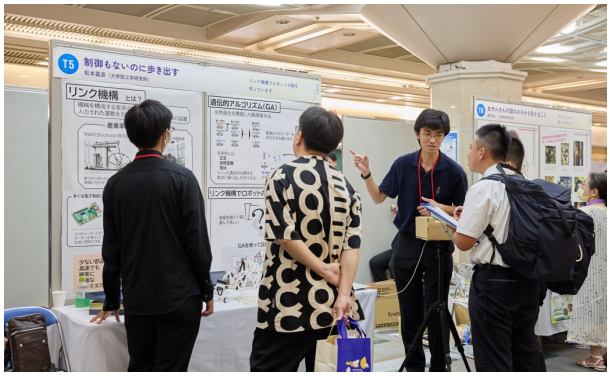


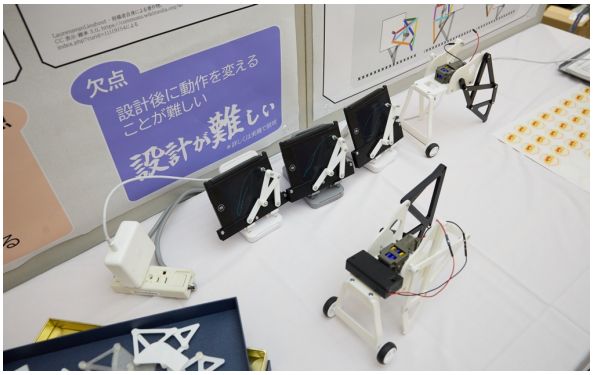
T5 制御もないのに歩き出す

松本嘉彦（大学院工学研究科）

いつか走れるで賞

リンク機構は非常に単純な形をしていながら複雑な動きをすることができるため、様々な機械に利用されている重要な機械要素です。ここではあまり知られていないリンク機構の基本と、その応用として歩行ロボット用の脚をリンク機構で作成する研究についてご紹介します。





T6 おサルさんの頭のホネから分かること

豊田直人（大学院理学研究科）

骨は語るで賞

後ろ足だけで歩いて前足を器用につかうヒトや、温泉につかるニホンザル、長い中指で虫を捕まえて食べるアイアイ。おサルさんの仲間、霊長類は想像をこえるほど色んな生き方を魅せてくれます。そんなおサルさんの不思議な世界を、頭のホネに注目して一緒に考えてみましょう！

T7 太陽光の恩恵を全ての人が享受する技術と社会 -Solar for All の実現へ-

尾形清一（大学院エネルギー科学研究科）

京町屋を未来に残しま賞

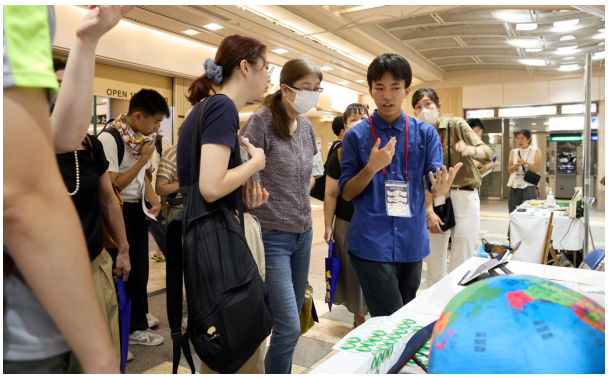
SDGs の実現に向けて太陽光等の利用が必要ですが、太陽光の様々な恩恵を皆が享受するために、革新的な技術や利用方法などを紹介します。今回は、歴史文化や農業に貢献する太陽光の仕組みについて説明します。

T8 頭の中にある世界地図

埴淵知哉（大学院文学研究科）

帰ったら世界地図書いてみたいで賞

私たちはみんな、頭の中に「地図」をもっています。ところがこの地図は不正確で、人それぞれにゆがんでおり、同じものは一つとしてないようです。同じ世界にいる私たちの頭の中の世界地図はなぜ、そしてどのようにゆがんでいるのでしょうか？約千人が描いた世界地図を手がかりに、この問題について考えます。



T9 ごみは地球を救う

大山修一（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

未来につながるで賞

ごみをつかって、土壌を改善しています。アフリカ、ニジェールやザンビア、ウガンダで。そして京都で取り組みをおこなっています。ドライ・コンポスト（地球研コンポスト）という、簡単な資材、方法で、生ゴミを処理します。その科学的な知見とともに、日本のユニークな発酵をつかいます。ポスター展示とともに、コンポスト作成の実演もしますので、ぜひ、ご来場ください。

T10 サルから学びとともに暮らす

鴻池菜保（白眉センター／ヒト行動進化研究センター）

サルから学ぶことは多いで賞

私たちは愛知県犬山市にあるヒト行動研究センターと、京都にある野生動物研究センターを研究の場として活動しています。サルの脳からヒトを知る研究、サルの食から個性を知る研究、そしてサルの暮らしをよくする研究をおこなっています。今回は、これらのサル、ヒトを含めた霊長類を対象とする研究活動をみなさんにご紹介したいと思います。

T11 縄文土器に画像生成 AI を応用したら

千葉豊（大学院文学研究科）

AI の使い道が分かったで賞

縄文時代の研究は、縄文土器を対象に時間と空間のモノサシを作る編年的研究に多くの労力が費やされてきました。この研究に、飛躍的な進歩を遂げているＡＩ（人工知能）を導入し、縄文土器のデータ解析を試みたらどうなるでしょうか。

T12 アフリカでゴミを資源にする

真常仁志（大学院地球環境学堂）

地域の皆さんにも良さが伝わってほしいで賞

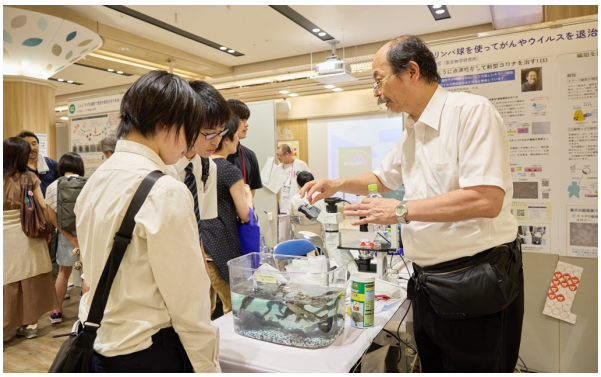
世界有数の貧困国であるアフリカ・マラウイの農村において、し尿分離型トイレなどを活用して住民の暮らし向上、環境保全、衛生状態の改善を目指す研究を実施しています。ゴミを資源にして明るい未来の実現に貢献できればと思っています。

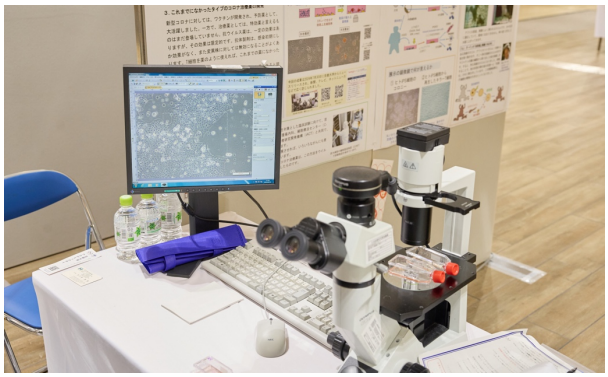
G1 T リンパ球を使ってがんやウイルスを退治！

河本宏（医生物学研究科）

人体に興味持てたで賞

「T リンパ球を使ってがんを治す」治療法がすでに始まっています。ただし、患者さんの細胞が使われるので、時間がかかる、高くつく、品質がバラつくなどの問題が残ります。私達の戦略では、ES/iPS 細胞を材料に T リンパ球を作るので、これらの問題を解決できます。さらに、がんの他に、ウイルス感染症にも使えます。





G2 ″じぶん″の iPS 細胞で怪我や病気を治す未来！ ～iPS 細胞の歴史・作り方・応用まで～

中川誠人（iPS 細胞研究所）

身近なもので実験できるで賞

本ブースでは、iPS 細胞の理解を深めるだけでなく、未来の再生医療の発展に貢献できるよう、参加者と科学者との相互交流を目指します。ぜひ気軽にお立ち寄り下さい！

1. iPS 細胞について：基礎から応用まで学ぶ機会を提供します！
   発見の歴史/ iPS 細胞の作り方 / 臨床応用（再生医療や薬剤開発など）
2. 体験学習：体験学習を通して、iPS 細胞への理解を深めることができます！
   iPS 細胞の顕微鏡観察 / アプリで学習 / iPS 細胞を擬似体験
3. 科学者との対話：未来の医療の発展に貢献できるかも？！
   参加者と科学者の相互交流 / “じぶん”の iPS 細胞があったらどうする？

G3 ヒトゲノム改編の匠を目指す！

Xiaoyan Ren（大学院医学研究科）

身近なもので科学を感じられたで賞

ウォルツェン研究室では「ヒトゲノムの完全制御」を目指し、iPS 細胞を用いて最先端の遺伝子編集技術を開発・活用しています。まずはゲノムを理解することから始まり、変異の修正や新しい遺伝子機能の導入のために必要な技術をマスターしていくことを目指しています。あなたも私たちと一緒に挑戦してみませんか？

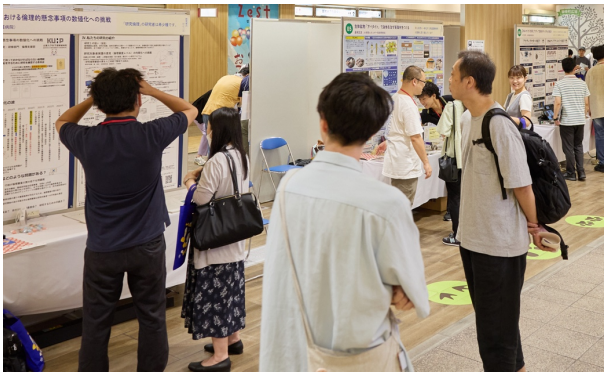
G4 医学系研究における倫理的懸念事項の数値化への挑戦

森拓也（医学部附属病院）

にぎりつぶされることなく戦いつづけるで賞

医学系研究は研究開始前に倫理審査を受ける必要がありますが、日本では全国で 2000 以上の委員会が乱立し、審査の基準および質が問題となっています。われわれは年間約 2400 件もの審査をする京大の経験を活かし、倫理審査の対象となる研究計画書・説明文書潜む、倫理的懸念点を自然言語処理にて炙り出すプログラムの開発を進めています。

＊最近話題の生成 AI の研究倫理的思考も一部紹介いたします！



G5 生体鉱物「アパタイト」で身体を治す新素材をつくる

薮塚武史（大学院エネルギー科学研究科）

人類の未来を作るで賞

超高齢社会の到来により、病気や事故で失われた骨を治す人工骨など、さまざまな治療を支援する医療用素材の需要が高まっています。私たちは、生命体のからだを支える鉱物「アパタイト」の性質に着目し、身体の中で自然に骨と一体化する人工骨や、薬の効果を高めるカプセルなど、人の身体を治す新素材の開発を進めています。

G6 DNA オリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介

川又生吹（大学院理学研究科）

世界最小の加工賞

我々は DNA やタンパク質などの生体分子を材料にしたモノづくりの研究をしています。その中でも「DNA オリガミ」と呼ばれる技術を紹介します。簡単に説明すると、DNA をレゴブロックのように使い、ナノスケールの構造物を作製します。本展示では、3D プリントした分子模型や、二重らせんの折り紙、DNA オリガミに関するクイズなどを通して、本技術に触れてもらいます。

G7 臨床統計学ー医療に貢献する科学ー

田中司朗（大学院医学研究科）

日本でも臨床統計学者が増えてほしいで賞

新しい医薬品や治療法の開発では、最終段階で患者さんが参加する実験である「臨床試験」が行われます。臨床試験の実施には厳密な科学性と倫理性が求められ、専門的な知識を持つ統計家の参加が不可欠となっています。この研究領域が臨床統計学です。医療に貢献する科学、みなさんも体験してみてください。

G8 同意取得が障壁になる時、倫理委員会は何を考えるか

渡邉卓也（医学部附属病院）

倫理について考えるのは大事で賞

急性期治療を対象とした研究では、限られた時間内に治療介入を行う必要があるため、研究対象者から適時に同意を得ることが大きな課題になります。研究対象者からの同意取得が障壁となる研究について、倫理委員会がどのような論点をもって審査を行っているのか調査を行っています。

G9 行動依存症とは？
～ギャンブル、ゲーム、スマホから窃盗まで～

後藤幸織（大学院情報学研究科）

先生の研究がこれからの子供を救うで賞

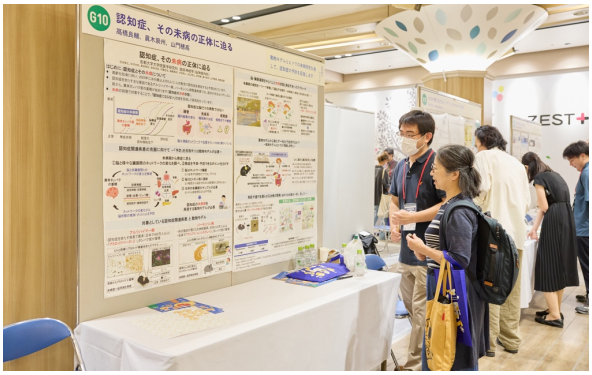
最近色々と話題となっている行動依存症（正式には行為嗜癖）について、一般の方にわかりやすく説明する予定です。ギャンブル、ゲーム、SNS、スマホなどに対する依存に加え、とくに窃盗行為の依存（窃盗症）についての神経心理メカニズムについて、私達の研究を取り上げてくださったメディア（ABEMA ニュースやテレビ朝日系列「テレメンタリー」等）を用いて、詳しく解説します。

G10 認知症、その未病の正体に迫る

高橋良輔、眞木崇州、山門穂高（大学院医学研究科）

日本の未来がかかっているで賞

高齢化に伴う認知症とその関連疾患の増加は重要な社会問題となっています。近年、病初期から、腸・感覚器官・免疫などの全身環境の変化が生じていることが分かってきています。脳のみならず、こうした全身環境の変化と発症との関係を解明し、認知症を発症前の未病でみつけ、未病で防ぐ挑戦をしています。



Dialog with the Public

G11 コロナ禍におけるパンデミックポスターの分析

伊沢亘洋（大学院文学研究科）

10 年後に役立つで賞

コロナ禍におけるパンデミックポスターを web から探してきて、時系列ごとに並べ、内容分析をしています。サンプル数は 200 程度で、分析の内容としては、

1. 差別、感染予防などテーマごとの比率は時間と共にどのように変化しているか。
2. 感染予防のフレーミングとしてどのようなフレーミングが多く使われているか。
3. テーマやフレーミングの仕方は地域、時期によって変化するか。

を考えております。

G12 孤独感推定 AI の開発

西村勉（医学部附属病院）

せかいのこころを救うで賞

日本では、約 40%の方が孤独を感じている。孤独の問題点は、心疾患、脳卒中、認知症、鬱病、自殺等のリスクが上がり、加えて早死にのリスクも上がる点にある。我々は、自然言語処理 AI を用いて孤独感を推定する技術を開発し、孤独感を感じている方を同定し、早期介入するための研究・開発を進めている。

4−2．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ a1

動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る ーチンパンジーのこころの研究を中心にー

こころは奥が深いで賞

足立幾磨（ヒト行動進化研究センター）

ヒトは地球上に現存する数百万種のうちの一種で、その身体や心の働きは 35 億年の生物進化の歴史の中で紡がれてきたものです。そこにはヒト進化の歴史があるとともに、生物学的な制約も課せられています。動物、特にチンパンジーのこころの研究を話のタネに、ヒトらしさとはなにかに思いをはせてみませんか。

ちゃぶ a2

中国の山水画はなにを描いているのか

山水画を見る目が変わったで賞

宇佐美文理（大学院文学研究科）

中国の絵画、特に山水画について、みなさんよくご存知の雪舟などとはちがう山水画などを図版でご覧いただくとともに、有名な文人蘇東坡の発言を参照しながら、中国の山水画が、いったい何を描こうとしたのかを、「気」を中心に考えてみたいと思います。

ちゃぶ a3

‘ひかり拓本’、縄文原体を可視化する

高野紗奈江（総合博物館）

技術と文系を融合してるで賞

日本列島先史時代の縄文文化では土器に縄目文様を施した。土器に見られる縄目は通常の縄と異なり、縄目文様を生むための専用の施文具によって生み出される。縄文原体と呼ばれるこの施文具はまだ未発見であるため、土器に遺された痕跡から、使われた素材や縄の様々な撚り方を解読する必要がある。近年開発された‘ひかり拓本’を用いて縄文原体を可視化する。

ちゃぶ a4

ナメクジってどんな生き物？

宇高寛子（大学院理学研究科）

ナメクジちょっと好きになったで賞

身近で誰でも一度は見たことがある生き物、ナメクジ。いつでもどこにでもいるような気がして、かえってどんな生き物なのか考えてみることは少ないのではないでしょうか？ナメクジについて不思議に思っていること、ぜひ教えてください。一緒に考えてみましょう！

ちゃぶ b1

光で実現する相対論の世界

松井隆太郎（大学院エネルギー科学研究科）

未来を感じたで賞

2018 年にノーベル物理学賞を受賞したレーザー技術により、電子やイオンを光に近い速さにまで動かすことができる「相対論の世界」が実現しています。ほぼ光速で運動するこれらの粒子を利用することで、切らずに治療できる「小型粒子線がん治療装置」の開発や、近年注目を集めている「核融合炉」の実現、さらには宇宙の未解決問題である「高エネルギー宇宙線の生成起源」の解明などが期待されています。

ちゃぶ b2

倫理学の最前線

高木博登（大学院文学研究科）

あらゆる問いの根源に迫っているで賞

倫理的な問題は世の中に溢れかえっています。動物を食べてもいいの？100 年後の世代に対する責任ってあるの？自動運転車と歩行者が衝突しそうなとき誰を助けることを優先すべきなの？ちょっと億劫だけど避けられない問題、私たちと一緒に考えてみませんか？

ちゃぶ b3

太鼓がしゃべる！ 歌う！ 物語る！
～インドのふしぎな太鼓文化の諸相～

井上春緒（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

太鼓を愛してるで賞

北インドの代表的な打楽器タブラーの音楽的特徴を、インドの文化史や音楽史の解説と共に一般向けにわかりやすく解説する。特に、言葉や動作と共に発展してきたインドのリズムが、「しゃべり」、「歌い」、「物語る」ことを、実際のデモンストレーションや映像、音源を例に紹介する。あまり馴染みのないインドの音楽の真髄を明らかにすることで、よりインド文化を身近に感じてもらえるように文化紹介をおこうことを目的とする。

Dialog with the Public

4－3．出展参加者一覧

ブース番号	代表者○	所属 氏名　職名又は学年等		
C1	○	大学院医学研究科 祐野 恵　特定講師 大学院医学研究科 安藤 加菜子　研究員		
C2	○	複合原子力科学研究所 中村 秀仁　助教 池上 麻衣子　助教 川端 祐司　特任教授 大阪高校 宮本聡　センター長 金川昌由　教諭 山原康治　教諭 木ノ脇求　教諭 坂本頼泰　教諭 永田晴哉　教諭 福田雅文　教諭 岡﨑佑　教諭 岡泰平　教諭 中野樹　教諭 今川大輔　教諭 田中遼介　教諭 中元菊政　教諭 和田光司　教諭 平野宏太　教諭 牧野心咲　1年 南 杏優　1年 木田美彩乃　1年 小川紗知　1年	大阪高校 松本紗綾　1年 中北龍久　1年 宮坂陸　1年 濵道光太朗　1年 山守若葉　1年 稲村咲良　2年 中村優　2年 前原和希　2年 坂部偉吹　2年 金野夏子　2年 手嶋愛理　2年 寒川琴音　2年 阪口雄翔　2年 山口大和　2年 前田琴音　2年 玉置楓花　2年 福江健蔵　2年 箱ひなた　2年 中島かんな　2年 横田さくらこ　2年 沼田茉子　2年 村上愛咲　2年 土井真人　3年	大阪高校 古澤澪　3年 竹中茶南　3年 田中渡月　3年 佐藤平汰　3年 高島ゆりあ　3年 樋野裕斗　3年 太田颯流　3年 片山琥珀　3年 山本夢叶　3年 寺島さくら　3年 森元ロメイン　3年 加藤天音　3年 椿本浬久　3年 土手こゆき　3年 苅田青空　3年 横山亜麻音　3年 中野月輝矢　3年 前汐莉　3年 嶋川來羽　3年 森本響太　3年 日髙溫菜　3年 西中聖虹　3年 作田優希　3年
T1	○	大学院理学研究科 疋田 純也　博士課程1年 白眉センター 安達 俊介　特定助教 大学院理学研究科 笠井 優太郎　修士課程2年 片岡 敬涼　修士課程2年 中川 徹郎　修士課程2年 星野 大輝　修士課程2年		
T2	○	大学院理学研究科 野口 高明　教授 総合博物館 竹之内 惇志　助教 大学院理学研究科 北村 悠樹　修士課程1年		
T3	○	大学院工学研究科 村井 俊介　助教 Joshua ty Tse　特別研究員 Lo Tien-Yang　博士課程2年 He Jiayang　博士課程2年 Shen Yi　博士課程2年 榎本 泰輔　修士課程2年		

ブース番号	代表者○	所属 氏名　職名又は学年等
		丸山 紘矢　修士課程 2 年 高嶋 大輝　修士課程 1 年 Gao Hongjie　修士課程 1 年 工学部 尹 慎知　学部 4 年 伊東 駿太　学部 4 年
T4	○	大学院工学研究科 森川 健太郎　特定研究員 井上 康博　教授 三村 知広　博士課程 1 年 新村 大輝　修士課程 1 年 國西 海渡　修士課程 1 年 油布 隆太　修士課程 1 年
T5	○	大学院工学研究科 松本 嘉彦　博士課程 3 年 根本 悠樹　博士課程 2 年
T6	○	大学院理学研究科 豊田 直人　博士課程 2 年 ヒト行動進化研究センター 平崎 鋭矢　准教授 服部 美里　支援職員
T7	○	大学院エネルギー科学研究科 尾形 清一　准教授 Matthew DUMLAO　研究員 Ruethai Onbhuddh　博士後期課程 中田 秀樹　博士後期課程 馬氷 瑩　博士後期課程 閻　儲玥　博士後期課程
T8	○	大学院文学研究科 埴淵 知哉　准教授 堀川 泉　博士課程 文学部 庄子 凜　学部 4 年 光本 凌大　学部 3 年
T9	○	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 大山 修一　教授 野田 健太郎　特任研究員 青池 歌子　機関研究員
T10	○	白眉センター（ヒト行動進化研究センター） 鴻池 菜保　特定准教授 ヒト行動進化研究センター 橋本（須田） 直子　技術専門職員 野生動物研究センター 澤田 晶子　特任研究員
T11	○	大学院文学研究科 千葉 豊　准教授 大学院農学研究科 杉山 淳司　教授 総合博物館 髙野 紗奈江　研究員
T12	○	大学院地球環境学堂 真常 仁志　准教授

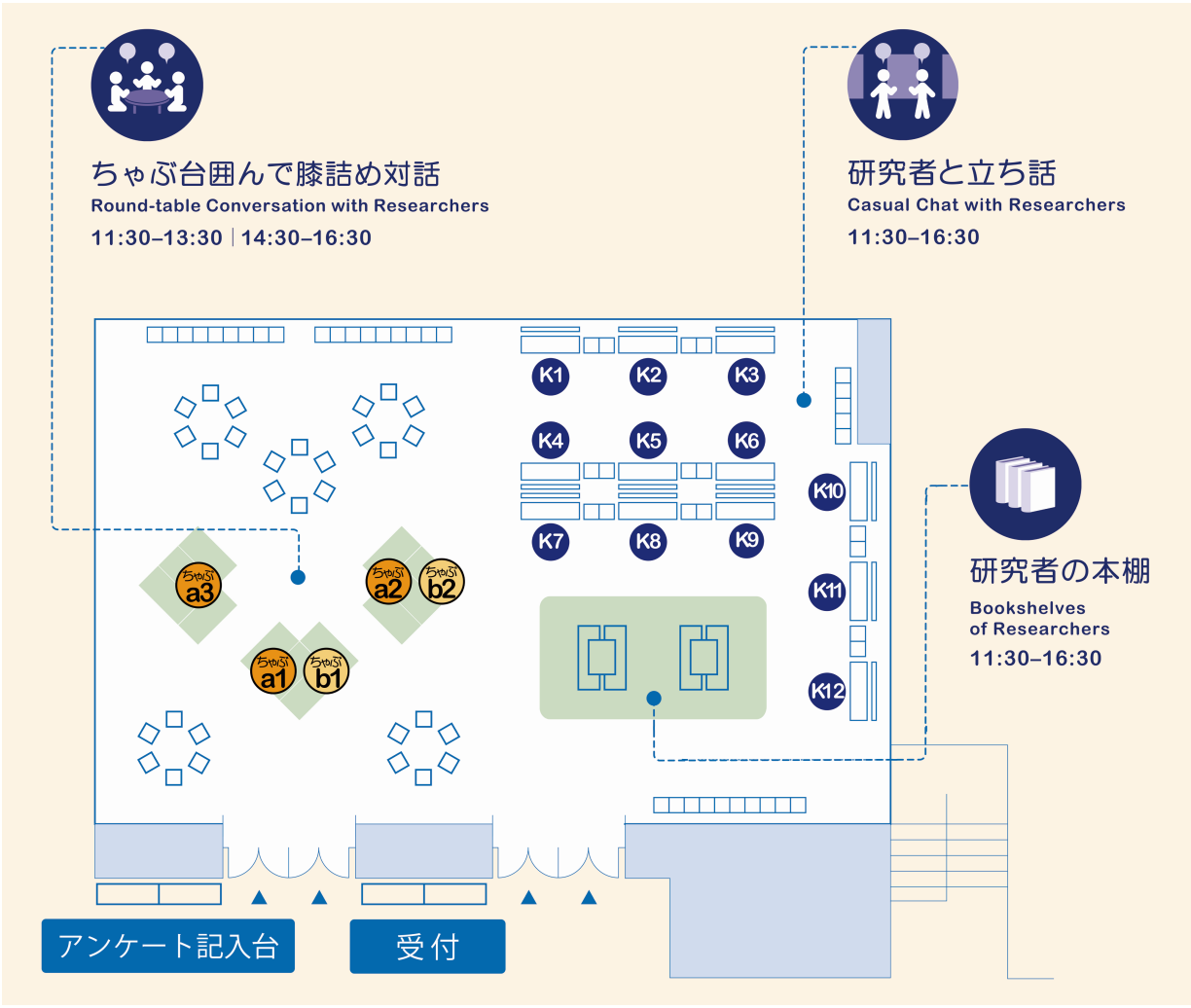
ブース番号	代表者○	所属 氏名　職名又は学年等
		大学院地球環境学舎 奥野 隼　修士課程 2 年 大学院農学研究科 喜安 奏太　修士課程 1 年
G1	○	医生物学研究所 河本 宏　教授 永野 誠治　助教 加藤 雄真　特定研究員 板原 多勇　博士課程 4 年 周 浩洋　博士課程 3 年 西岡 怜樹　博士課程 1 年
G2	○	iPS 細胞研究所 中川 誠人　講師 柚木 康弘　特定研究員 大学院医学研究科 正井 聡美　博士課程 2 年
G3	○	大学院医学研究科 Xiaoyan Ren　大学院生 渋江 省吾 博士課程 2 年生 Hafiza Ishrat Fatima 博士課程 2 年生 iPS 細胞研究所 Woltjen Knut　准教授 Suji Lee 特定研究員 Qi Fang 特定研究員 家弓 紗矢香　特定研究員 Gabriel Martínez-Gálvez　特定研究員 Nurfarhana Binti Ferdaos　特定研究員 Karen Kai-Lin Hwang 研究生
G4	○	医学部附属病院 森 拓也　特定助教 渡邉 卓也　特定講師
G5	○	大学院エネルギー科学研究科 薮塚 武史　講師 山村 優子　技術補佐員 綿引 湧大　修士課程 2 年 加藤 拓実　修士課程 1 年 工学部 西川 洸平　学部 4 年
G6	○	大学院理学研究科 川又 生吹　准教授 佐々木 望　修士課程 2 年 理学部 廣瀬 了哉　4 年 東 蓮太朗　4 年
G7	○	大学院医学研究科 田中 司朗　特定教授 大森 崇　特定教授 高木 佑実　特定研究員
G8	○	医学部附属病院 渡邉 卓也　特定講師 森 拓也　特定助教 後藤 淳　特定職員

ブース番号	代表者○	所属 氏名　職名又は学年等
G9		大学院情報学研究科
	○	後藤 幸織　准教授
G10		大学院医学研究科
	○	髙橋 良輔　特命教授
	○	眞木 崇州　講師
	○	山門 穂高　特定准教授
		医学部附属病院
		安田 謙　特定助教
		田口 智之　特定助教
		石本 智之　特定助教
		月田 和人　特定助教
		錦織 隆成　特定助教
		大学院医学研究科
		平藤 哲也　大学院 4 年生
		柳田 成史　大学院 4 年生
		菊谷 明広　大学院 3 年生
		中村 大和　大学院 2 年生
G11		大学院文学研究科
	○	伊沢 亘洋　博士課程
		児玉 聡　教授
		中村 貴行　博士課程 1 年
		沼田 詩暖　修士課程 2 年
G12		医学部附属病院
	○	西村　勉　特定准教授
ちゃぶ a1		ヒト行動進化研究センター
	○	足立 幾磨　准教授
ちゃぶ a2		大学院文学研究科
	○	宇佐美 文理　教授
ちゃぶ a3		総合博物館
	○	髙野 紗奈江　研究員
		大学院文学研究科
		千葉 豊　准教授
ちゃぶ a4		大学院理学研究科
	○	宇高 寛子　助教
ちゃぶ b1		大学院エネルギー科学研究科
	○	松井 隆太郎　助教
ちゃぶ b2		大学院文学研究科
	○	高木 博登　博士後期課程
		児玉 聡　教授
		西山 香帆　修士課程 1 年
		松岡 明香里　修士課程 1 年
ちゃぶ b3		大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
	○	井上 春緒　特定助教

第二部　京都大学アカデミックデイ x ホームカミングデイ 2024

1．概要

1−1．京都大学アカデミックデイ x ホームカミングデイ 2024 会場配置図



2．プログラム

2−1．研究者と立ち話

■ 2−1−1．概要

日時　　11 月 2 日（土曜日）11 時〜18 時
会場　　京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

大学研究者による研究紹介のコーナー。今年度は合計 12 のポスター展示がずらりと並び、ポスターの前ではその研究を行っている研究者が来場者と直接語り合いました。中には、ポスターの前に模型や実験器具、モニターや資料等を並べ、それらを使って研究を紹介する研究者の姿も多く見られました。来場者からのアンケートには「研究は意外と、自分の身の回りの事柄に対して行われている。 知ろうとすることが大切だと思いました」といった、対話イベントならではの感想が寄せられました。そのほか、「学会の雰囲気で楽しかった」など、まちなかでの開催とは異なる学内での開催ならではの感想も寄せられました。

■ 2－1－2．「研究者と立ち話」出展一覧

出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
田中宏樹（大学院情報学研究科）	大地震発生の先駆的な滑りはあるか？
峰尾恵人（化学研究所）	歴史と化学から考える森林と社会の未来
横川隆司（大学院工学研究科）	Let’s make 臓器！
生野真嗣（大学院医学研究科）	医学教育の現在と未来
原田英典（アフリカ地域研究試料センター／アジア・アフリカ地域研究研究科）	水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を防ぐ
志津功將（化学研究所）	分子の振動を自在に操る振電工学
今中雄一（大学院医学研究科）	これからの予防・健康づくりに重要な価値
真尾朋行（大学院情報学研究科）	ビッグデータ分析でデジタルヘルスケアの世界へ
佐藤徹（福井謙一記念研究センター）	光らない分子を光らせる
齊藤博英（iPS 細胞研究所）	RNA ～生命を紡ぐ紐～
村上一馬（大学院農学研究科）	メタアグリゲートって何？
北畠真（医生物学研究所）	合成生物学で世界を変えよう

2−2．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

■ 2−2−1．概要

日時　　11 月 2 日（土曜日）11 時 30 分～13 時 30 分／14 時 30 分～16 時 30 分
会場　　京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」は、研究にまつわるあんな話、こんな話を、来場者と研究者がお茶の間気分で話し合うコーナーです。会場には 4 帖の畳から成る 4 つのちゃぶ台ブースを設置。11 時 30 分から 13 時 30 分の間に 3 つ、14 時 30 分から 16 時 30 分の間に 2 つ、計 4 つの研究者／グループが対話に臨みました（1 ブースは当日欠席）。各研究者／グループは「どんな研究を行っているのか」「なぜその研究をしているのか」などを説明。座ってゆっくり対話ができる形式では、立ち話とはまた違った雰囲気が醸成され、来場者は研究者の話にじっくりと耳を傾けながら様々な質問を投げかけ、研究者と対話しました。

■ 2−2−2．「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」出展一覧

日時	出展代表者氏名（所属）	出展タイトル
11 月 2 日（土） 11:30～13:30	趙亮（大学院総合生存学館）	一人の価値の計算―200 年の間違い
	鳥嶋雅子（大学院医学研究科）	あなたが創るゲノム時代の未来
	長谷川恵美（大学院薬学研究科）	睡眠の不思議について（当日欠席）
11 月 2 日（土） 14:30～16:30	梅野健（大学院情報学研究科）	電離圏を用いた地震予知
	田代藍（大学院人間・環境学研究科）	人はなぜ自然とつながると癒されるのか？

2−3．研究者の本棚

■　2−3−1．概要

日時　　11 月 2 日（土曜日） 11 時 30 分～16 時 30 分
会場　　京都大学百周年時計台記念館 2 階国際交流ホールⅡ・Ⅲ

京都大学アカデミックデイに出展する研究者の推薦図書を展示した「研究者の本棚」を企画。会場では、多くの来場者が本を介して研究者と対話しました。本企画は、京都大学附属図書館協力のもと、会場内にて展示されました。書籍のラインナップとして、本報告書の最後に推薦図書のブックリストを付けています。

■　2−3−2．研究者おすすめの書籍

京都大学アカデミックデイに参加している研究者に、事前に「今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本」「今ハマっている本」「若者にお勧めしたい本」「自分の研究に関連して紹介したい本」の 4 つの質問をし、会場ではその本と、選んだ理由などのコメントを紹介。来場者に本から研究者のことを知ってもらい、また当日参加している研究者との対話のきっかけになることを狙って企画をしました。当日は学術書だけでなく、小説や漫画など幅広いジャンルがずらりと並び、来場者が興味深そうに手に取る様子が見られました。

３．アンケート

３−１．来場者アンケート

■　３−１−１．アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、来場された方へアンケートにご協力いただきました。ゼスト御池での開催と同様、1）来場された方の属性（イベントを知ったきっかけや年齢職業など）、2）滞在時間や研究者との対話で印象に残ったことなどを回答いただき、1）2）どちらにも回答いただくことでおかえりの際に記念品と交換できるようにしました。なお、時計台では受付・アンケート記入場所が一箇所に集約できたため、ウェブ上での回答は収集せず、紙のアンケートのみで受け付けました。（※ アンケートの 2)および記念品はゼスト御池と同じ内容であるため掲載は割愛します。）

■　3－1－2．学内開催と学外開催における参加者の違い

　ホームカミングデイとの共催は初めての試みです。時計台での単独開催や、ゼスト御池での開催と比べて、参加者にどのような違いがあり、アカデミックデイに対する受け止め方がどう違うかをアンケートから読み取ることを試みました。

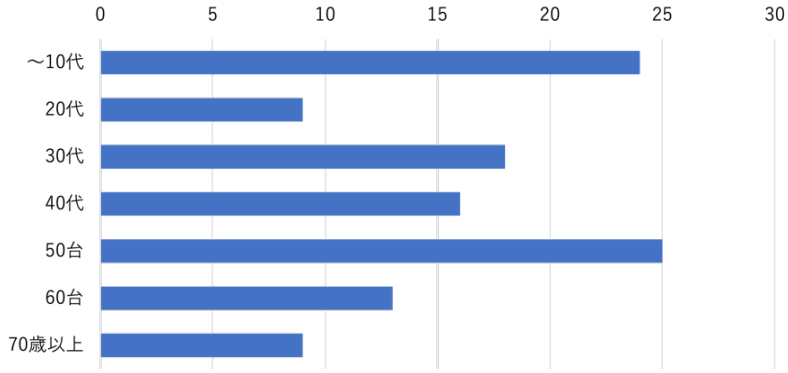
● 参加者数／アンケート回答者数

・来場者　227 人 / 回答者数　127 人（回収率　57.7%）

　ゼスト御池に比べて出入り口が一箇所に集約されていたため参加者の把握、アンケート回答への呼びかけをしやすい状況でしたが、必ずしもアンケート回収率は高くありませんでした。今回の場合、ホームカミングデイのついでにアカデミックデイに参加した方々も多かったことが影響しているかもしれません。

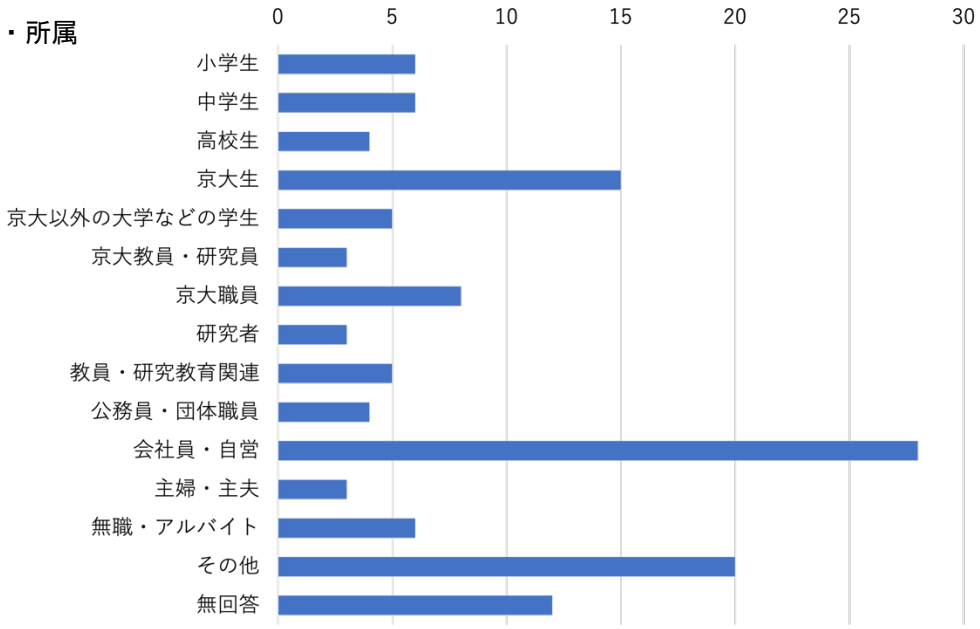
参加した人はどのような方だったのか？

・年齢層



（単位：人）

・所属

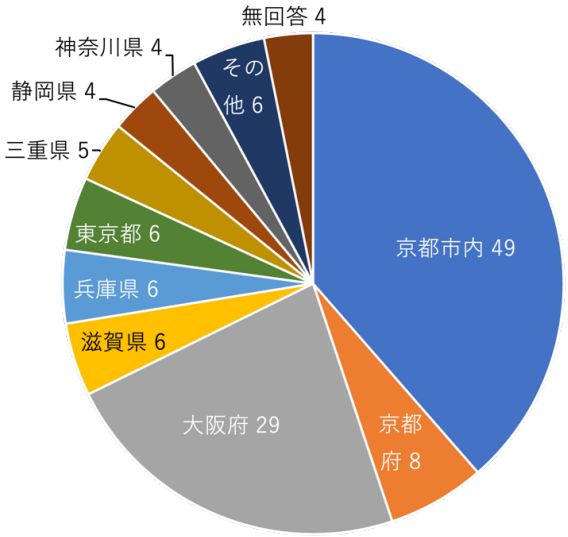


（単位：人）

ゼスト御池では 10 代の参加が最も多く次が 40 代でしたが、50 代が最も多い結果となりました。ゼスト御池と比べると 60 代 70 代の割合も高く、ホームカミングデイの参加者層平均年齢が高めであることによるものと考えられます。年齢層に対応して、小中高生の割合が少なくなっています。

・住まい

普段のアカデミックデイと違って、関西圏以外の参加者が約 2 割います。ホームカミングデイには全国各地から参加があることを反映しています。開催日は悪天候で、遠方からホームカミングデイへの参加を諦めた方もいるとのことで、好天であればさらに関西圏以外の参加者が増えた可能性があります。



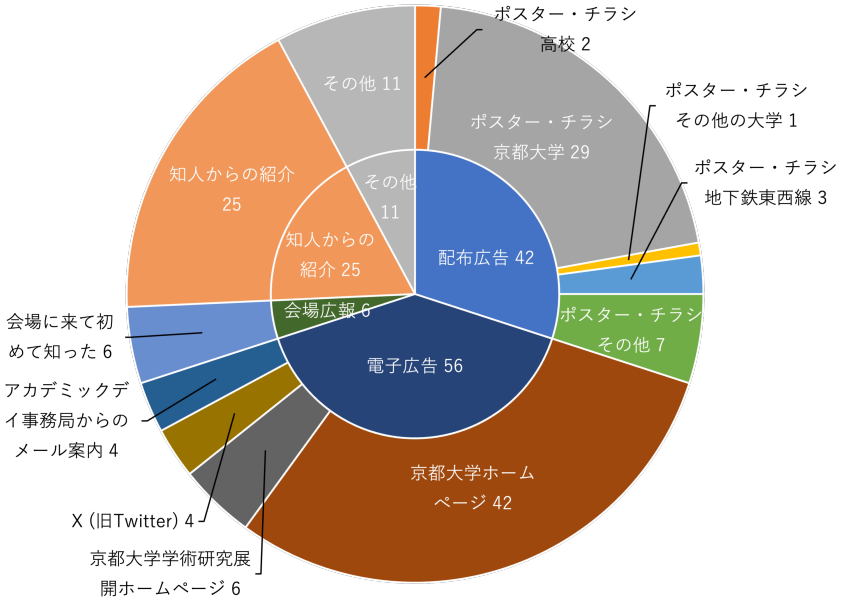
（単位：人）

※ その他：奈良県 2、韓国 2、福井県 1、愛知県 1

● 参加者 / 来場者は京都大学アカデミックデイをどこで知ったのか？

・開催を初めて知ったところ（全体）

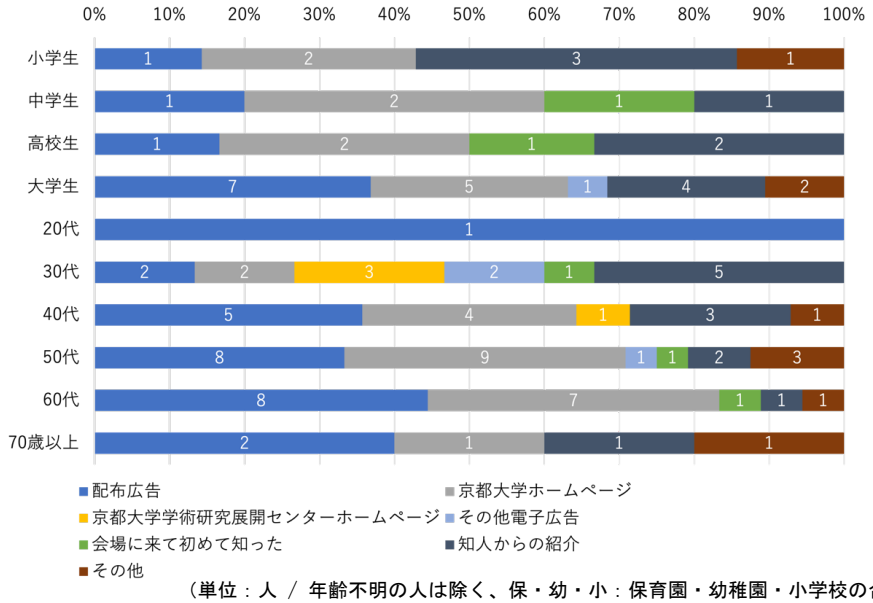
これまでのアカデミックデイの際の全体の傾向とは異なり、チラシやポスターよりホームページ、メール、SNS などのインターネットを通じた広告で知った、と言う人が多くなりました。中でも京都大学ホームページで知ったと言う人が多く、ホームカミングデイのサイトを見て知った方であると考えられます。



（単位：件）

年代別のデータは回答数が少ないため傾向を読むのは難しいのですが、50 代 60 代がチラシやポスターと京都大学ホームページに集中しているのに対し、30 代ではさまざまな広報媒体が情報源となっているという違いが見て取れます。

・開催を初めて知ったところ（年代別 ※いずれも複数回答を含む）

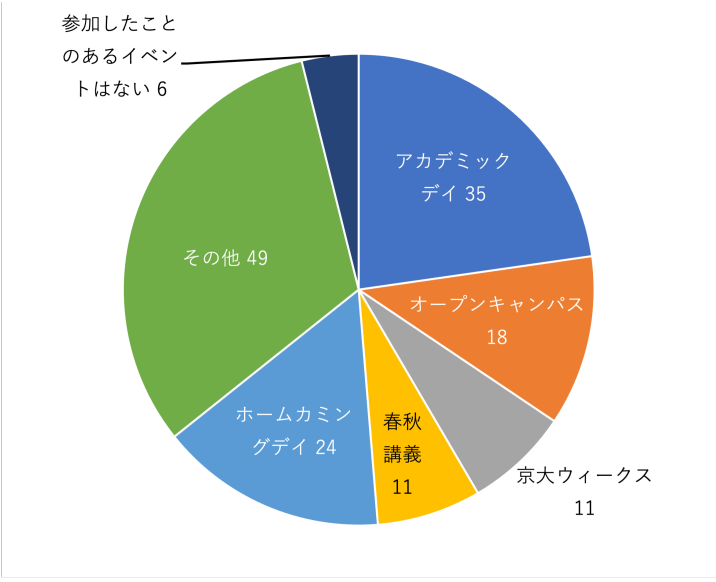


（単位：人 ／ 年齢不明の人は除く、保・幼・小：保育園・幼稚園・小学校の合計、以下同じ）

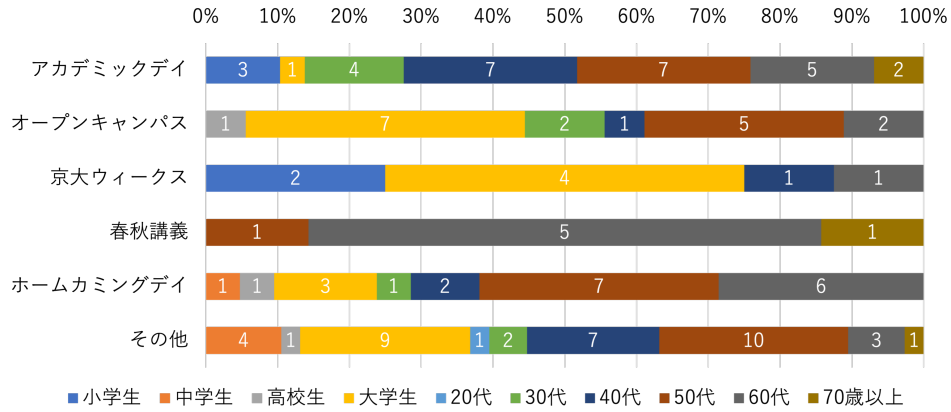
● 京都大学のイベントに参加したことはありますか？

今回のほとんどの参加者が以前に何かの京都大学のイベントに参加したことがあり、これは昨年度と今年度のゼスト御池での参加者や、以前の時計台での参加者とは大きく異なる特徴でした。普段のアカデミックデイと異なり、今回の時計台での開催に関してはホームカミングデイの一部として広報したため、京都大学関係者や関係イベント参加者以外にはあまり情報が届かなかったのかもしれません。

・本イベントの他に、参加したことのある京都大学のイベントは何ですか？（複数回答可）



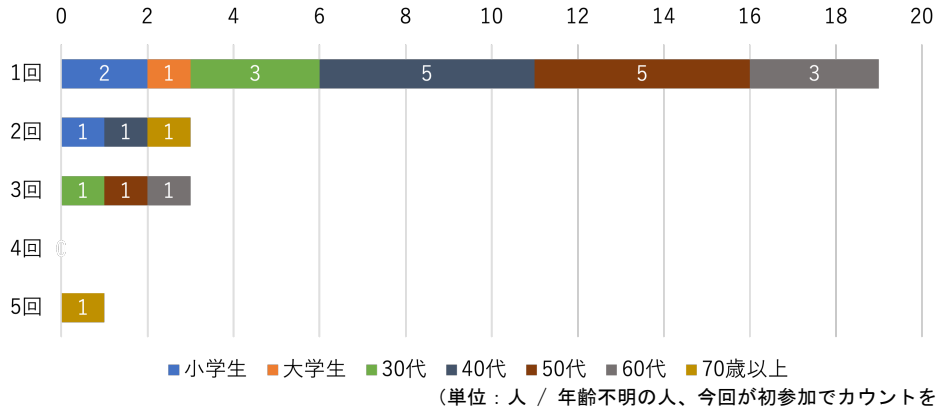
（単位：件）



（単位：人 / 年齢不明の人は除く）

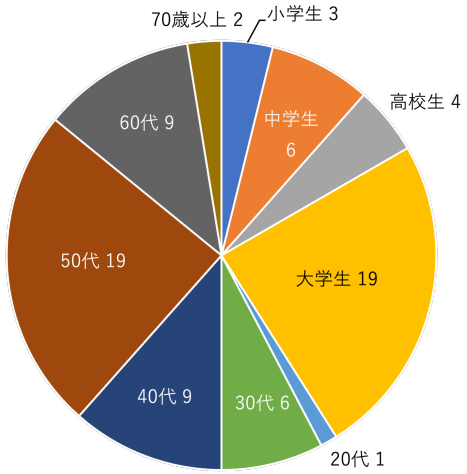
・京都大学アカデミックデイに過去に何回参加しましたか？

過去のアカデミックデイへの参加回数を見ると、ゼスト御池よりも 2 回以上参加経験のある人の割合が少なくなっています。初めて参加した人の内訳を見ると、大学生のほとんどは今回初参加であることがわかります。今回参加した大学生の 3/4 は本学の学生であり、学内の開催であったから初めて参加してみた京大生がいたのかもしれません。



（単位：人 / 年齢不明の人、今回が初参加でカウントを 1 とした人は除く）

・京都大学アカデミックデイに初めて参加した人の内訳

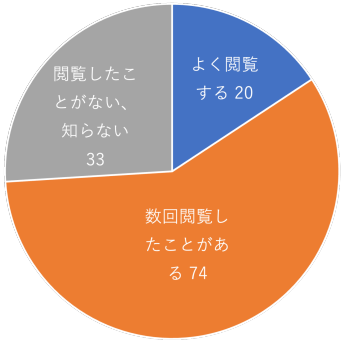


（単位：人）

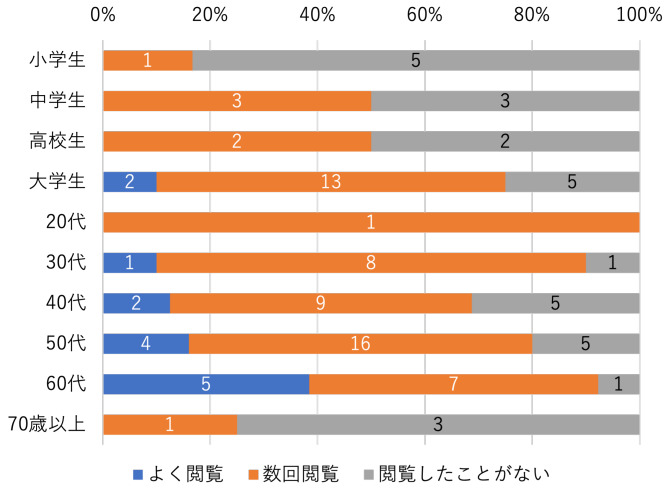
● 京都大学ホームページや京都大学 Facebook サイトを閲覧されたことはありますか？

ホームページなどを閲覧したことがない人の割合が、ゼスト御池の参加者より低くなっています。本学出身者が多数参加するホームカミングデイとの共催であり、本学出身者や本学の学生がアカデミックデイに多数参加したことを反映していると考えられます。

・全体



・年代別

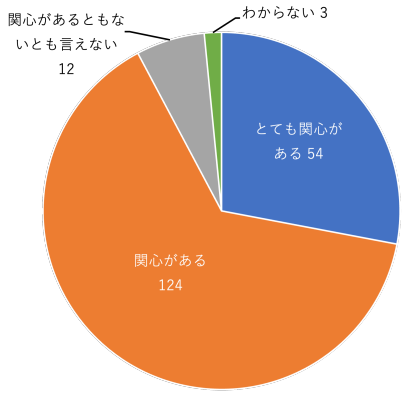


（単位：人）

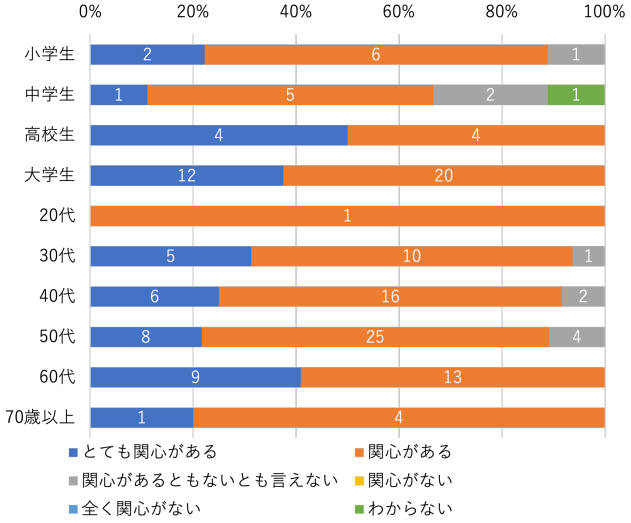
● 科学・技術に関心がありますか？

科学・技術への関心に対する回答は、ゼスト御池の参加者よりも「とても関心がある」と答えた人の割合が少ない結果となりました。年代別に見ると、今回参加者が多かった 30 代から 60 代の参加者で「とても関心がある」と答えた人が、ゼスト御池より少なくなっていることが大きく寄与しています。これが何を意味するか、解釈は難しいところです。

・全体



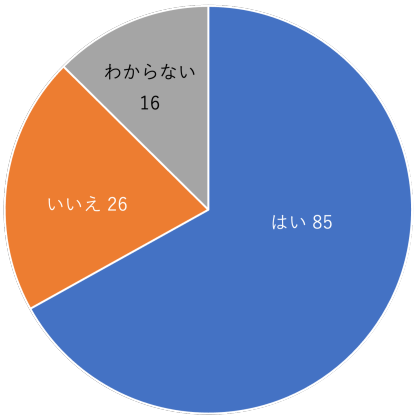
・年代別



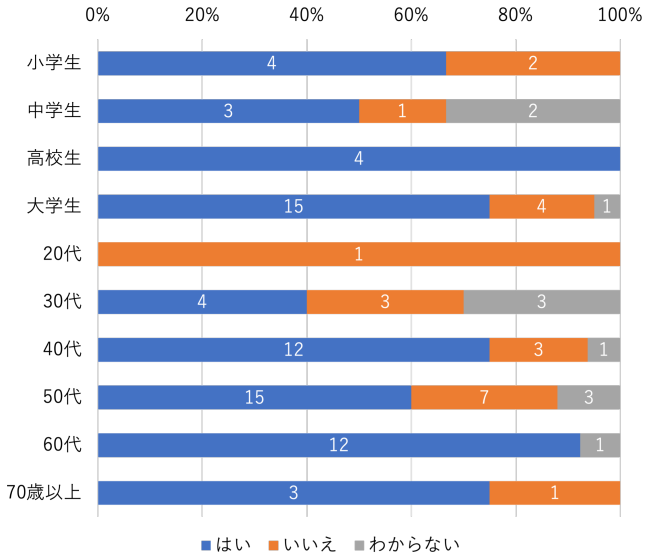
（単位：人）

● 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？

・全体



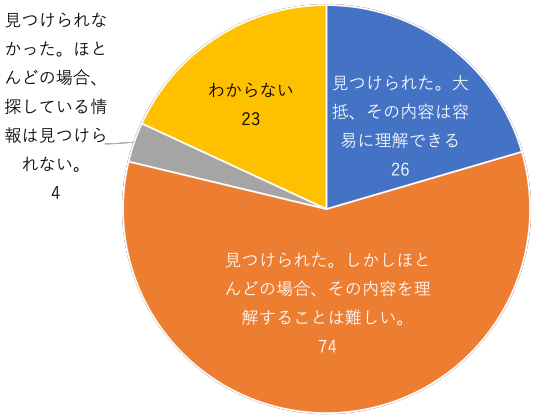
・年代別



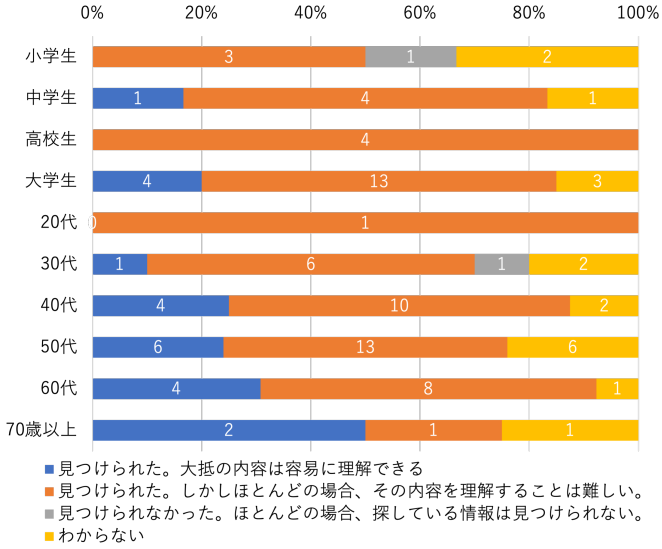
（単位：人）

● 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？

・全体



・年代別

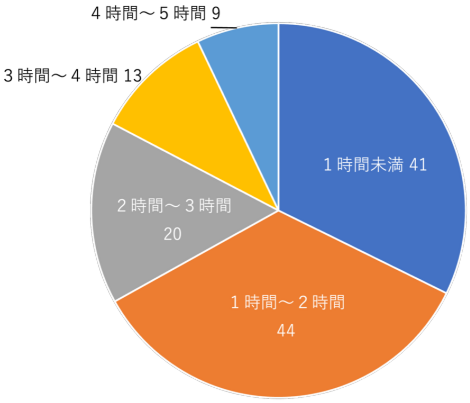


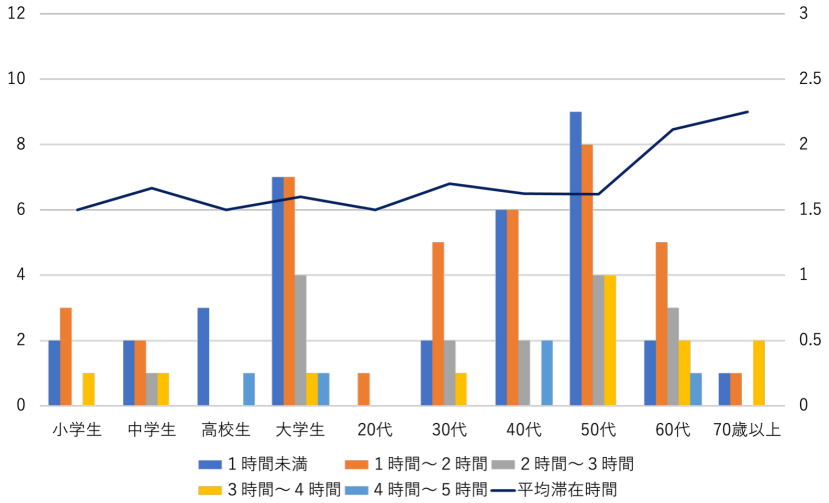
（単位：人）

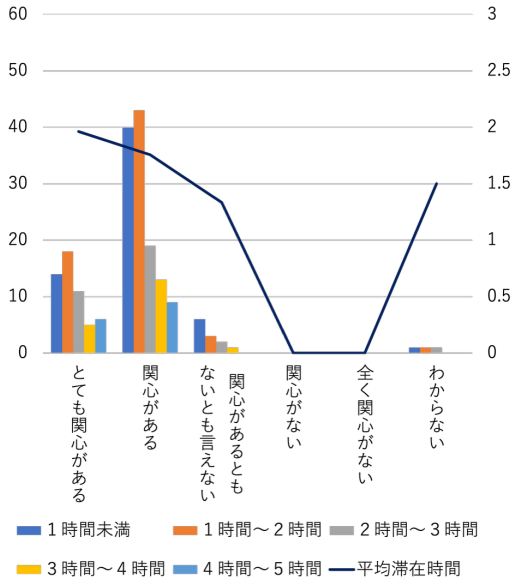
■ 3－1－3．イベント参加後のアンケート結果

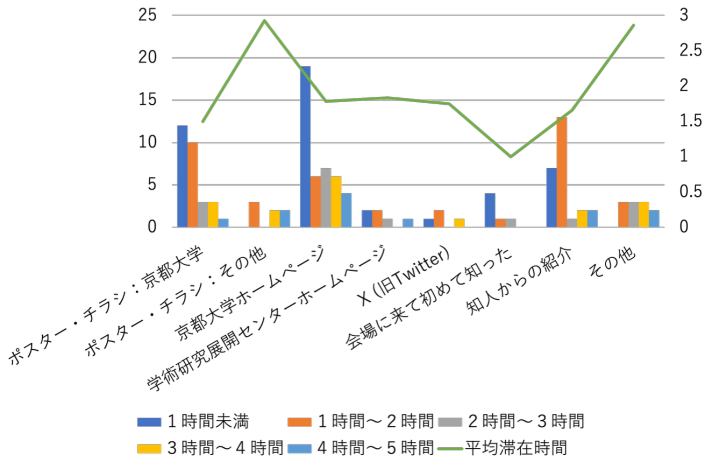
● 京都大学アカデミックデイの滞在時間はどの程度でしたか？

全体の平均滞在時間は 1.7 時間とゼスト御池よりも短くなりました。出展ブース数がゼスト御池よりも少ないことによると思われます。年齢別の滞在時間では、該当する人数は少ないですが 60 代以上の滞在時間が平均よりも長くなっており、ゼスト御池とは異なる傾向を示します。科学への関心度と滞在時間の関係には、やはり関心度が高いほど滞在時間が長い傾向がありました。「どこで知ったか」と滞在時間数の関係は、平均から離れた時間を示す情報入手先の人数が少なく、何らかの傾向を見出すことは難しくなっています。



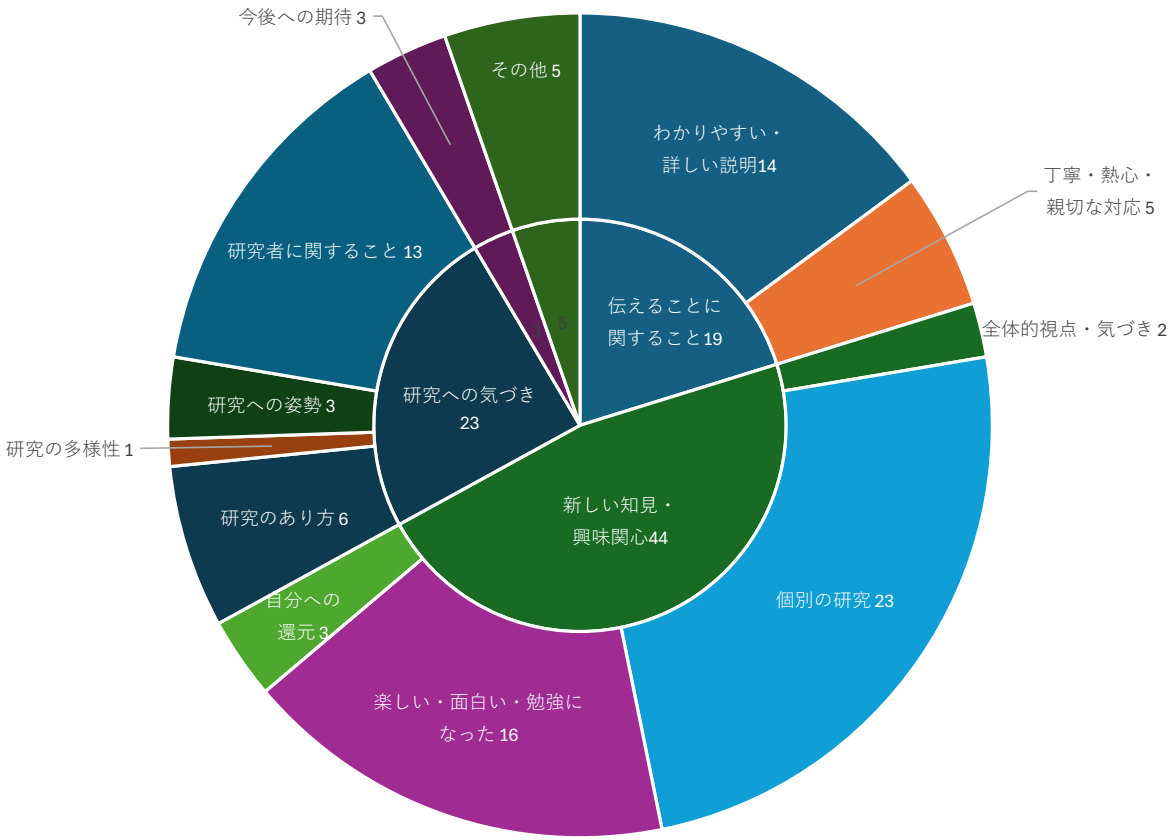






※ 平均滞在時間は、「1 時間未満」を 30 分、「1 時間～2 時間」を 1.5 時間、「5 時間以上」を 5.5 時間などとして算出。
全体の平均滞在時間は、1.7 時間。無回答を除く。

● 研究者と話して、発見したこと、気づいたこと、印象に残ったことは何ですか？



（単位：件）

・主な意見（抜粋）

〈「伝える」ことに関すること（19 件）〉

<u>わかりやすい・詳しい説明（14 件）</u>

- 難しい内容をかみくだければ伝わる！
- 例え話とかで分かりやすく勉強できた。
- 子どもにも分かりやすく説明してくださいました。
- 研究の背景が理解できない。

<u>丁寧・熱心・親切な対応（3 件）</u>

- 研究者の人とは話が難しすぎて、会話が成立しないのでは、と心配していたが、ちゃんと聞き手のレベルに合わせてくれた。
- 研究についてのお話、熱意を近くで感じられて、とても良かったです！

〈新しい知見・興味喚起（44 件）〉

<u>全体的視点・気づき（2 件）</u>

- 難しい事を研究されていると思っていたことが、 実は自分達の生活に身近なものであると感じたこと。
- 研究は意外と、自分の身の回りの事柄に対して行われている。 知ろうとすることが大切だと思いました。

楽しい・勉強になった・面白い（16 件）

- 違う分野の研究者のお話を、じっくり聞けて楽しかったです！
- 普段ニュースでしか触れることがなかったり、慣れ親しんでいない分野について深く知ることができて良かったです。

自分への還元（3 件）

- 他の方々の研究内容を知れたことで、自分の研究に新たな視点をもたらせそうだと感じました。
- 皆さん、分かりやすく伝える工夫をされていて参考になりました。

〈研究一般への気づき（22 件）〉

研究のあり方（6 件）

- 仮説について議論することで、新たな知見を得られる。
- 研究成果が実社会に活用されることの大切さ。
- データの重要性

研究の多様性（2 件）

- ひとつの分野の広がりの大きさ。

研究への姿勢（3 件）

- 目のつけどころが面白い。
- 一つのことを極めようとされている真髄な姿勢
- 近未来を見据えてらっしゃる。

研究者に関すること（13 件）

[生き生き・楽しそう（5 件）]

- ご自身の研究を楽しそうに話されていて、印象深かった。

[真剣・夢中・熱意（4 件）]

- おもしろい研究のために、力を注ぎ、解決しようとすることがおもしろかった。
- 研究者の方々の信念や情熱が伝わってきたことがとても印象に残りました。

[考え方・思い・モチベーション（2 件）]

- 学部、大学の枠を超えて、真理に近づき、解決しようとしている。
- みなさんポジティブ

[その他の研究者の印象（2 件）]

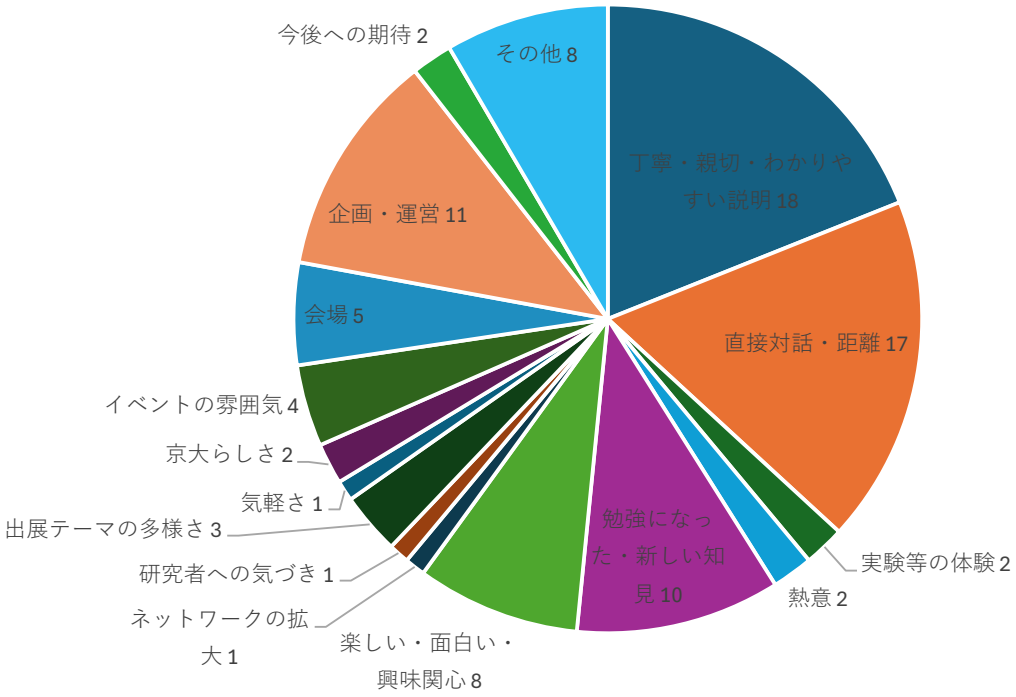
- 研究してくださっている皆様方が、研究を知ってほしいという熱意と、理解してもらうための工夫などしてあり、面白かったです。

〈今後への期待（3 件）〉

- 学生さんの一生懸命お話されている姿に感動しました。日本の将来が楽しみです。
- 社会実装可能な研究だと感じた。
- 高校、中学の子供も連れてきたいので 次回もぜひお願いします。

● 「京都大学アカデミックデイ」の、良かった点・悪かった点をおしえてください。

〈良かった点〉



（単位：件）

・主な意見

〈丁寧・親切・わかりやすい（18 件）〉

● 内容

● 説明が一般の人間でも理解できるよう、噛み砕いていただけたこと。

〈研究者との直接対話・距離（17 件）〉

● いろいろな研究テーマやその過去を実際に聞くことができたこと。

● 日頃からの疑問点について、直接会話を通して知ることができた点。

〈熱意（2 件）〉

● パネル展示が見やすくて、研究者の方が熱い。

〈勉強になった・新しい知見（10 件）〉

● 今どういった研究をされているか一部知ることができた。

● もう５～６年通っています。 新しい知識を得るということは 楽しい時代が流れていく事を実感できる。

〈楽しい・面白い・興味関心（8 件）〉

● 研究者様の様々な本に、個性やこだわり、世界観が広く表れていておもしろいと感じた。

〈研究者への気づき（1 件）〉

● 本当に好きな人が沢山集まっていた。

〈出展テーマの多様さ（13 件）〉

● 多種多様な研究をしていて、すごいと思いました。

〈京大らしさ（2 件）〉
- 京大力が表れていて素晴らしいです。

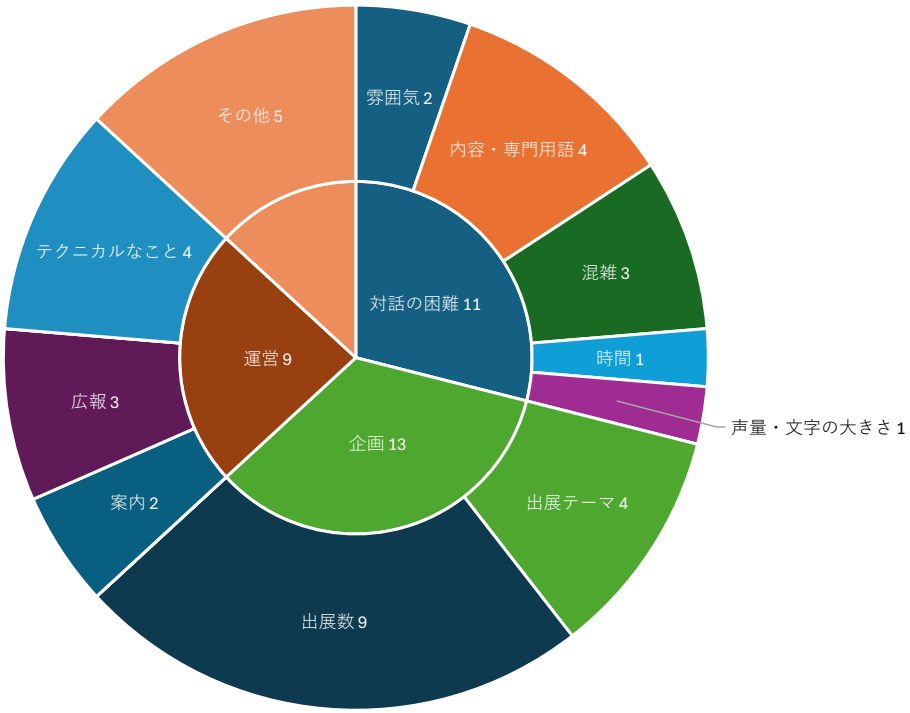
〈イベントの雰囲気（4 件）〉
- にぎやかだった。
- 学会の雰囲気で楽しかった。
- アットホームなところ。

〈会場（5 件）〉
- 休憩用のイスが所々にあって助かりました。
- 落ち着いた会場だった。

〈企画・運営（11 件）〉
- パネル展示が見やすくて、研究者の方が熱い。
- 「研究者の本棚」が面白かったです！ 読んでみたくなった。
- 一般に公開していること。
- いろいろな分野が同時に見られるのもよかった。

〈今後への期待（2 件）〉
- 半年に一回くらいお願いしたいです。

〈改善点〉
（グラフ）



（単位：人）

※ 特にないと回答した 11 名は除く。

・主な意見（抜粋）

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：雰囲気（2 件）〉

- 同じブースの出展者の人が話していて、説明を頼みづらかった。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：内容・専門用語（4 件）〉

- 少し難しい内容もあったと思います。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：混雑（3 件）〉

- 来場されている方が多く、ポスターの資料を見るのがやっとなブースもあったので、ポスターだけで内容や用語、構成が理解できるとうれしいです！

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：時間（1 件）〉

- 時間足りなかった。

〈「対話」に関して、困難を感じたこと：声量や声の大きさ（1 件）〉

- 若干、ききとりにくいところがありました（周囲の音で）。

〈企画に関するもの：出展テーマ（4 件）〉

- もう少し色々な種類の研究を見てみたかったです。

〈企画に関するもの：出展数（9 件）〉

- 思ったより出展数が少なかった。
- もう少し大規模にしてほしい。スタートをもう少し早い時間に。

〈運営に関するもの：案内（2 件）〉

- ちゃぶ台が、どれがどのブースか分かりづらく、また閑散としている所が行きづらかった。 何かテーマがある方が面白そう。
- 入口が分かりにくくて勿体ないと思いました。

〈運営に関すること：広報（3 件）〉

- もっと事前に PR があれば、一層良かったと思います。

３−２．出展者アンケート

■　３−２−１．アンケートの設計とねらい

京都大学アカデミックデイでは、出展者のみなさまにもアンケートにご協力いただきました。京都大学アカデミックデイに参加した感想、印象に残ったこと、また今後の開催にあたってのご意見・ご提案や、研究者による広報活動の本学での支援についてのご意見・ご提案もご記入いただきました。

● 出展者アンケート

〈方法〉

・ウェブフォームから回答
・連絡担当者を通して参加研究者全員にウェブフォームからの回答を依頼
・アンケート受付期間：13 日間

〈設問〉

・問 1.　「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想を、以下のそれぞれの項目についてお聞かせ下さい。（回答必須）
［選択肢：大いにそう思う、ややそう思う、どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない］
（a）専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた
（b）専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった
（c）自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった
（d）自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた
（e）他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた
（f）研究内容を専門外の人に説明する訓練となった
（g）参加は日々の研究活動の負担となった
（h）機会があったらまた参加したい
（i）このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい
（j）他の研究者との交流の機会になった

・問 2.　来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or　必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。
（非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください）

・問 3.　来場者と対話をする際に、どのようなことが特に印象に残りましたか。差し支えなければ、その理由とともにお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 4.　「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってご意見（良かった点・改善点）や今後に向けたご提案などありましたらお書きください。（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）
4-1【良かった点】
4-2【改善点/課題】
4-3【今後に向けた提案】

・問 5. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後「このような来場者ともっと話したい」というご希望がありましたらお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 6. 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・問 7. 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。
（回答は任意です。非公開を希望される方は、「非公開希望」等を記載ください。）

・役職（回答必須）
［選択肢：教授、特定（特任）教授、准教授、特定（特任）准教授、講師、特定（特任）講師、助教/助手、特定（特任）助教/助手、研究員、博士課程（博士課程後期）大学院生、修士課程（博士課程前期）大学院生、その他］

・研究分野（回答必須）
［選択肢：社会科学系、人文科学系、理工学系、医薬生命科学系］

・お名前（回答必須）

・ご所属（回答必須）

・ご連絡先（E-mail）（回答必須）

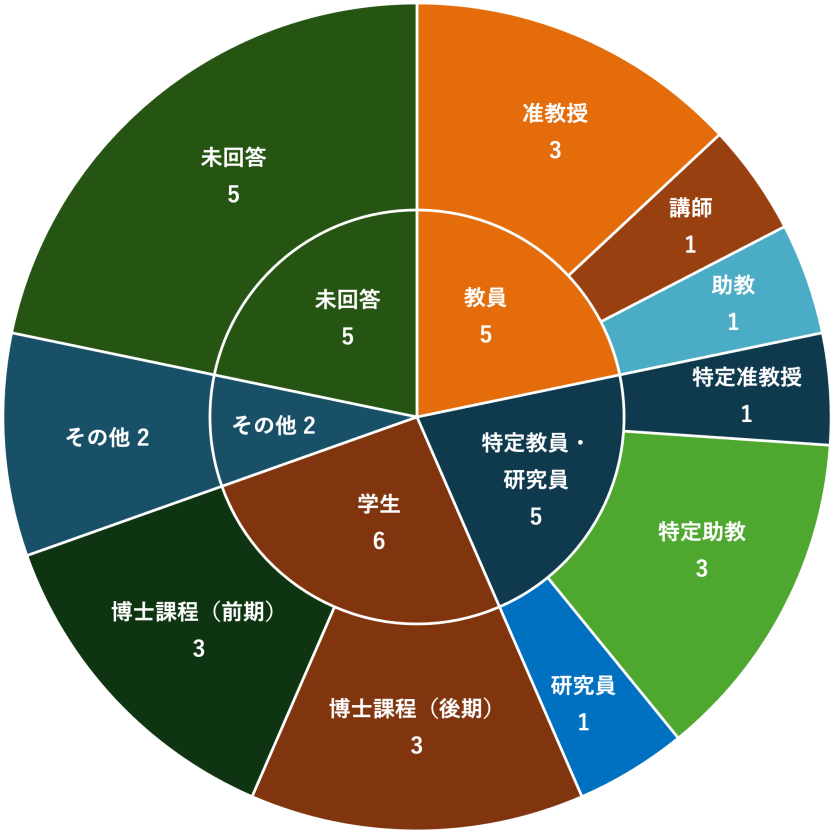
・出展代表者並びにメンバーの氏名、ご所属、職名（または学年）については、出展申込書の情報をもとに報告書に記載する予定です。出展申込書に記入いただいた時点からいずれかの情報に変更がある場合は、変更点をご記入ください。
※ 出展申込書に記載がないメンバーで、報告書に記載したい方がいらっしゃる場合、氏名／ご所属／職名または学年をご記入ください。

■ 3－2－2．「出展者アンケート」の結果

出展者数　68 人（のべ数）
回答者数　23 人（回収率　33.8%）

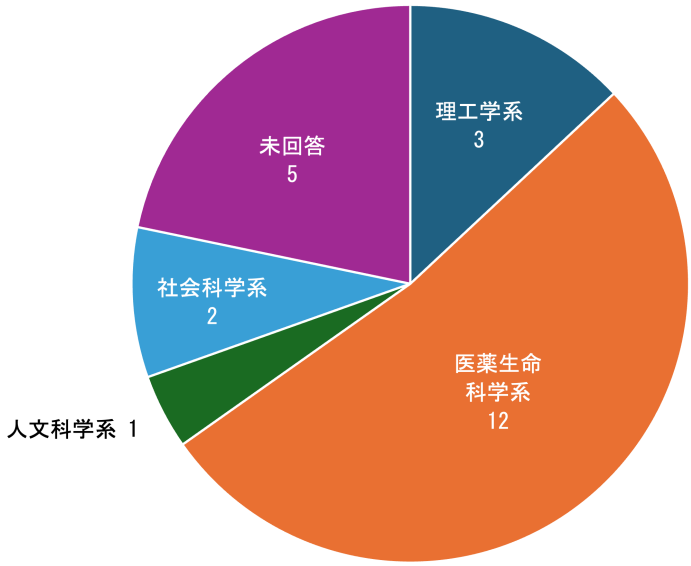
● 回答者の属性

・職業による回答者属性



（単位：人）

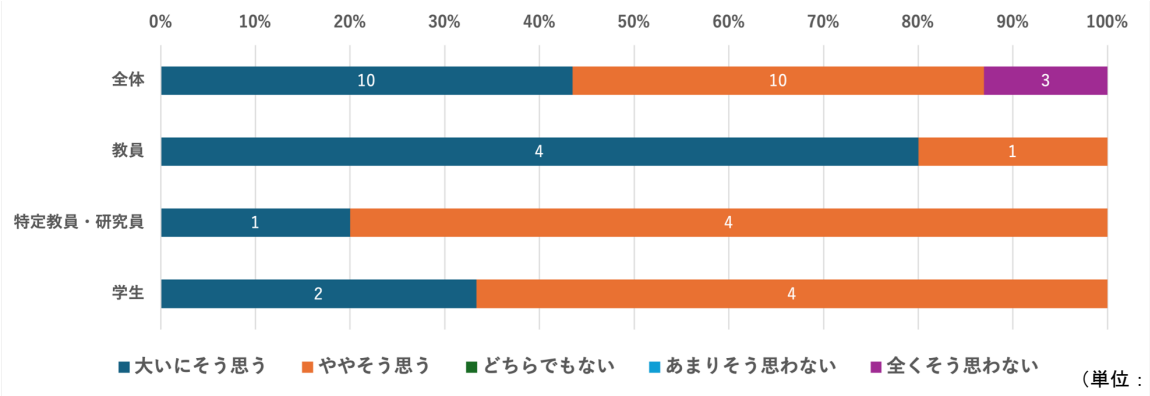
・専門分野による回答者属性



（単位：人）

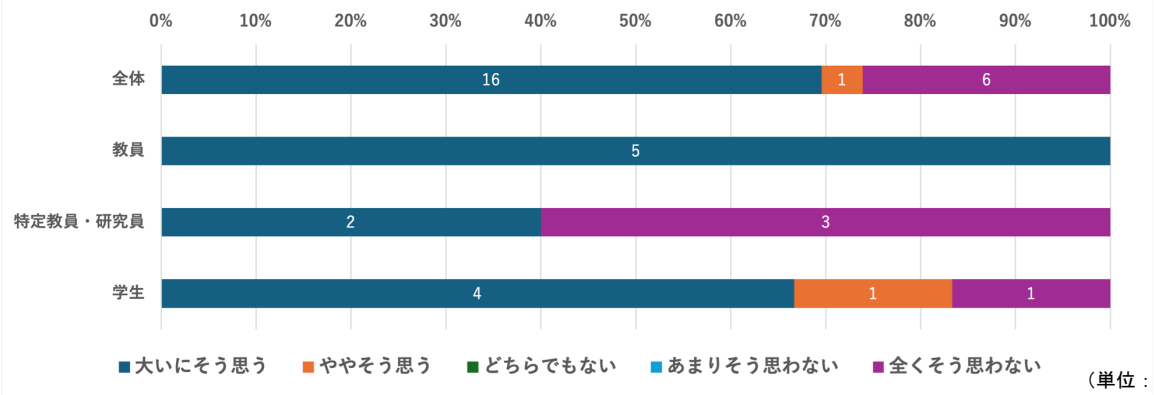
● 「京都大学アカデミックデイ」に参加した感想

（a）専門外の人の自分の研究に対する興味・理解度などを把握することができた



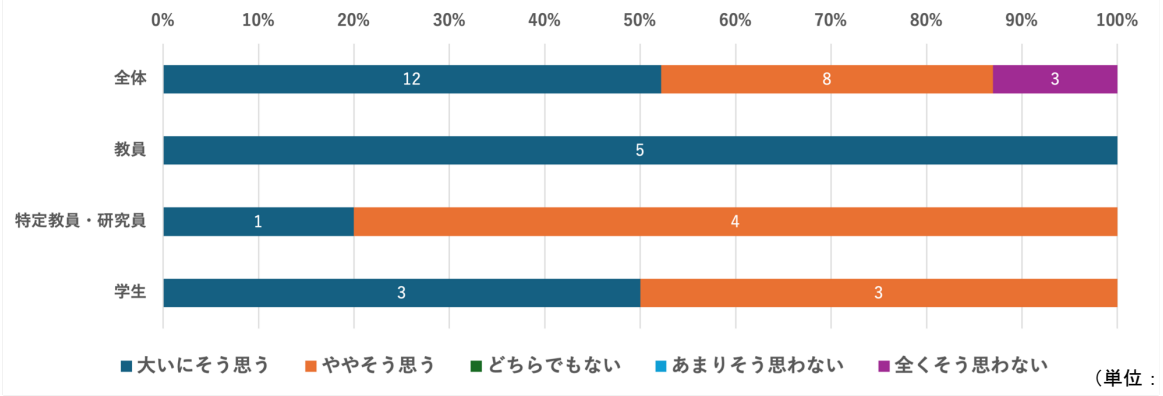
（単位：人）

（b）専門外の人と話すことで、研究の意味や目的をあらためて考えるようになった



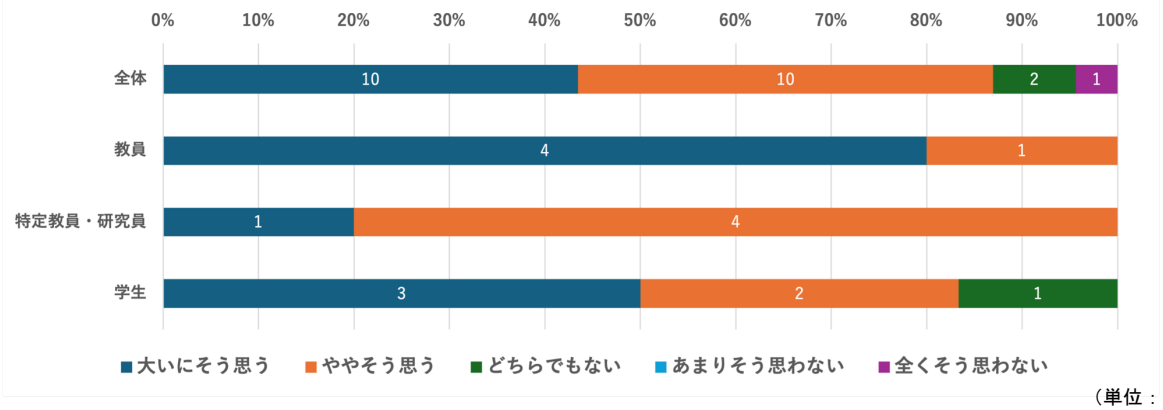
（単位：人）

（c）自分の研究と人々の生活との関わりを意識するようになった



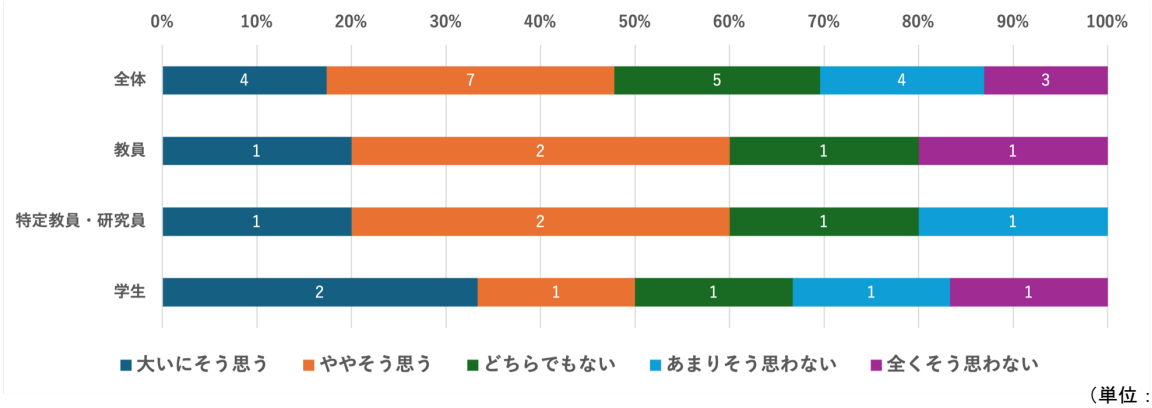
（単位：人）

（d）自分の研究に対する説明責任の重要性に気付いた



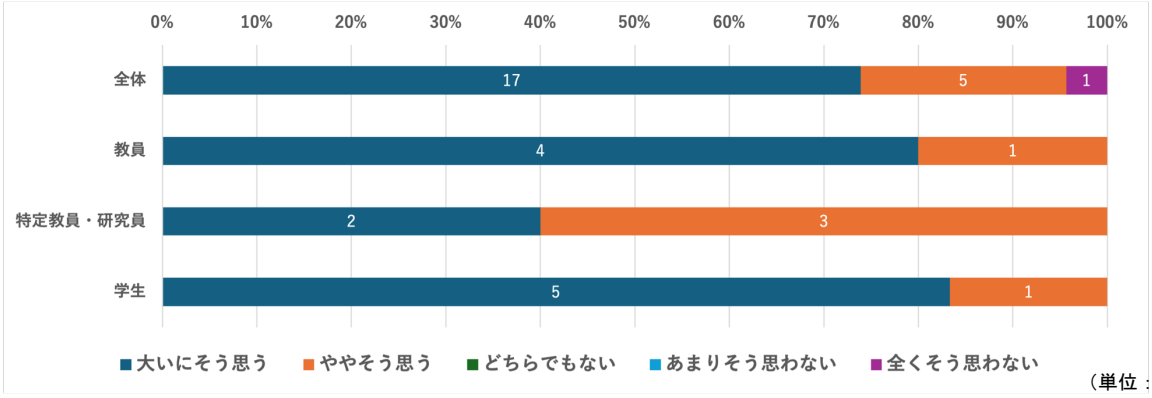
（単位：人）

（e）他の研究グループから、今後の研究方針に関する示唆を得ることができた



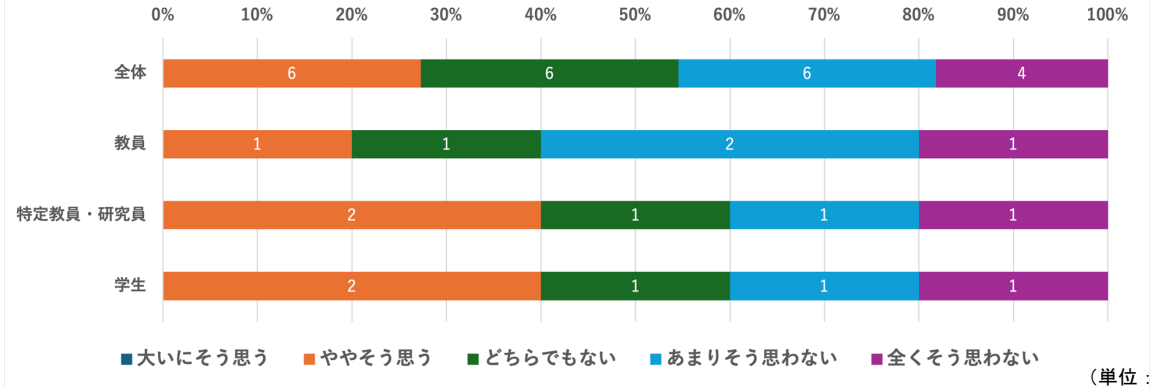
（単位：人）

（f）研究内容を専門外の人に説明する訓練となった



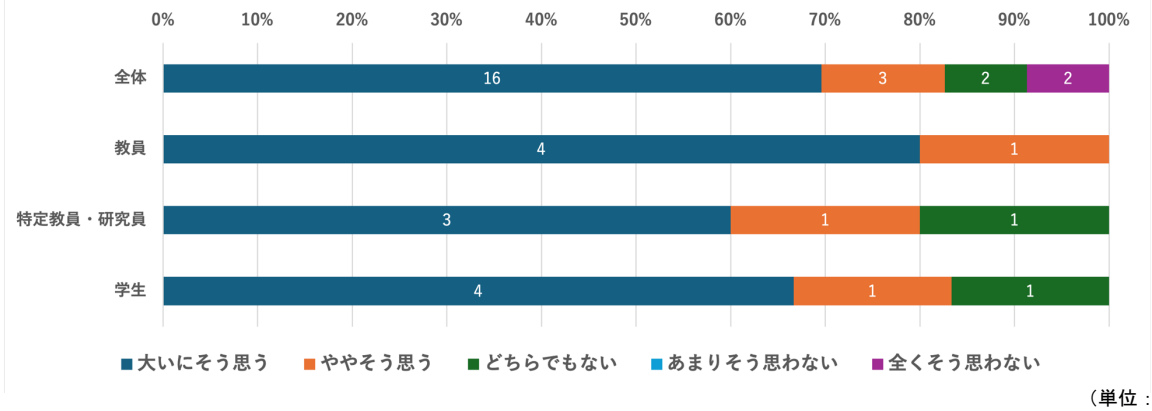
（単位：人）

（g）参加は日々の研究活動の負担となった



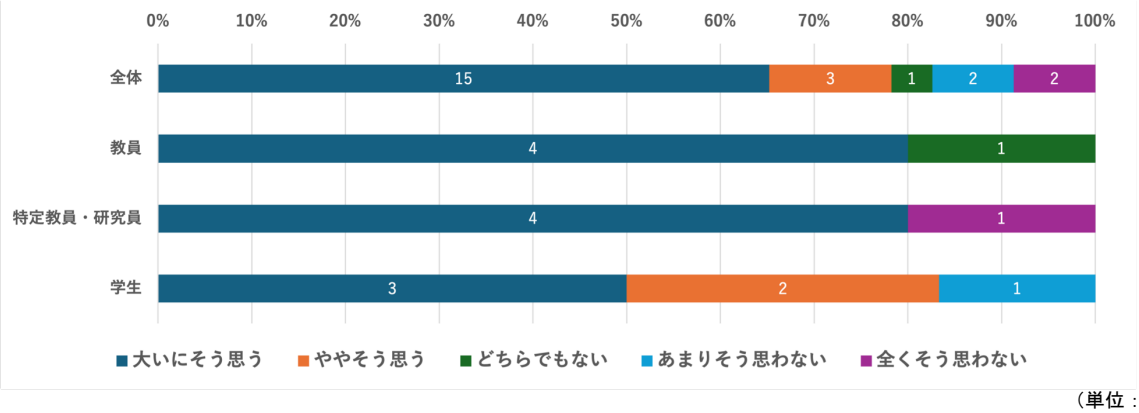
（単位：人）

（h）機会があったらまた参加したい



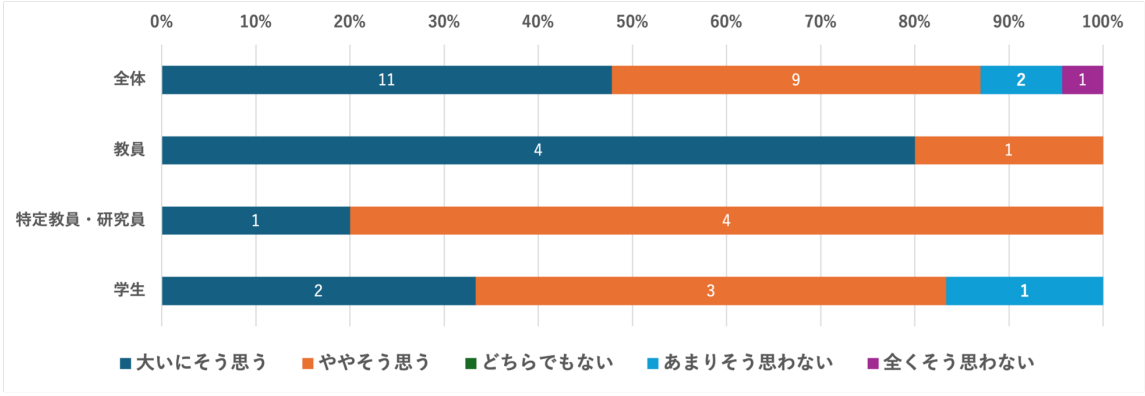
（単位：人）

（i）このような活動への参加を研究業績として評価してもらいたい



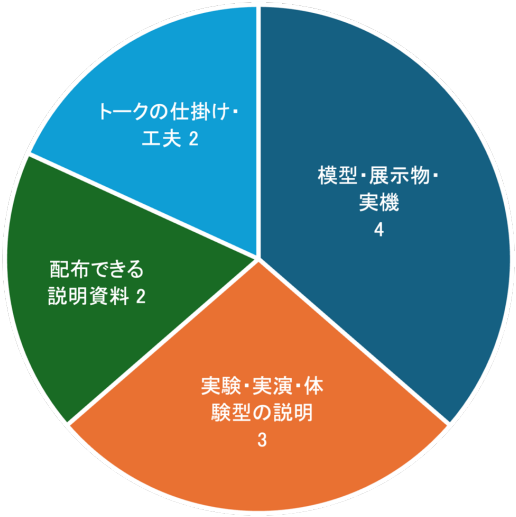
（単位：人）

（j）他の研究者との交流の機会になった



（単位：人）

● 来場者との対話をする際に、準備をしておいて役に立った（or　必要だと感じた）工夫やコンテンツがありましたらお書き下さい。



（単位：件）

〈模型・展示物・実機（4 件）〉

- 「遺伝の木」というコンテンツを利用したことで、ちゃぶ台に上がるまではいかなかった来場者とも話す機会を得ることができ、遺伝について気軽に話題にするきっかけにできたと思います。（参考：https://edu.jsgc.jp/wp-content/uploads/2024/07/%E9%95%B7%E5%B4%8E%E5%A4%A7%E5%AD%A6%EF%BC%9A%E9%81%BA%E4%BC%9D%E3%81%AE%E6%9C%A8_dl.pdf）（医薬生命科学系）
- 実験に使っている実物展示は効果大でした（医薬生命科学系）
- タブレット端末と配布資料を準備しておいてよかった（社会科学系）

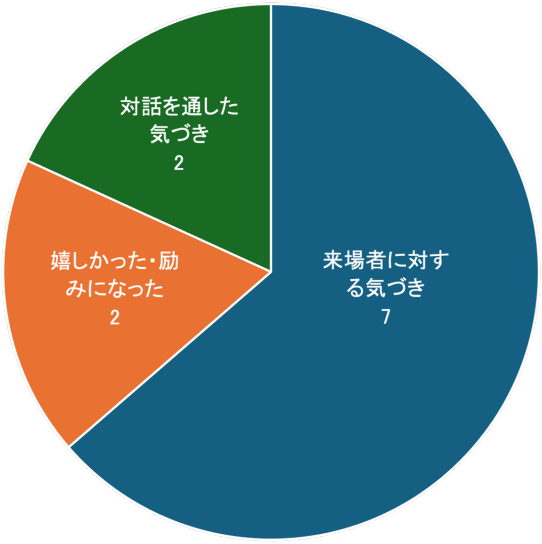
- 研究を紹介する簡単なビデオを作成してノート PC で上映していました。少々準備に時間はかかりましたが，今回以外にも利用できますし，今回のイベント当日も説明をする上で，または興味を持ってもらう上で役に立ったと感じました（理工学系）

〈実験・実演・体験型の説明（3 件）〉
- 来場者参加型の来場者把握ツール。目をひくカラフルなデザインにして正解だった（医薬生命科学系）
- 配布物や研究内容がわかり触れられる展示物があるとよい、と助言を頂いていたため、ポスターの縮刷と触れられるものを数種類用意したが、話がはずんだし説明もスムーズにできてよかった。（社会科学系）
- 気楽に立ち寄れる雰囲気を作ろうと思い、来場者参加型のパネルを準備した（所属未回答）

〈配布できる説明資料（2 件）〉
- ポスターのハンドアウト（医薬生命科学系）
- 演習的な講義で、学生がおこなう作業に必要な教材が一般に人にも興味を持ってもらえて、話のとっかかりとなった（人文科学系）

〈トークの仕掛け・工夫（2 件）〉
- 日頃ニュースを見て、自分の研究がどのようなところに関わりがありそうかを考えること。専門用語を使わずに分かりやすく説明する能力が必要と感じた。また、普段うやむやにしているところが、専門外の人と話すと意外とたくさん出てきて、細かいところに対する理解を深めないといけないと強く感じた（医薬生命科学系）
- 研究のエッセンスを理解してもらうために、日常的の話（自分の場合は「アリと人間とどちらが力持ちか」という話題）を使ってよかった（社会科学系）

● 来場者との対話でどのようなことが特に印象に残りましたか？



（単位：件）

〈来場者に関して、気づいたこと（7 件）〉
- 遺伝医療・遺伝カウンセリングというテーマはあまり来場者には馴染みがないかもしれないと不安に感じていましたが、予想に反してみなさん真剣にディスカッションに参加してくださり、老若男女問わずご自身の意見を積極的にお話ししてくださったのが印象的でした（医薬生命科学系）
- 小さい子供が思ったよりたくさんいらしていたこと。純粋な興味関心、疑問をぶつけてくる姿に学ぶものがあった（医薬生命科学系）
- みなさん、ゲノムに興味関心があるということ（医薬生命科学系）
- 子供の熱心さ。真剣に話を聞いてくれ、たくさん質問も頂いた（医薬生命科学系）
- 意外と専門用語を知っていたこと。ただし、用語の意味までは詳しく把握してはいなさそうだった（医薬生命科学系）

● 思ったより多くの方がたくさん来場され，結果として想定していたより多くの来場者と対話をすることとなったことが印象に残りました（理工学系）

〈嬉しかった・励みになった、と感じたこと（2 件）〉

● 「知らなかった」「考えたことがなかった」「面白かった」「ありがとうございました」と言っていただけたこと（社会科学系）

● 私のブースは、最先端の研究についての発表を期待して来場された方にとっては全く方向性の違う発表ではあったのですが、それでも「こういったことを一般の人に伝えようというのはとても重要だと思う」と応援してくれる方が多かったのが印象的で、とても嬉しく思いました（医薬生命科学系）

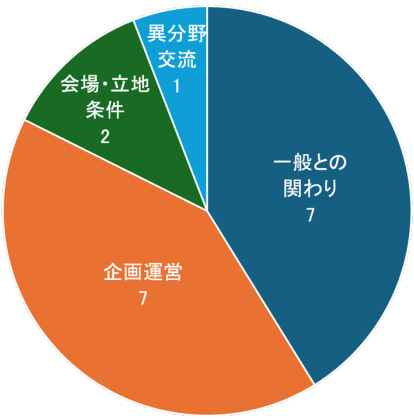
〈対話を通した気づき（2 件）〉

● 対話の重要性が改めて認識させられた（社会科学系）

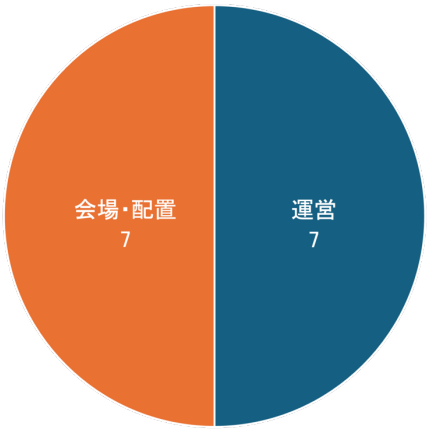
● ニュースに関するトピックは食いつきがよかった（所属未回答）

● 今後の「京都大学アカデミックデイ」開催にあたってのご意見

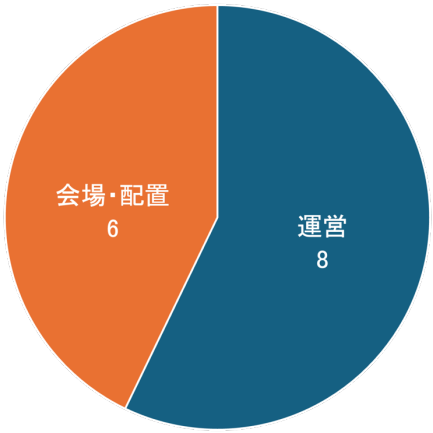
〈良かった点〉



〈改善点〉



〈今後に向けた提案〉



（単位：件）

〈①良かった点〉

<u>一般の方との関わり（7 件）</u>

● アウトリーチの経験を積めたこと（医薬生命科学系）

● 普段関わりのない一般の方と研究の話ができて新鮮だった（医薬生命科学系））

● さまざまな背景を持つ人と触れ合い、思いもよらない視点から自分たちの問題を考える機会が得られました（医薬生命科学系）

● 幅広い層の方にご参加いただけて良かった（医薬生命科学系）

● 多くの方が来場され，展示を観にこられたこと（理工学系）

● ちょうど良い広さのスペースであったこと（会場全体、ブースともに）（医薬生命科学系）

<u>企画運営に関すること（7 件）</u>

● 全部よかった。（社会科学系）

● スタッフの方のサポートが手厚く、準備から当日の片づけまで丁寧にご教示いただけたのがありがたかったです（医薬生命科学系）

● 当日雨天だったので、前日に物品搬送できてよかった（医薬生命科学系）

● スタッフの方の対応が丁寧で良かった（医薬生命科学系）

● 開催前、当日ともに密なサポートを頂けたこと（医薬生命科学系）

● 他イベントとの抱き合わせ開催も良いと思いました。（お互いの集客に貢献できる。）（医薬生命科学系）

- よくオーガナイズされていること（社会科学系）

会場・立地条件（2 件）

- 十分なスペースがあってよかった（理工学系）
- やはり学内開催はホッとします（医薬生命科学系）

異分野交流について（1 件）

- 研究者自体も他の研究領域にふれる良い機会だった（医薬生命科学系）

〈②改善点、今後に向けた提案：一部抜粋〉

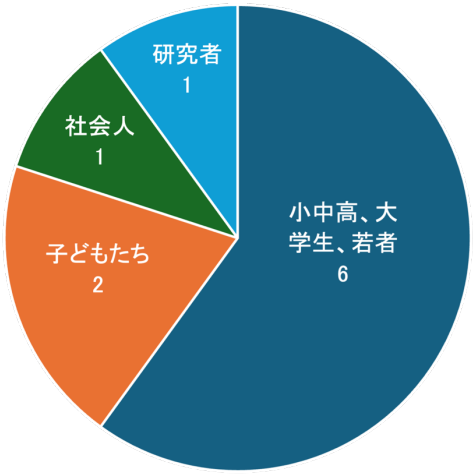
会場・配置について（改善点：6 件/提案：7 件）

- もう少し来場者が多くてもいいのかなと思った。時計台の 2 階、ということで、なかなか「ふらっと立ち寄る」ということは難しかったのでないかと思った（医薬生命科学系）
- もっと出展者を増やし、内容ごとに分類し、来場者が自分の興味のある分野の展示されているエリアに迷わずアクセスできるようになれば、出展者来場者双方にメリットがある気がします（医薬生命科学系）
- 1 階から入ったときにアカデミックデイの会場への案内が見えにくかったように思う（医薬生命科学系）
- 参加者から、他の方の声が聞こえにくいというご意見があった（医薬生命科学系）
- ちゃぶ台でしたが、雨だったし、靴の脱ぎ履きが面倒だと思う来訪者もいたかと思いました（社会科学系）
- 出展者の展示物にいろいろ工夫があり、ポスター前の机に並べるには窮屈そうに感じた。机の配置などにもっと柔軟性を持たせられるよう、ポスターの間隔や通路をもっと広げるなど考えて頂けるとありがたい（医薬生命科学系）
- 会場案内は入口から分かりやすくして、多くの人が立ち寄れるようにしてほしい（医薬生命科学系）
- ちゃぶ台での対話形式は初めて経験しました。畳は足の悪い人は負担になると思いました。参加者もスペース的に限られてしまうし、後から来た人は参入しにくい空間になるのかな、とも感じました。椅子の方がよいかなと思いました。普段畳で過ごすことがないので、自分も足が痛くなってしまいました（人文科学系）
- ちゃぶ台はさんで膝詰め対話は、畳だと、足の悪い方が参加しにくかったり、靴を脱いで上がるということがハードルになるため、テーブルの方が参加しやすいと思った（医薬生命科学系）
- ちゃぶ台はできれば、カフェのように参加者に飲み物を出して、リラックスしながら参加してもらえるようにできると良いと思った（医薬生命科学系）
- ちゃぶ台よりテーブルがよいと感じました。次回はテーブルでお願いしたいと思います（社会科学系）
- 個人的にはやはりゼスト御池より京大開催が安心です（医薬生命科学系）

運営について（改善点：8 件/提案：7 件）

- 座るところが少なく、数時間立ちっぱなしで足腰が辛かった（医薬生命科学系）
- 今回は来場者が少なく感じた。雨の影響もあるとは思うが、すこし物足りなかった（医薬生命科学系）
- 出展者の荷物を置く場所が決められていなかった（医薬生命科学系）
- 出展者の荷物や傘について、外部の人に触れられず、安全に管理できる場所を用意してほしい（医薬生命科学系）
- 人が増える時間帯がわかったりすると良いかも？もっと人が来ても嬉しい（理工学系）
- 出展者限定交流会の際に、すでにポスターや展示を片付けてしまっているグループが多く、交流するうえでの話題を探すのが難しいと感じました（医薬生命科学系）
- 交代制にしても中だるみするので、もう少し時間を短くしてもよいと思います（医薬生命科学系）
- ちゃぶ台はお昼にかぶらない時間帯で設定してもらえると良いと思った（医薬生命科学系）
- サイエンストークショーのようなものがあると集客率が上がると思った（医薬生命科学系）
- どのような形がよいか難しいですが、各出展者の方の展示テーマなどがわかるようなかたちで交流会に参加できると、お互いの研究についての対話がもっと盛り上がるように思いました（医薬生命科学系）
- 2 回開催に分散したためか、演題数が 10～15 題になり、ちょうどよかったです（医薬生命科学系）
- 学園祭は少し騒がしいかもしれませんが、他イベントとの抱き合わせ開催も積極的に行っても良いかも知れないですね。（医薬生命科学系）

〈③このような来場者ともっと話したい：一部抜粋〉



（単位：件）

小中高、大学生、若者（8 件）

- 今回はほとんど中高生を見かけなかったが、これから研究に携わりたいと考えている中高生や、興味分野を探している人にも来てほしい（医薬生命科学系）
- 学生さんが増えるといいと思いました。受験生でも科学に興味がある学生、科学系の部活をしている方々など。大学生ももちろん歓迎（理工学系）
- 高校生や大学生の来場者が増えると嬉しいです（医薬生命科学系）
- 現在京大で学んでいる学部生・大学院生なども来ていただけたら、より活発になるのではと思いました（医薬生命科学系）
- 一般市民の中でも、とりわけ小中高生（医薬生命科学系）
- 小学生、中学生、高校生（医薬生命科学系）

社会人（1 件）

- 社会問題を研究しているので、研究対象になっている来場者もいたらと思いました（社会科学系）

研究者（1 件）

- 研究者同士で研究紹介をする時間がほとんどなかったので、終わった後にそういった時間を明確に確保してほしい（医薬生命科学系）
- 一般の方はもちろん、他の研究領域の研究者、自分の研究に近い分野から全く関係なさそうなところの分野の方まで、分野横断的に研究者同士交流できたら楽しそうだと思った（医薬生命科学系）

その他（2 件）

- 今回はホームカミングデイとの共催だったため、空気感や客層が落ち着いていて、とても安心して楽しむことができた。ゼストのような場所での催しにも挑戦してみたい気持ちはあるが、今回はホームカミングデイ回に参加して本当によかった（社会科学系）
- 特定の来場者というよりも，いろいろな方がこられたのがよかったと思いました（理工学系）

● 「京都大学アカデミックデイ」において、今後扱ってほしい新企画などのご希望がありましたらお書きください。

新企画に関する意見（6 件）

- サイエンスショーの開催（医薬生命科学系）
- 小学生などを対象とした子ども向けコーナーなどをつくってみても面白そうだと思いました（医薬生命科学系）
- 研究対象だけでなく、研究者そのものにスポットを当てた企画をしても良いかとも思いました。（医薬生命科学系）
- 「フォトジェニックなアカデミック」みたいな名前で、結晶構造やイメージング画像などの、インスタ映えするようなきれいな写真を展示しても良いかもしれないと思いました。（医薬生命科学系）
- 「アカデミックはロマンティック」みたいな名前で、自分の研究のどこに惚れ込んで研究者をしているのかを説明してもらっても良いかも（医薬生命科学系）

その他（1 件）

- アカデミックデイが続いていくことが一番の希望です（医薬生命科学系）

● 本学における「国民との科学・技術対話」への取り組みや、URA による支援についてご意見・ご提案がありましたらご自由にお書きください。

URA への意見（6 件）

- みなさま大変ご苦労されていると思います。ご支援のおかげで素晴らしいイベントを経験することができました。（医薬生命科学系）
- こうしたイベントを企画してくださって大変助かります。（理工学系）

3−3．京都大学アカデミックデイ賞

京都大学アカデミックデイでは、出展研究者に贈る「京都大学アカデミックデイ賞」を設けています。賞を設けた理由は、よりよい対話を目指した研究者が評価される（価値をつけられる）仕組みを作ることです。今後、研究活動の一環として「国民との科学・技術対話」活動が普及・定着すること、また活動が研究者にとって負担にならないことを目指して始めました。

来場者アンケートの中に「本日の『ちゃぶ台囲んで膝詰め対話』と『研究者と立ち話』の中で、あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」という質問を設けました。全出展の中から一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ大賞」を、また大賞を除いて「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」と「研究者と立ち話」で、それぞれ一番コメントを多く集めた出展研究者に「京都大学アカデミックデイ賞」を贈りました。

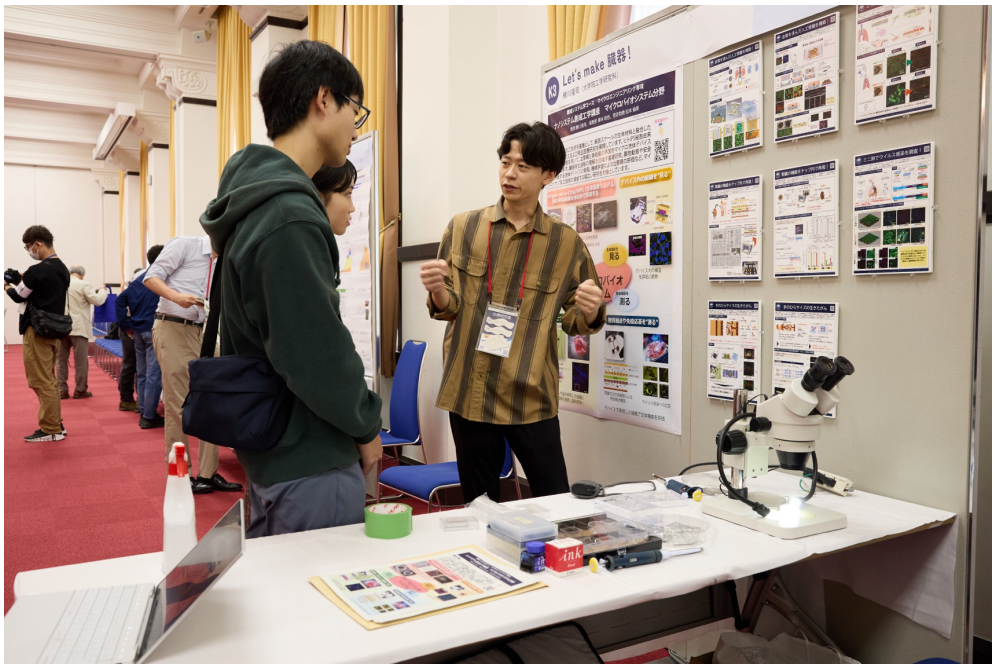
■ 3−3−1．2024 年度「京都大学アカデミックデイ賞」受賞者

● 京都大学アカデミックデイ大賞

出展名：水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を防ぐ
出展代表者：原田英典（アフリカ地域研究資料センター／大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
行動変容のつくりかた賞、体験が面白かったで賞、社会問題を解決できるで賞、など

● 京都大学アカデミックデイ賞：「研究者と立ち話」部門

出展名：Let's make 臓器！
出展代表者：横川隆司（大学院工学研究科）
独特で賞、これからの可能性を感じさせてくれたで賞、新しい気づきをくれたで賞、など



● 京都大学アカデミックデイ賞：「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」部門

出展名：あなたが創るゲノム時代の未来
出展代表者：鳥嶋雅子（大学院医学研究科）
ビジュアルのプレゼンが楽しいで賞、これも遺伝だったの！？で賞、色々な人の話を聞きあえたで賞、など

■ 3−3−2．アンケートの上位の出展

来場者からのアンケートでコメント数の多かったポスター上位 6 件は、以下の出展でした。
（アカデミックデイ賞を受賞した出展を除く）
※ ちゃぶ台囲んで膝詰め対話は出展数が 4 件のため省略します。

● 研究者と立ち話

「RNA ～生命を紡ぐ紐～」出展代表者 齊藤博英（iPS 細胞研究所）	
・聞けば聞くほど奥が深いで賞	・最先端の今を伝えているで賞
「歴史と化学から考える森林と社会の未来」出展代表者 峰尾恵人（化学研究所）	
・とても熱のこもったお話を聞かせてくれたで賞	・視点が面白いで賞
「大地震発生の先駆的な滑りはあるか？」出展代表者 田中宏樹（大学院情報学研究科）	
・研究ですごい事を見つけたで賞	・地震（自信）になるで賞
「合成生物学で世界を変えよう」出展代表者 北畠真（医生物学研究所）	
・どんどん研究を進めていってほしいで賞	・若いのに頑張っているで賞
「分子の振動を自在に操る振電工学」出展代表者 志津功將（化学研究所）	
・熱の不思議にとりつかれているで賞	・いつか振電工学を確立するで賞
「医学教育の現在と未来」出展代表者 生野真嗣（大学院医学研究科）	
・期待しかないで賞	・お話や色々な器具を見せてくれた賞

4．出展者情報

以下、各出展の「〇〇〇賞」は、来場者のアンケート用紙に設けた質問「あなたがよかったと思うのはどの出展ですか？もしその出展になにか「賞」をプレゼントするなら、どんな名前の賞にしますか？」の回答の中から特徴的なものを表記しました。各出展のポスターやその他の写真は京都大学アカデミックデイ 2024 の WEB サイトでもご覧になれます（https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2024/）。

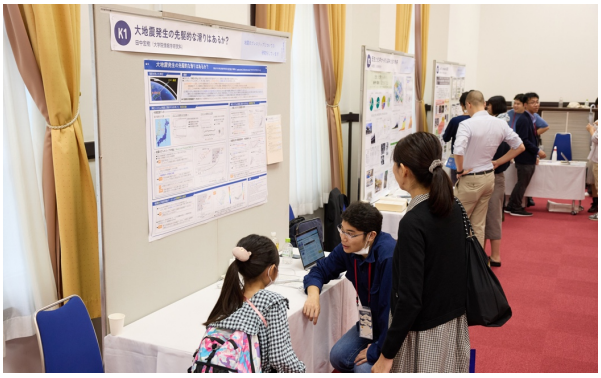
4－1．研究者と立ち話

K1 大地震発生の先駆的な滑りはあるか？

田中宏樹（大学院情報学研究科）

相関解析見直しましたで賞

岩石の破壊の直前にゆっくりとした先駆的な滑りが実験で観察されている。同様の先行的な滑りが実際の断層面上で起こるかどうかは地震の短期的な予測を考える上で重要な事柄である。Bletery-Nocquet (2023)は地下深くの大地震の先駆的滑りが地表の地殻変動で観察しうるのではないかという示唆を与えた。本出展では、データのノイズを低減して地殻変動データを解析する京都大学独自の手法（相関解析法, Iwata-Umeno 2016）を適用することで、大地震の先駆的滑りの検出に肯定的な結果が得られたので報告する。

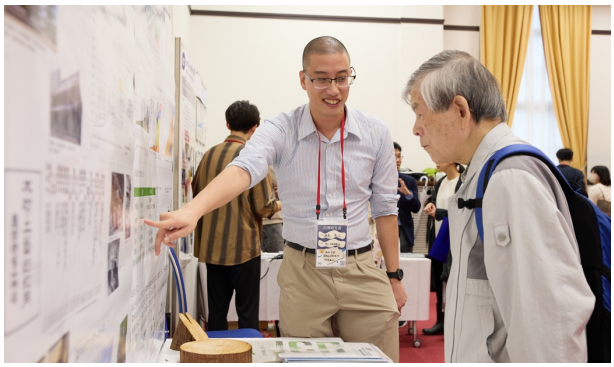


K2 歴史と化学から考える森林と社会の未来

峰尾恵人（化学研究所）

長い目で見守りま賞

森林政策論が専門領域である私は、育成に長い期間がかかる大きな木材の確保策について、歴史や制度、経済の側面に着目した研究を進めてきました。2021 年からは、化学の専門研究機関である化学研究所に着任し、炭化水素源（物質・エネルギー源）としての森林バイオマスについて学際研究を進めています。歴史と化学から、森林と社会の未来について考えてみましょう！



K3 Let’ s make 臓器！

横川隆司（大学院工学研究科）

すごい物を造ったで賞

私たちの体を構成するヒト細胞は、それぞれの臓器機能に適した環境でしか機能を発揮できません。このため、生体内と同じ培養環境を準備して細胞を培養することは、正しく細胞機能を計測する上で非常に重要です。私たちは、半導体技術により作製したマイクロ流体デバイスを用いて、血管、腎臓、肺、肝臓などの機能を模倣する生体模倣システムを開発しています。臓器発生過程の理解を目指す基礎研究から薬物動態や安全性の評価など幅広い研究を対象としています。

K4 医学教育の現在と未来

生野真嗣（大学院医学研究科）

身近に感じられ実益にもなったで賞

今回の出展では、医学教育・国際化推進センター（CMEI）の主要な活動内容とその成果について紹介します。CMEI の主な使命は、①学習者（学生）の学習支援、②カリキュラム改革のコーディネート、③医学教育者の育成、の 3 つです。今回の企画を通じて、医学教育の未来について共に考える機会としたいと考えています。

K5 水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を防ぐ

原田英典（アフリカ地域研究資料センター／大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）

今後も応援していきたいプロジェクトで賞

ザンビア・ルサカの低所得地区ではコレラが毎年のように発生する。しかし、人々はスマホは持ってもトイレは持たず、水と衛生の優先順位は低い。身の回りの下痢リスクを自ら見える化できれば、水と衛生の必要性を「実感」し、その主体的な実践が可能になる。現在、JST と JICA の支援を受け、その実現に向けたプロジェクトを実施している。

K6 分子の振動を自在に操る振電工学

志津功將（化学研究所）

科学的好奇心を掻き立てるで賞

ミクロな視点でみると、熱の本質は原子核の振動運動であり、熱エネルギーは原子核と電子の間の相互作用エネルギーのやり取り（『振電相互作用』）によって発生します。振電相互作用の制御に基づく新しい材料化学を『振電工学』と名付け、新たな学問領域として確立し、次世代に継承したいと考えています。

K7 これからの予防・健康づくりに重要な価値

今中雄一（大学院医学研究科）

身近な話題でわかりやすいで賞

日本では健康寿命の延伸が国策として重視され、予防・健康づくりへの関心が高まっています。予防・健康づくりに関するサービスが増える中で、個人や自治体、企業はどのように利用するサービスを選択すればいいでしょうか。利用者の判断に役立つ多面的な価値評価について研究しています。

K8 ビッグデータ分析でデジタルヘルスケアの世界へ

真尾朋行（大学院情報学研究科）

すごい発見で賞

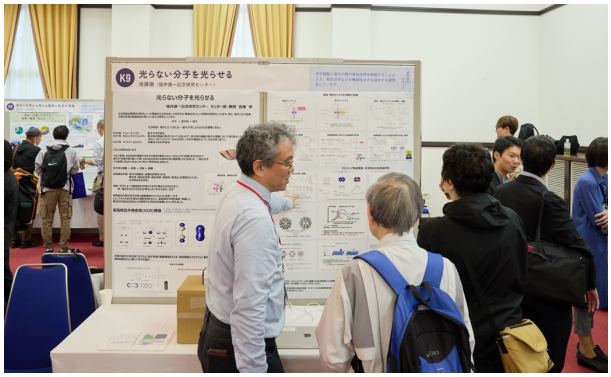
OPZ(One PointZero)は、CT で撮影した画像の分析から上気道の閉塞を見抜き、睡眠時無呼吸症（OSA）患者を早期に発見します。その患者が持つ頭頚部画像及び数値化された呼吸数及び圧力と心拍変動の関係性を調べます。心臓が刻むリズムのゆらぎ（心拍変動）の分析では、暗算や数独など脳が活動している時により「カオスになる」ことが実験で分かりました。これは将来、ストレスの推定などに応用できる可能性があります。私たちは、ビッグデータ分析を健康に役立てる研究をしています。

K9 光らない分子を光らせる

佐藤徹（福井謙一記念研究センター）

日常とかけはなれて光るで賞

光をあててもほとんどの分子は発光しません。これは光から受け取った電子のエネルギーが熱になってしまうためです。分子は電子と原子核とから構成されています。熱エネルギーは分子振動(=原子核の振動運動)のエネルギーであって、電子の運動と分子振動の間に相互作用があるためにこのような”失活”がおこります。このような相互作用(振電相互作用といいます)を抑制することができれば、光らない分子を光らせることが可能になります。



K10 RNA ～生命を紡ぐ紐～

齊藤博英（iPS 細胞研究所）

健康で長生きできる社会になるようがんばって賞

ワクチンとして有名になった RNA は、私たち全ての生物が持っている紐状の分子です。目に見えないとても小さな分子ですが、生命の根幹となる様々な現象・機能を担っています。また、病気の診断や治療、安全な再生医療の実現といった未来の医療への応用利用も期待されています。私たちの研究室では、そんな RNA を使って細胞の機能を自在に制御することに挑戦しています。RNA が持つ可能性や RNA 研究の面白さを感じて下さい！

Dialog with the Public

K11 メタアグリゲートって何？

村上一馬（大学院農学研究科）

実用化したらすごいで賞

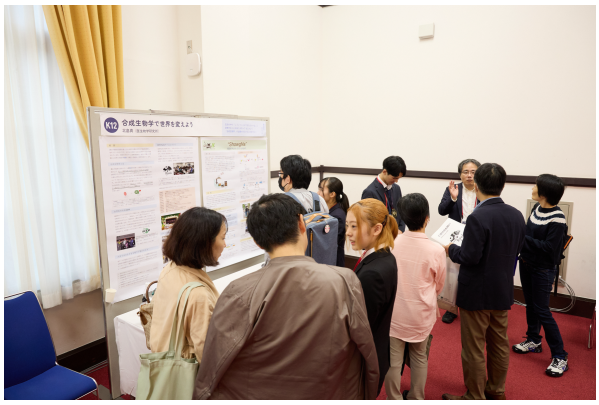
京都のような観光地には多くの人が集まり、とても「混雑」しています。しかし、よく見ると家族連れ、修学旅行生、訪日外国人などそれぞれ属性が異なることから、正確には「混淆」状態と言います。秩序がない混雑に対して、混淆には何らかの規則性が存在します。認知症や神経変性疾患に関わるアミロイドタンパク質は、分子どうしが集まりやすい性質をもちますが、からだの中では他の生体分子とも共凝集した混淆状態をとります。わたしたちはこのような分子をメタアグリゲートと呼び、その動き方を明らかにして新しい薬づくりを目指します。

K12 合成生物学で世界を変えよう

北畠真（医生物学研究所）

生物学が面白くなるで賞

遺伝子組換え技術を使ってさまざまな製品を作る「合成生物学」。年に一度、世界中の大学生がパリに集まり、研究成果を競う大会が開かれます。京都大学のチーム iGEM Kyoto は今年、農業における窒素肥料の削減を目指してバイオセンサーの開発に取り組みました。研究の成果とパリでの大会の様子を紹介します。



4－2．ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

ちゃぶ a1

一人の価値の計算―200 年の間違い

趙亮（大学院総合生存学館）

ものごとを少し違った視点で見れたで賞

選挙における一票の格差問題は、席数÷人口で一人（一票）の価値を計算されているが、この計算式は、席数が人口に比例するという成立しないことを暗黙的に仮定しており、間違っているのです。それを用いて議席の配分を調整すると不平等な状況を悪化させてしまいます。代わりに「席数の 2.5 乗÷人口」で一人の価値を計算する式を提案します。

ちゃぶ a2

あなたが創るゲノム時代の未来

鳥嶋雅子（大学院医学研究科）

色々なことを考えるキッカケや、人がどう思っているかためになったで賞

「ゲノム時代」ともいわれる現代において、私たちはどんな知識を持っておく必要があるでしょうか？ゲノム医療学講座・遺伝医療学分野は、人々が遺伝情報を正しく理解し、医療や健康に活かすために必要なことは何かを考え研究しています。認定遺伝カウンセラーと一緒に、ゲノム時代の未来について考えましょう！

ちゃぶ b1

電離圏を用いた地震予知

梅野健（大学院情報学研究科）

ノーベル賞まったなしで賞

電離圏とは、地球を覆うように存在する電子が多数存在する層のことです。大地震が発生する直前に、その電離圏に異常が発生する可能性が報告されていることから、私たちはその原因を解明し、地震予知に繋げようと考えています。地震後の地殻の運動による電離圏変動の影響を明らかにするため、迅速に電離圏の状態を推定するための高速なアルゴリズムと機械学習を用いた電離圏予測アルゴリズムの構築に取り組んでいます。

ちゃぶ b2

人はなぜ自然とつながると癒されるのか？

田代藍（大学院人間・環境学研究科）

やっぱり自然は大事で賞

自然とのつながりは「人の健康」と「健全な自然環境」というプラネタリーヘルスの概念に深く関係します。しかしながら自然による健康便益のエビデンスが蓄積される一方で、その至近要因や進化的背景は未だ不明瞭です。「なぜ動植物が豊かなまちほど、自然の癒し効果は高いのか」「自然によって癒される程度にはなぜ個人差が生じるのか」という問いについて議論したいと思っています。

4−3．出展参加者一覧

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名　職名又は学年等
K1	○	大学院情報学研究科 田中 宏樹　特定研究員 梅野 健　教授
K2	○	化学研究所 峰尾 恵人　特定助教
K3	○	大学院工学研究科 横川 隆司　教授 藤本 和也　准教授 松本 倫実　特定助教 Sachin Yadav　スタッフ 髙田 裕司　博士課程 4 年 馬 成　博士課程 3 年 田渕 史　博士課程 3 年 北田 敦也　博士課程 1 年 Koh Wei Lun Darryl　博士課程 1 年 孫 一心　博士課程 1 年 中本 尚吾　修士課程 2 年 西村 太希　修士課程 2 年 楊 美萱　修士課程 2 年 小石 翔太　修士課程 2 年 飯尾 凛太郎　修士課程 2 年 洲河 青　修士課程 1 年 炭本 壮一朗　修士課程 1 年 岡本 大地　修士課程 1 年
K4	○	大学院医学研究科 生野 真嗣　講師 医学部 市川 俊太朗　5 年 大澤 由生乃　5 年 赤松 舞里乃　3 年
K5	○	アフリカ地域研究資料センター / 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科 原田 英典　准教授
K6	○	化学研究所 志津 功將　助教
K7	○	大学院医学研究科 今中 雄一　教授 海老沼 翔太　博士課程 3 年 本田 雄大　博士課程 2 年 田渕 あゆ　博士課程 2 年 江頭 柊平　博士課程 1 年 西下 陽子　博士課程 1 年
K8	○	大学院情報学研究科 真尾 朋行　共同研究員 梅野 健　教授 高明 慧　技術補佐員 朝日レントゲン工業会社 濱松 諒 サクラ堂歯科医院 鈴木 篤史

ブース 番号	代表者 ○	所属 氏名　職名又は学年等
		東芝情報システム株式会社 奥富 秀俊
K9	○	福井謙一記念研究センター 佐藤 徹　教授 春田 直毅　特定准教授 大田 航　特定助教
K10	○	iPS 細胞研究所 齊藤 博英　教授 大野 博久　特定拠点助教 牧野 航海　日本学術振興会特別研究員（PD） 大学院医学研究科 正木 魁人　博士課程 宮下 映見　博士課程 木下 通理　博士課程 高司 時生　博士課程 木村 琴音　修士課程 崔 遠哲　修士課程 Joe Carve　修士課程 医学部 東 由佳莉　１年生
K11	○	大学院農学研究科 村上 一馬　准教授 NGUYEN T.H. Van　研究員
K12	○	医生物学研究所 北畠 真　助教 薬学部 桐山 賢斗　２年 農学部 馬場 萌枝　１年 橋本 麻利　１年
ちゃぶ a1	○	大学院総合生存学館 趙　亮　准教授 王　立坤　修士課程１年
ちゃぶ a2	○	大学院医学研究科 鳥嶋 雅子　特定助教 医学部附属病院 春山 瑳依子 特定職員 大学院医学研究科 佐藤 忍　大学院生 友石 安希子　大学院生
ちゃぶ b1	○	大学院情報学研究科 梅野 健　教授 米山 慧　修士課程
ちゃぶ b2	○	大学院人間・環境学研究科 田代 藍　特定准教授

５．その他

５−１．各種説明会

■　５−１−１．出展募集説明会

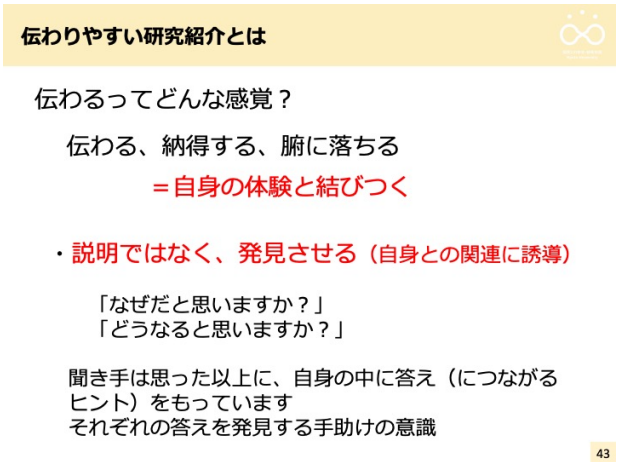
2024 年 6 月 6 日、オンライン（Zoom ミーティング）上で、出展を検討している参加者向けにアカデミックデイの概要や出展のメリット、出展に向けての作業やサポート等について説明しました。

■　５−１−２．出展者向け説明会

2024 年 8 月 23 日、学術研究支援棟地下会議室とオンライン（Zoom ミーティング）のハイブリッド形式で、ゼスト御池で開催される京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました（参加は任意）。参加研究者の“負担感”を軽減し、事前準備をサポートすることがこの事前説明会の主な目的でした。

学術研究展開センターの藤田弥世 URA より、京都大学アカデミックデイ開催の目的や背景、前回の様子を紹介しました。どのような場で、どのような人たちと対話をすることになるのかを事前に伝えることで、準備がしやすくなることを狙っています。会の後半では、学会発表との違いをもとに、専門外の人に自分の研究をわかりやすく伝える方法・対話のコツ・ポスター作りのポイントについてレクチャーしました。

その後、同じ形式・目的で 2024 年 10 月 4 日、京都大学百周年時計台記念館で開催される京都大学アカデミックデイに参加予定の研究者を対象とした事前説明会を開催しました。



５−２．会場間の移動誘導企画（ゼスト御池のみ）

３つの会場間の移動を誘導する企画として、3 つの企画を実施しました。

■　５−２−１．対話シール企画

６種類の対話シールを用意し、広場ごとに割り当てました。来場者は出展研究者と話したり、話を聞いたりすると、パンフレットにシールを貼りつけることができます。このシールを 1 枚以上集めて、受付で見せてもらうことでアカデミックデイオリジナルグッズをプレゼントする仕掛けでした。

■　５−２−２．トートバッグ配布企画

会場に来られた方に、アカデミックデイが 3 会場で実施されていることを示すモノを持ち歩いていただくことで、そのモノを「動くサイン」にすることを目的に、昨年度と同じく A4 サイズのアカデミックデイ特製トートバッグを作成、カラーは今年の広報カラーの青に統一しました。（向かって右側は時計台開催時に使用したパンフレット、真ん中はゼスト御池開催時に使用したパンフレット）

■　5−2−3．天井サイン企画

それぞれの広場につながる通路の天井 4 箇所にサインを吊り下げることで、ゼスト御池全体の広場がアカデミックデイの会場になっていることを視覚的に示しました。人通りの多い北側通路に 1）市役所前広場そば、2）市役所前広場・寺町通りの間、3）寺町通り・御幸町通りの間の 3 箇所、南側通路では 4）市役所前広場そばに 1 箇所設置しました。

1-1)

1-2)

2-1)

2-2)

3-1)

3-2)

Dialog with the Public

4-1)

4-2)

５−３．「京都大学」をアピールする仕掛け（ゼスト御池のみ）

昨年度ゼスト御池で開催した際、「京都大学のイベントだということがわかりづらい」という学内からの声を受け、京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース最奥部と、河原町広場特設ステージの横面２箇所に、本学のバックボードを設置しました。京都市役所本庁舎地下 2 階オープンスペース最奥部では、バックボードを背景に写真撮影できるようにしました。

５−４．広報物

京都大学アカデミックデイのポスターとチラシを作成し、京都市を中心に関西圏の教育関係機関や公共機関等に配布しました。また、地下鉄や駅構内で広告を掲載しました。

■ ５−４−１．ポスター（A2 サイズ）

■ 5−4−2．チラシ（A4 サイズ）

● オモテ面

● ウラ面

「京都大学アカデミックデイ」は、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができる「対話」の場となることを目的として、2011年度から実施しているオープンなイベントです。昨年度に続き、今年も京都大学から飛び出し、京のみやこのまちなかで対話の場をつくります！

"Kyoto University Academic Day" is an open event that has been held since the academic year 2011 with the aim of facilitating open dialogs between citizens and researchers with various interests and fields. Following last year's success, this year's Academic Day will again be held outside the campus to create a space for open dialogue in the heart of Kyoto city!

詳細はWEBページをご覧ください。
Please see the web page for details.

お問い合わせ先 Contact Information:
京都大学アカデミックデイ事務局
Kyoto University Academic Day Secretariat Office
E-mail: kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

PROGRAM — 2024年9月21日（土）11時-18時 — ゼスト御池

研究者と立ち話 Casual Chat with Researchers

11:00–18:00

約100名の多様な京都大学の研究者による研究紹介です。ポスターの前にいる研究者に話しかけてみてください。

Please come to talk with our researchers standing in front of their posters. They will directly explain what they are studying about.

ちゃぶ台囲んで膝詰め対話

Round-table Conversation with Researchers

12:30–14:30 | 15:30–17:30

ひとつのテーブルを囲んで研究にまつわるあんな話、こんな話、お茶の間気分で、ほっこりお話ししましょう。

You can sit around a tea table with our researchers and enjoy free conversation to find out what is going on behind their research.

お茶を片手にトーク◎トーク Tea-time Talk ◎ Talk

ピッチプレゼン Pitch Presentation

11:00–11:50 | 14:50–15:25

研究者ってどんなひと？対話のきっかけになるお話がキュッと詰まったブース紹介トークを聞きながら、気になるブースをぜひチェックしてみてください！

What are researchers like? Listen to booth introduction talks filled with engaging stories that serve as a trigger for dialogue. Let's check out the booths that catch your interest!

人生を語る、人生を聞く。 Talking about Life, Listening to Life.

13:00 - 14:30

「生活史」とは、個人の人生の語りのことです。ひとの人生の語りを聞くたびに、息を止めて深い海に潜るような感覚を感じます。生活史を聞くひとは、語り手といっしょに、海の底まで潜っていくのです。人生の語りの楽しさや切実さを通して、この世界について考えてみたいと思います。

The "life history" refers to the narratives of an individual's life. Every time I listen to someone's life story, I feel like I am holding my breath and diving into the depths of a vast ocean. Those who listen to life stories dive with the storyteller to the ocean's floor. Through the joy and earnestness of these life narratives, I seek to contemplate the essence of this world.

人々にとっての観光とは What is Tourism for People?

15:45–17:15

街に生きる人々の生活と調和した観光の実現に向けた取り組みをテーマに、京都市ならではの視点で繰り広げられる座談会です。みんなで一緒に、人にとっての「観光」とは何かについて問い直してみませんか？（共催：京都市）

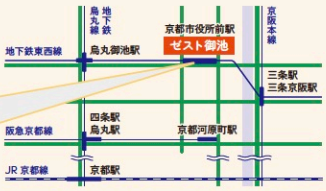
This is a roundtable discussion with views unique to Kyoto on the theme of actions promoting tourism in harmony with the local community. Why not join us to rethink what "tourism" means to people? (Co-hosted by City of Kyoto)

研究者の本棚 Bookshelves of Researchers

京都大学の研究者がオススメする本を紹介・展示しています。本をきっかけに、研究者と対話してみませんか？

What inspired our researchers? Explore their recommend books displayed with their personal reviews.

ゼスト御池（河原町広場・京都市役所前広場・寺町広場・御幸町広場）、京都市役所本庁舎地下2階オープンスペースにて開催！



Dialog with the Public

■　5－4－3．中吊り広告（B3 サイズ）

■　5−4−4．電子サイネージ

● みやこ ad. 京都市役所前駅（デジタルサイネージ）

■ ５−４−５．ウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）

本年度もウェブサイトとソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）を利用して「京都大学アカデミックデイ 2024」の出展募集および集客を行いました。

● Web サイト

学術研究展開センターWeb サイト

研究者出展募集を行いました。

出展研究者募集案内：https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/hasshin/academic-day

K.U.RESEARCH ウェブサイト

https://research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/

→ 2025 年 1 月 1 日より URL 変更（ https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/ ）

K.U.RESEARCH に設置された京都大学アカデミックデイ専用ページに 2024 年度のページを作成し、出展研究について個別ページを作成しました。

https://ku.research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/a2024/

● SNS（X（旧 Twitter）、Facebook、Instagram）

京都大学アカデミックデイ公式 X（@KyodaiAcaDay）

https://x.com /KyodaiAcaDay/

ハッシュタグ「#京大アカデイ 2024」を活用し、「研究者と立ち話」や「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」、「お茶を片手にトーク◎トーク」、「研究者の本棚」の開催情報を、各研究の詳細ページと一緒に紹介しました。そのほか運営の日常も適宜投稿することで継続的な発信を行い、それぞれのイベント終了後には、当日の様子について写真を添えて紹介、2025 年 1 月から URL が変更されたことを受け、各ブースの振り返りを継続して発信しています（2025 年 3 月末終了予定）。

学術研究展開センター公式 X（@kura_office）

https://x.com/kura_office

京都大学アカデミックデイ公式 X でつぶやいた投稿を都度リポストしました。

学術研究展開センター公式 Instagram

https://www.instagram.com/kura_kyotouniversity/

一般の方向けに開催案内を行いました。

京都大学 学術研究展開センター（KURA Office）Facebook

https://www.facebook.com/kuraoffice/

出展研究者募集の告知を行いました。

K.U.RESEARCH Facebook

https://www.facebook.com/k.u.research

ポスターやチラシの PDF 掲載、京都大学アカデミックデイ専用ページの情報等を掲載しました。

■　５－４－６．その他の広報媒体等

本年度も様々なチャネルを利用して「京都大学アカデミックデイ 2024」の集客を行いました。

● 京都大学公式ホームページ
公開日：7/29(月)
ゼスト御池での開催通知を掲載しました。
https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/event/2024-07-29
なお、京都大学ホームカミングデイとのコラボレーション企画として開催した 11 月のアカデミックデイについては、ホームカミングデイ主催の成長戦略本部により広報されました（ https://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/hcd/hcd2024/ ）。

● 京都大学教職員ポータル
教職員が利用するポータルサイトの掲示板に、アカデミックデイ開催通知を掲載しました。

● KUON メールマガジン
成長戦略本部の協力により、京都大学同窓生向けサービス「KUON」のメールマガジンにてゼスト御池で開催するアカデミックデイの開催情報を配信しました（9/2(月)）。また、11 月に開催したアカデミックデイの宣伝を含むホームカミングデイの開催情報も２回配信され（9/2(月)，10/1(火)）、開催終了後には開催報告が配信されました（12/2(月)）。

● メール配信
アカデミックデイ 2020 並びに 2021 申込時に「今後のメール配信を希望する」を選択された方を対象に、開催案内のメール配信を行いました。

● サイエンスポータル
JST が運営する科学技術の情報サイト「サイエンスポータル」に情報を掲載しました。
（9/21(土) @ゼスト御池：https://scienceportal.jst.go.jp/events/18382/）
（11/2(土) @時計台：https://scienceportal.jst.go.jp/events/18383/）

６．支援体制・準備スケジュール

６-１．支援体制

京都大学アカデミックデイは、京都大学による「国民との科学・技術対話」事業の一環として実施しています。昨年度から大きく変更のあった今年度の支援体制は以下の通りです。

学術研究展開センター（2025 年 1 月～ 総合研究推進本部）

藤田弥世	学術研究展開センター　ＵＲＡ
大西将徳	学術研究展開センター　ＵＲＡ（～2024 年 3 月）
福田将矢	学術研究展開センター　ＵＲＡ
渡辺真人	学術研究展開センター　ＵＲＡ（2024 年 1 月～）
村角智恵	学術研究展開センター　事務担当職員
多田知世	学術研究展開センター　事務担当職員（～2024 年 12 月）
有川美甫	学術研究展開センター　事務担当職員
加藤淳史	学術研究展開センター　事務担当職員
谷口百恵	学術研究展開センター　事務担当職員

研究推進部研究推進課（2025 年 1 月～ 総合研究推進本部）

飯田圭輔	研究助成掛
奥田将基	研究助成掛（～6 月 30 日）
櫨本万里野	研究助成掛

６−２．スタッフリスト

企画	学術研究展開センター（2025 年 1 月～総合研究推進本部）
デザイン（広報・サイン）	Studio Kentaro Nakamura
メインイベント当日サポーター	伊藤晴香（研究推進部研究推進課総務・研究ｲﾝﾃｸﾞﾘﾃｨ掛） 内山祐里奈（研究推進部研究推進課研究助成掛） 小石峰奈穂（研究推進部研究推進課研究戦略掛） 高祖綾（研究推進部研究推進課研究助成掛） 北尾謙伍（研究推進部研究推進課総務・研究ｲﾝﾃｸﾞﾘﾃｨ掛） 小西葵絵（研究推進部研究推進課研究助成掛） 松山祐輔（研究推進部研究推進課研究戦略掛） 吉元幸司（研究推進部研究推進課） 米井進（研究推進部研究推進課研究支援掛） 伊藤健雄（学術研究展開センター） 岡﨑麻紀子（学術研究展開センター） 岡田直樹（学術研究展開センター） 齊木あや（学術研究展開センター） 斎藤知里（学術研究展開センター） 佐々木結（学術研究展開センター） 下重幸則（学術研究展開センター） 白井哲哉（学術研究展開センター） 菅井佳宣（学術研究展開センター） 谷口弘之（学術研究展開センター） 寺川まゆ（学術研究展開センター） 納谷憲幸（学術研究展開センター） 長谷川景子（学術研究展開センター） 松村啓司（学術研究展開センター） 松本万里子（学術研究展開センター） 眞鍋雅恵（学術研究展開センター） 水野良美（学術研究展開センター） 村田卓也（学術研究展開センター） 横江智哉（学術研究展開センター） 大川知子（学術研究展開センター） 藤原純子（学術研究展開センター）
写真撮影・提供	岡﨑累
動画撮影	Flat Box
監修	学術研究展開センター（2025 年 1 月～総合研究推進本部）

６−３．準備～事後スケジュール

2024 年	1 月	2024 年度の企画運営体制について検討
	2 月～3 月	ゼスト御池へ提出する企画書作成、3/1(金)提出 ふたば書房との調整、デザイナーとの調整開始 京都市との共催企画調整開始（～9/21(土)イベント当日まで）
	4 月～5 月	広報戦略検討（成長戦略本部・広報課・デザイナーとの打ち合わせ）、ホームカミングデイとのコラボレーション企画調整開始、京都市教育委員会との連携 ゼスト御池企画検討、出展募集準備（チラシ・公募要領・WEB ページ）、ポスター・チラシ作成開始、K.U.RESEARCH 更新、託児室検討・託児業者調整
	6 月	6/3(月)出展募集開始（～7/3(水)正午締切） 附属図書館利用支援課、附属図書館研究支援課との連携開始 出展者募集説明会（6/6(木)；オンライン開催）、ゼスト御池出展案内作成開始
	7 月	チラシ・ポスター入稿・印刷・納品、ポスター・チラシ高校発送、K.U.RESEARCH 更新、研究者の本棚リスト作成、中吊りポスター・デジタルサイネージ作成、京大正門横広報センター連携、X（旧 Twitter）本格投稿開始、Facebook 投稿、ゼスト御池会場使用にかかる資料提出（7/31(水)）
	8 月	サイエンスポータル ページ作成、中吊り・デジタルサイネージ納品、 会場サイン検討、京大公式 HP 掲載、パンフレット作成、ノベルティ・対話シール・トートバッグ検討開始 学問のやどりぎとのタイアップイベント開始、ゼスト御池出展者向け説明会（8/23(金)）
	9 月	みやこ ad.京都市役所前駅デジタルサイネージ（9/1(金)～9/21(土)） 来場者アンケート・出展研究者アンケートと名札作成、地下鉄中吊り広告（9/9(月)～15(日)）、サイン納品、ノベルティ納品（付箋、トートバッグ、対話シール） ピッチプレゼン資料作成、当日サポートスタッフ説明会（9/19(木)） 研究者の本棚企画開始（ふたば書房御池ゼスト店；9/16(月)） スタッフ運営マニュアル作成 時計台用パンフレット作成開始、時計台出展案内作成開始
		前々日（9/19(木)）から搬入物品整理～前日搬入（9/20(金)）～当日（9/21(土)） 来場者・研究者アンケート集計開始 時計台開催用サイン作成開始
	10 月	時計台出展者向け説明会（10/4(金)） 来場者・研究者アンケート作成 時計台用 X（旧 Twitter）広報開始
	11 月	前日準備（11/1(土)）～当日（11/2(日)）
	11 月以降	来場者・研究者アンケート集計、報告書作成 アカデミックデイ賞確定 → 賞状郵送 動画アーカイブ配信準備

7．資料

7−1．ブックリスト

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
C1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特定講師 祐野 恵 『霞が関の博士人材活用』	自分の研究に関連して紹介したい本	『在宅育児手当の意義とあり方：自治体による新たな現金給付とその可能性』 安藤 加菜子 ミネルヴァ書房	積み重ねてきた学びやその他さまざまな経験、大切にしたいこと、暮らしの現状などに応じて、その人らしい生き方をかなえる制度とは何でしょうか。この本では、そのことを子育て支援に注目して考えました。子どもを世話することに対する現金給付である在宅育児手当を国内や北欧等の実施例から多面的に検討しています。博士人材の研究では、大学院での学びを活かしたい人と、社会や制度との関係を考えていきたいです。
		若者にお勧めしたい本	『職業としての政治』 マックス・ヴェーバー / 脇圭平（訳） 岩波書店	1919年のウェーバーによる学生への講演をまとめた書籍です。ヴェーバーは、政治家に必要な重要な資質として、情熱・責任感・判断力と説いており、政治とは何か、政治家はどうあるべきかという、ウェーバーの語りかけは、現代にも通ずる内容です。2020年に改版されており、政治の本質を考えてみたい方に、手に取っていただきたい一冊です。
T1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・博士課程1年 疋田 純也 『何が世界を構成するのか？』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『大栗先生の超弦理論入門』 大栗 博司 講談社	本屋でたまたま見て読んでみたのが始まり。かなり噛み砕かれた説明で、なんか物理ってすごいな、面白いなと感じながら読むことができた。そこから物理に興味を持って大学、大学院と進学して今の自分がいる。
		今ハマっている本	『統計学を哲学する』 大塚 淳 名古屋大学出版会	統計がなぜ科学的根拠たりえるのかを説いている。科学をやる上で無意識の前提は何かを考えたい人必見！
		自分の研究に関連して紹介したい本	『宇宙までまるわかり！素粒子の世界』 秋本 祐希 洋泉社	素粒子物理学について擬人化されたイラストを交えてわかりやすく解説。自身の研究を通じていろんな実験を見ると、たまにその擬人化があるか調べてしまう。
T2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・教授 野口 高明 『宇宙から来た物質を調べると何が分かるの？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『はやぶさ2は何を持ち帰ったのか：リュウグウの石の声を聴く』 橘 省吾 岩波書店	本展示の野口・松本・竹之内が関わったはやぶさ2の分析の成果がコンパクトにまとめられていてわかりやすい。野口·松本の研究も載っています。
T3	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・助教 村井 俊介 『ナノアンテナって何なの？』	若者にお勧めしたい本	『世界を作った６つの革命の物語：新・人類進化史』 スティーブン・ジョンソン / 大田 直子（訳） 朝日新聞出版	今当たり前になっている生活スタイルの基礎を作った６大発明（ガラス・冷たさ・音・清潔・時間・光）の紹介。現代社会が先人の積み上げた技術・知識の上にあることを実感します。
		若者にお勧めしたい本	『千に一つの奇跡をつかめ！』 千本 倖生 サンマーク出版	稲盛和夫とともに多くのベンチャー企業を立ち上げ育てた千本の半生記。個人の情熱が企業や社会を動かす根本にあるのだ、ということを改めて認識しました。
		若者にお勧めしたい本	『僕は君たちに武器を配りたい』 瀧本 哲史 講談社	京大で教育とエンジェル投資家活動に従事し、先日亡くなられた瀧本哲史先生の著作。終身雇用型社会の次を生きるための指針を示す、さきがけ的著作だと思います。
T4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・特定研究員 森川 健太郎 『からだ工務店：カブトムシの体の形作り』	自分の研究に関連して紹介したい本	『いきもののカタチ 続・波紋と螺旋とフィボナッチ：多彩なデザインを創り出すシンプルな法則』 近藤 滋 学研プラス	出典のカブトムシの形作りの研究は、著者の近藤滋教授（大阪大学）との共同研究から生まれたものです。本書では、カブトムシに加え、複雑怪奇な角を持つツノゼミや、多種多様な形の貝殻、体の建築資材を自ら作り・運び・建てるカイメンなどの形作りについての研究が語られています。わかる実感を得ていく思考過程を追体験できるような語り口は、ただ「知る」のではなく、体験としての「わかる」を読者に与えてくれます。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・博士課程2年 豊田 直人 『おサルさんの頭のホネから分かること』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『自然人類学入門 ：ヒトらしさの原点』 真家 和生 技報堂出版	ヒトの特徴である直立二足歩行や大きな脳が、どのような進化の過程によって出来上がってきたのかを優しく説明してくれています。生き物としての人間に興味をもった方にはお勧めです。
		若者にお勧めしたい本	『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス、小尾 芙佐（訳） 早川書房	中学生のときに初めて読みました。今でも時々読み返すことがあります。思いやる心の尊さが身に染みます。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『化石が語る　サルの進化・ヒトの進化』 高井 正成、中務 真人 丸善出版	実は、、、ヒトや霊長類の化石は、小さな骨や歯の欠片ひとつが見つかることが多いです。そんな数センチくらいの化石から、「その生き物が何を食べていたのか」、「どういう風に過ごしていたのか」といった情報をひきだすプロが古人類学者・古霊長類学者です。そんなプロの研究者が、どうやって科学的に名推移を繰り広げるのか、やさしく解説してくれている本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『人体六〇〇万年史：科学が明かす進化・健康・疾病（上下巻）』 ダニエル・E・リーバーマン / 塩原 通緒（訳） 早川書房	身体という自分自身のハードウェアについて、その成り立ち、現状、未来を考えるきっかけにしていただければと思います。
T7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院エネルギー科学研究科 ・准教授 尾形 清一 『太陽光の恩恵を全ての人が享受する技術と社会 -Solar for Allの実現へ-』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『はじめての構造主義』 橋爪 大三郎 講談社	工学系だった私にとって、数学と哲学は共存できるのかもねと勇気をもらった本です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『風の谷のナウシカ（コミックス）（全7巻）』 宮崎 駿 徳間書店	自然と人間の関係を考えるための必読書？
		若者にお勧めしたい本	『無痛文明論』 森岡 正博 トランスビュー	コスパ・タイパが求められる現在、是非とも読み返したい。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『緑のエネルギー原論』 植田 和弘 岩波書店	環境やエネルギーや社会を総合的に考えたい全ての人のために
T8	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・准教授 埴淵 知哉 『頭の中にある世界地図』	自分の研究に関連して紹介したい本	『失われゆく我々の内なる地図：空間認知の隠れた役割』 マイケル・ボンド / 竹内 和世（訳） 白揚社	「頭の中の地図」にまつわる数多くの研究が紹介されています。また、GPSのような便利なテクノロジーが私たちの空間認知に何をもたらすのかなど、興味深い内容です。
T10	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 白眉センター／ヒト行動進化研究センター・特定准教授 鴻池 菜保 『サルから学びともに暮らす』	自分の研究に関連して紹介したい本	『脳のなかの幽霊』 Ｖ・Ｓ・ラマチャンドラン、サンドラ・ブレイクスリー / 山下 篤子（訳） KADOKAWA	切断したはずの腕が痛む？！見えないはずのものが見える？！神経科学者が多彩な症例から脳のふしぎに迫るとてもエキサイティングな本です！私は脳の研究に興味をもった大学生のときに単行本で初めて読み、数々の引っ越しをともにし、いまも我が家の本棚にあります。2011年に素敵な表紙で文庫化されたので通勤・通学のお供にお勧めします。
T11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・准教授 千葉 豊 『縄文土器に画像生成ＡＩを応用したら』	自分の研究に関連して紹介したい本	『通論考古学』 濱田 耕作 岩波書店	考古学の概説書。今から100年以上前の1922年に刊行された著作であるが、今なお色あせない内容をもっている。
		今ハマっている本	『鳥獣戯画のヒミツ』 宮川 禎一 淡交社	漫画のルーツとされる鳥獣戯画の謎解き！

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
T12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院地球環境学堂・准教授 真常 仁志 『アフリカでゴミを資源にする』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『深夜特急（全6巻）』 沢木 耕太郎 新潮社	海外へ旅して、生活する憧れの始まりは、この本だった気がします。
		今ハマっている本	『途上国の人々との話し方：国際協力メタファシリテーションの手法』 中田 豊一、和田 信明 みずのわ出版	人の行動変容を促すにはどうすればよいのか、途上国での援助を考えている人だけではなく、教育に携わっている方、必読です。目から鱗です。
		若者にお勧めしたい本	『環境倫理学のすすめ』 加藤 尚武 丸善出版	環境問題が人間の価値の問題であること、科学者も当事者であることを深く納得させられました。新版も出ていますが、私自身がしっくりきたのは、この旧版でした。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『土のひみつ：食料・環境・生命』 白戸 康人ら / 日本土壌肥料学会「土のひみつ」編集グループ（編） 朝倉書店	あまり知られていない土のでき方や働きについて、トピック形式で紹介。私は、「砂漠化」について書きました。
G1	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医生物学研究所・教授 河本 宏 『Tリンパ球を使ってがんやウイルスを退治！』	今ハマっている本	『コウモリはウイルスを抱いて空を翔ぶ：生き物たちのネオ免疫学』 新田 剛 ブックマン社	色々な生物の免疫システムを紹介しつつ、生物としての生体防御の仕組みを鳥瞰的な視点から論じている。スケールが大きく、とても面白い。イラストも素晴らしい。超オススメ。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『マンガでわかる免疫学』 河本 宏 / しおざき 忍（作画）、ビーコムプラス（制作） オーム社	免疫学といえば難しいと思われがちだが、マンガを使うことでわかりやすく解説されている。「2人の学生さんが、免疫学を学びながら卒業研究をすすめる」というストーリー。
G2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） iPS細胞研究所・講師 中川 誠人 『“じぶん”のiPS細胞で怪我や病気を治す未来！～iPS細胞の歴史・作り方・応用まで～』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『山中伸弥先生に、人生とiPS細胞について聞いてみた』 山中 伸弥、緑 慎也 講談社	山中伸弥博士が自身の人生とiPS細胞研究について語る一冊です。この本では、iPS細胞の発見からその応用までの道のり、研究に対する情熱と哲学を詳細に紹介しています。私自身、この本を読んでiPS細胞研究の魅力に引き込まれ、現在の仕事を選ぶきっかけとなりました。科学の最前線で起きていることを知り、自らの将来について新たな視点が得られる価値ある内容です。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ｉＰＳ細胞：不可能を可能にした細胞』 黒木 登志夫 中央公論新社	iPS細胞の奇跡的な発見とその応用可能性を詳しく描いています。基礎から臨床応用までの道のりや、研究の挑戦と努力が詳細に紹介されています。この本を通じて、iPS細胞研究の深さと広がりに触れ、現在の仕事を選ぶ大きなきっかけとなりました。科学への情熱を再確認し、再生医療の未来に期待を膨らませてくれます。
		今ハマっている本	『LIFESPAN（ライフスパン）：老いなき世界』 デビッド・A・シンクレア、マシュー・D・ラプラント / 梶山 あゆみ（訳） 東洋経済新報社	老化のメカニズムを解明し、長寿の可能性を探る本です。科学者や医療従事者はもちろん、健康に興味がある一般の方にもぜひ読んでいただきたい本です。社会の期待に応えられる研究成果を出すのはいつだって困難を伴いますが、この本は、成果を出した後について考えさせられる点で他の本より興味深いと感じています。
		若者にお勧めしたい本	『iPS細胞かるた』 京都大学iPS細胞研究所（編） 東京書籍	京都大学iPS細胞研究所が監修した、かるた形式のガイドブックです。iPS細胞について楽しく学ぶことができ、基礎知識を身につけるのに最適です。これから生物学を学ぼうと考えている小中学生にとって、iPS細胞だけでなく、科学そのものを身近に感じるきっかけとなり、未来の研究者としての第一歩を踏み出すためのインスピレーションを与えてくれます。遊びながら学べるので、友達や家族と一緒に楽しむことができる教材です。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） iPS細胞研究所・講師 中川 誠人 『“じぶん”のiPS細胞で怪我や病気を治す未来！～iPS細胞の歴史・作り方・応用まで～』	若者にお勧めしたい本	『iPS細胞の研究室：体のしくみから研究の未来まで』 志田 あやか / 京都大学iPS細胞研究所 国際広報室（編） 東京書籍	山中伸弥博士と彼のチームがiPS細胞の研究を進める過程を詳しく描いています。iPS細胞の基礎から応用まで、科学的な発見とその背後にある努力と情熱をリアルに伝えています。若者にとって、科学の最前線で起きていることを知る貴重な機会となるでしょう。研究の現場にいる科学者たちの姿に触れることで、自らの将来についても新たな視点を得られるはずです。
		若者にお勧めしたい本	『山中iPS 細胞・ノーベル賞受賞論文を読もう：山中iPS2つの論文〈マウスとヒト〉の英和対訳と解説及び将来の実用化展望』 山中 伸弥 / 西川 伸一（監修）、ニシカワ & アソシエイツ（訳） 一灯舎	山中伸弥博士のノーベル賞受賞論文を英和対訳と解説で提供しています。iPS細胞研究の基礎から応用までを理解するのに役立ち、将来の実用化展望についても触れています。科学に興味がある若者にとって、論文を通じて研究の深さと広がりを感じることができる貴重な一冊です。科学者の思考過程や発見のプロセスを追体験し、自らの研究に対する情熱をさらに高めることができるでしょう。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『iPS細胞の歩みと挑戦』 中内 彩香、和田濱 裕之 / 京都大学iPS細胞研究所 国際広報室（編） 東京書籍	山中伸弥博士がiPS細胞研究の道を歩む中での経験や思いを語った一冊です。iPS細胞の発見からその応用、さらに人生哲学に至るまで、幅広い視点で述べられています。私自身の研究とも密接に関連しており、特にiPS細胞の基礎研究から臨床応用までのプロセスや、再生医療における課題と未来について深く学ぶことができます。知的好奇心が刺激され、自らの研究に対する情熱をさらに高めることができると思います。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『最新ES細胞 iPS細胞：再生医療、創薬、病気の解明……。新たな可能性にせまる』 ニュートンムック ニュートン別冊 ニュートンプレス	少し古いと思われる方も居られるとは思うのですが、iPS細胞の発見と活用法について詳細に解説した良書です。再生医療に関心があり、理解を深めたいと考えているすべての人におすすめで、現代医学研究の最前線に触れられます。
G3	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・大学院生 Xiaoyan Ren 『ヒトゲノム改編の匠を目指す！』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ゲノム編集とはなにか：「DNAのハサミ」クリスパーで生命科学はどう変わるのか』 山本 卓 講談社	ノーベル賞を受賞したCRISPR-Cas9技術を含む「ゲノム編集」について包括的に学ぶことができます。日本はゲノム編集領域で非常に強く、昨今ではゲノム編集食品がいくつか登場してきています。私たちの研究室でも遺伝学を研究するために応用しています。
		若者にお勧めしたい本	『生命はデジタルでできている：情報から見た新しい生命像』 田口 善弘 講談社	次世代シーケンサーというDNAを大量に読み取る装置ができてから、生命科学研究は根本的に変わりました。特に、次世代シーケンサーだけでなく、他の測定装置も急速に発展しているので、取得できるデータが巨大なものに変わってきています。そこで重要な考え方が本書籍のタイトルにもあるデジタル的思考です。本書籍では生命において重要なDNA、RNA、たんぱく質におけるデジタル情報の世界を学ぶことができます。
		今ハマっている本	『ホワット・イフ？：野球のボールを光速で投げたらどうなるか』 ランドール・ マンロー / 吉田 三知世 (訳) 早川書房	私は科学は疑問、つまりWhy?の上に成り立っていると考えています。この本はその疑問を追求した本です。日常では「起こり得ないことが起きた時どうなるか」を科学で明らかにします。一見バカげた質問ばかりですが、それに対する回答を見るとワクワクしてきます
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『もやしもん（全13巻）』 石川 雅之 講談社	もやしもんは「微生物が見える特殊能力」を持った主人公が繰り広げる日常を描いた漫画です。本書籍を通して、見えない微生物やたんぱく質が社会で重要な役割をしていることを学び、生命科学者を志すようになりました。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定助教 森 拓也 『医学系研究における倫理的懸念事項の数値化への挑戦』	今ハマっている本	『ゼロから作るDeep Learning（５）：生成モデル編』 斎藤 康毅 オライリー・ジャパン	今流行りの生成AIは便利に使えすぎますが、気になるその中身（構造）を知るには最適な本でハマっています。AIが「推論するか否か」問題も個人的にハマっています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなの研究倫理入門：臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか』 田代 志門 医学書院	研究倫理とは何かを実例ベースで書かれており、研究者だけでなく、一般の方にも研究倫理を理解しやすくい本ですので、おすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『相談事例から考える研究倫理コンサルテーション』 松井 健志（監修・編著）/ 山本 圭一郎、伊吹 友秀、井上 悠輔（編著） 医歯薬出版	医学系研究に関する研究倫理上の相談事例をもとに様々な問題を解説する専門書籍で、生々しい事例の数々は類を見ないと思います。倫理審査側だけでなく、医学系研究に携わる方々や研究倫理を学びたい方にもおすすめです。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Rethinking Informed Consent in Bioethics』 Neil C. Manson、 Onora O′Neill Cambridge University Press	古い本なのですが、こんな昔から、インフォームドコンセント（IC）は共同意思決定のプロセスとして、信頼関係の構築に伴う、柔軟なICの考え方を学べて衝撃でしたので、おすすめしています。
G6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院理学研究科・准教授 川又 生吹 『DNAオリガミ技術とアクティブ生体分子システムの紹介』	自分の研究に関連して紹介したい本	『DNA origami入門』 川又生吹、鈴木勇輝、村田 智 オーム社	共同研究者と一緒に私がが執筆した書籍です。DNAオリガミの基礎から応用について、基本的な事項から丁寧に書くよう心がけました。数百点に及ぶ図を一から作成したため、苦労も多かったのですが、わかりやすく書くことができました。
		若者にお勧めしたい本	『ゲーデル：不完全性定理』 ゲーデル / 林 晋、八杉 満利子（訳） 岩波書店	情報科学の学生として読んだ書籍で、ゲーデルの不完全性定理の数学的な意義に興味を持てた本です。さらに数学そのもののの面白さのみならず、当時の数学界の歴史的・政治的な流れが書かれており、読みごたえもありました。
		今ハマっている本	『コーヒーの科学：「おいしさ」はどこで生まれるのか 』 旦部 幸博 講談社	普段何気なく飲んでいるコーヒーですが、本書籍では、歴史、技術、科学の視点でコーヒーを見たときの情報が詳しく書かれています。ものによっては、良くわかっていない、という話題もあり、知的想像力をかきたてられます。
G7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特定教授 田中 司朗 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『将棋指しの腹のうち』 先崎 学 文藝春秋	藤井聡太7冠の影響で、将棋メシ、勝負メシが人気ですが、おもしろくもほろ苦い将棋メシの数々が画かれています。将棋界のことを書かせたら右に出る者はいない先崎九段による棋譜が一枚もない将棋の本、将棋はまったくわからないわたしですが読みだしたらやめられないし、くり返し読んでいます。「うつ病九段」もお薦めですが、話が重いのでこちらを紹介します。
		若者にお勧めしたい本	『ロウソクの科学』 マイケル・ファラデー / 三石 巌（訳） KADOKAWA	燃えているロウソクを想像してほしい。なぜ木でも紙でもない物質が炎を灯すのだろう。溶けたロウはどこにいくのか。光や熱に変わるのだろうか。燃焼が起きるためにはなにが必要なんだろう。科学とは、日常にある疑問の答えを探す旅である。物理や化学の教科書には旅の行先しか書いていない。科学の道程で発見されてきたわくわくするような風物や見聞が、1861年ロンドンの少年少女に語られた。本書はその講演録である。
		今ハマっている本	『赤いダイヤ（上下巻）』 梶山 季之 集英社	赤いダイヤ=小豆の相場を巡る壮絶な仕手合戦を描いた大衆小説。郷田九段が先崎九段に「赤いダイヤはいい小説じゃないか」といったというエピソードを知って本書を手に取った。確かに昭和の雰囲気をまとった極上のエンターテイメントで、投機に翻弄される人間模様にのめりこんでしまい、1000ページにわたる長編にもかかわらず一気に読んでしまった。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
G7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特定教授 田中 司朗 『臨床統計学－医療に貢献する科学－』	今ハマっている本	『遠山啓のコペルニクスからニュートンまで』 遠山 啓 太郎次郎社エディタス	1985年に出版された本です。タイトルにあるようにとおりコペルニクスからニュートン時代までの物理学と数学の展開が書かれています。歴史的な背景あり、実験の紹介あり、さまざな挿絵ありと非常にユニークな内容です。市民講演講座が基になっているらしいのですが、私もこういう内容の授業をしてみたいと思いました。
G8	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定講師 渡邉 卓也 『同意取得が障壁になる時、倫理委員会は何を考えるか』	自分の研究に関連して紹介したい本	『みんなの研究倫理入門：臨床研究になぜこんな面倒な手続きが必要なのか』 田代 志門 医学書院	研究倫理が問題になるエピソードや、インフォームド・コンセント、リスク・ベネフィット評価などについて、わかりやすく説明されています。登場人物たちの対話形式で内容が進行していくので、とても読みやすくおすすめです。
G9	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院情報学研究科・准教授 後藤 幸織 『行動依存症とは？～ギャンブル、ゲーム、スマホから窃盗まで～』	自分の研究に関連して紹介したい本	『スマホ脳』 アンデシュ・ハンセン / 久山葉子（訳） 新潮社	行動依存症についての一般向け書籍
		自分の研究に関連して紹介したい本	『私が欲しかったもの』 原 裕美子 双葉社	窃盗症についての一般向け書籍
		自分の研究に関連して紹介したい本	『僕らはそれに抵抗できない：「依存症ビジネス」のつくられかた』 アダム・オルター / 上原 裕美子（訳） ダイヤモンド社	行動依存症についての一般向け書籍
G10	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・特命教授 髙橋 良輔 大学院医学研究科・講師　眞木 崇州 大学院医学研究科・特定准教授 山門 穂高 『認知症、その未病の正体に迫る』	若者にお勧めしたい本	『時計遺伝子：からだの中の「時間」の正体』 岡村 均 講談社	私たちの体内時計を制御する「時計遺伝子」により全身の生体リズムが形成される巧妙で美しい機構が、この分野のトップレベルの研究者により分かりやすく書かれています。また、睡眠障害や生活習慣病が生体リズムの異常と関連することも、そのメカニズムとともに詳しく示されています。筆者が長きにわたって強い情熱をもって真摯に没頭されてきた研究の歴史に深い感銘をうけました。(出展：眞木)
		若者にお勧めしたい本	『フェルマーの最終定理』 サイモン・シン / 青木 薫（訳） 新潮社	数学界最大の超難問に挑戦した天才数学者ワイルズを中心としたノンフィクション。宇宙の真理にもつながる極めて美しい数学世界の偉業で、人類の英知の一つの到達点であるが、我々の目の前の難題も決して解決が不可能ではないと思わせ、勇気づけてくれるような内容の本です。ただし、それには現世的ないくつかの大きな犠牲が必要ですが、、。(出展：山門)
G11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院文学研究科・博士学生 伊沢 亘洋 『コロナ禍におけるパンデミックポスターの分析』	自分の研究に関連して紹介したい本	『環境リスクと合理的意思決定: 市民参加の哲学』 クリスティン・シュレーダー=フレチェット / 松田 毅（訳） 昭和堂	本書は環境リスクについて扱った本である。定量的予測が難しいにもかかわらず、社会的影響も大きいために、ある種無理矢理にでも予測や基準値を定めなくてはいけないという状況下で、何が最良のやり方なのかを検討している。分野は異なるものの、今回のコロナ禍における専門家会議も似たような状況だったように思う。 「科学には予測の限界があるし、市民から予測を外した責任を取れとかも言われるし、もう市民の勝手にしたらいいじゃん。」と思いかけている方へおすすめ。
G12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学部附属病院・特定准教授 西村 勉 『千年の恵み：地域再生と若者の未来を創る』	若者にお勧めしたい本	『青春漂流』 立花 隆 講談社	人生に悩んだ時に読みました。

ブース	登壇者等	推　薦　図　書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃぶ a1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 ヒト行動進化研究センター・准教授 足立 幾磨 『動物のこころの研究を通して動物を知る、ヒトを知る －チンパンジーのこころの研究を中心に－』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『比較認知科学への招待：「こころ」の進化学』 藤田 和生 ナカニシヤ出版	動物たちの「こころ」を科学する比較認知科学という学問をわかりやすく説明した初学者向けの本。まず、比較認知科学の基本的な考え方や研究方法を概説があり、その後様々な動物の実際の認知活動に関する諸事実を紹介している。
ちゃぶ a2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院文学研究科・教授 宇佐美 文理 『中国の山水画はなにを描いているのか』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『走れメロス』 太宰治 岩波書店	医学部志望だったのを、高校三年生の秋、これを読んで、文学部志望に変えました。
		若者にお勧めしたい本	『杜甫』 川合 康三 岩波書店	この本をたよりに、世界文学として、杜甫を読んでほしいと思います。
ちゃぶ a3	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 総合博物館・研究員 髙野 紗奈江 『'ひかり拓本'、縄文原体を可視化する』	自分の研究に関連して紹介したい本	『比叡山麓の縄文世界』 京都大学総合博物館 六一書房	'ひかり拓本'による縄文原体および縄文土器の細部の可視化に興味を持った方に、ぜひご覧いただきたい１冊です。
ちゃぶ a4	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院理学研究科・助教 宇高 寛子 『ナメクジってどんな生き物？』	今ハマっている本	『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話』 済東 鉄腸 左右社	なぜ外国語（主に英語）を勉強するのか、という疑問を多くの人が一度はもったことがあると思います。学校での勉強を離れた語学学習（というと軽すぎますが）が行きつく先のすごさ、何かにかける人の執念や情熱のすごさを感じられる一冊です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『カタツムリハンドブック』 武田 晋一（写真）/ 西 浩孝（解説） 文一総合出版	お手軽なうえに、近場で見られるナメクジを網羅している一冊です。カタツムリの多彩さとナメクジの少なさにもぜひ注目してください。
ちゃぶ b1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院エネルギー科学研究科・助教 松井 隆太郎 『光で実現する相対論の世界』	若者にお勧めしたい本	『精神科医が教える ストレスフリー超大全』 樺沢 紫苑 ダイヤモンド社	何かとストレスが多い日々ですが、気持ちを軽くするための考え方のヒントがたくさん詰まっています！

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K2	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 化学研究所・特定助教 峰尾 恵人 『歴史と化学から考える森林と社会の未来』	自分の研究に関連して紹介したい本	『木のいのち木のこころ：天・地・人』 西岡 常一、小川 三夫、塩野米松 新潮社	世界最古の木造建造物も、世界最大の木造軸組建造物も、日本にあります。そして、日本の国土の7割は森林です。日本の森林と木材、人間社会のつながりについて考えるきっかけになるいい本です。
K3	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院工学研究科・教授 横川 隆司 『Let's make 臓器！』	今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Fundamentals of Microfabrication and Nanotechnology』 Marc J. Madou CRC Press	私が修士課程の時に留学したカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で教科書として使われており、マイクロ・ナノの世界を体系的にとらえることができるようになりました。京大の講義でも、この教科書をベースにマイクロ加工学に関する講義をしています。Micro Electro Mechanical Systems (MEMS) の基盤技術を一通り学習するのに適した書籍です。
		今ハマっている本	『TIME OFF：働き方に"生産性"と"創造性"を取り戻す戦略的休息術』 ジョン・フィッチ、マックス・フレンゼル / ローリングホフ育未 (訳) クロスメディア・パブリッシング	日本の大学では、研究に直結する創造的活動に専念できる時間が少なく、企業で言う庶務、総務、人事などあらゆる業務をこなせないと研究者にはなれず多忙です。事務能力ゼロの海外の研究者からは「そんなことまで自分でやってるのか」と笑われます。つまり、日本の研究環境は、研究者の生産性や創造性をあげる環境が不十分で創造的活動に対して萎縮しています。そこで、少なくともラボのメンバーには休息をしっかり取って、生産性と創造性を上げてもらえるように環境作りをしたいと思っています。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『Theoretical Microfluidics』 Henrik Bruus Oxford University Press	大学学部レベルの流体力学の基礎に基づいて、それを生命科学分野の研究に適用する上で必要なマイクロ流体力学について説明した教科書です。流体力学を修めており、その応用を目指す研究者・学生には演習問題を含めお勧めしたい一冊です。私の講義でも一部を参考にしています。
K4	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医学教育・国際化推進センター ・講師 生野 真嗣 『医学教育の現在と未来』	若者にお勧めしたい本	『22世紀の医師のリアル：時代を先取る医師に聞く、これからの時代のキャリアの築き方』 西﨑 祐史、志水 太郎、上原由紀（編） メジカルビュー社	時代の先端を行く、様々な医師のキャリアインタビューを読むことができます。一般的なキャリアばかりではないかもしれませんが、素晴らしい先生方のリアルな経験や考えに触れ、幅広いロールモデルを通じて開かれた未来を感じることができる一冊です。
K5	研究者と立ち話（ポスター / 展示） アフリカ地域研究資料センター 大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授 原田 英典 『水・衛生でアフリカ都市スラムの下痢を防ぐ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『サニテーションと健康』 原田 英典、山内 太郎（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションと健康との関わりについてまとめた書籍です。アフリカをはじめとした低-中所得国の水・衛生改善に関心がある人にはぜひ読んでほしい書籍です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『総論　サニテーション学の構築』 山内 太郎、中尾 世治、原田英典（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションを一つの学問として提案した書籍です。アフリカをはじめとした低-中所得国の水・衛生改善に関心がある人にはぜひ読んでほしい書籍です。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『サニテーションのしくみと共創』 清水 貴夫、牛島 健、池見 真由、林 耕次（編著） 北海道大学出版会	トイレと汚物の始末をつけることであるサニテーションのしくみをどのようにつくり上げ、使い続けていくかを考えるための書籍です。私もサニテーションをどのように地域で計画するか、ザンビアでの取り組みについて執筆しています。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K6	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 化学研究所・助教 志津 功将 『分子の振動を自在に操る振電工学』	若者にお勧めしたい本	『量子力学と私』 朝永 振一郎 / 江沢 洋（編） 岩波書店	ミクロな世界の物理学や不思議な現象が、一般読者向けにやさしく語られています。特に、光と物質の２重性を題材にした『光子の裁判』はお薦めです。
		若者にお勧めしたい本	『重力と力学世界：古典としての古典力学（上下巻）』 山本 義隆 筑摩書房	高校・大学初年級で学ぶ運動方程式F=maに至るまでの長い道のり、ニュートンが実際に使っていた力学とニュートン力学の大きな違い、力学が世界史に与えた影響など、教科書では学べない力学にまつわるエピソードが豊富に散りばめられた科学史研究の金字塔です。
K7	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院医学研究科・教授 今中 雄一 『これからの予防・健康づくりに重要な価値』	自分の研究に関連して紹介したい本	『ちょっと気になる医療と介護（増補版）』 権丈 善一 勁草書房	わかりにくい医療・介護制度について裏話を交えて解説してくれるため読みやすいです。
K9	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院情報学研究科・共同研究員 真尾 朋行 『ビッグデータ分析でデジタルヘルスケアの世界へ』	自分の研究に関連して紹介したい本	『基礎から学ぶ生命倫理学』 村上 喜良 勁草書房	自分と凄く関係あるなのに、全く気付かないことを教えて頂きました。
		自分の研究に関連して紹介したい本	『退避：巨大地震は予知されている』 早川 正士 OROCO PLANNING	地震は予測できると同じ信者がいたので
		自分の研究に関連して紹介したい本	『地球温暖化問題は解決できるか：実現可能な方向を求めて』 石見 徹 岩波書店	あの時の考え方が参考になりました。
		若者にお勧めしたい本	『掃除婦のための手引書』 ルシア・ベルリン / 岸本 佐知子 (訳) 講談社	マジで物語が全て！

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
K11	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 大学院農学研究科・准教授 村上 一馬 『メタアグリゲートって何？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『いま新薬で加速する神経変性疾患研究：異常タンパク質の構造、凝集のしくみから根本治療の真の標的に迫る』 実験医学増刊 Vol.41 No.12 / 小野 賢二郎（編） 羊土社	メタアグリゲートなど、神経変性疾患研究と新薬に関する最前線がわかりやすく解説されています。基本的に研究者向けですが、専門用語の解説文付きです。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『アルツハイマー病の分子医学』 西道 隆臣、丸山 敬 中外医学社	研究室に配属された時、当時指導教員だった入江一浩先生（現京都大学名誉教授）に紹介してもらいました。
K12	研究者と立ち話（ポスター / 展示） 医生物学研究所・助教 北畠　真 『合成生物学で世界を変えよう』	自分の研究に関連して紹介したい本	『微生物の狩人（上下巻）』 ポール・ド・クライフ / 秋元 寿恵夫（訳） 岩波書店	微生物の発見の歴史や病気との戦いを、手に汗握るリアルな文章で読ませます。とにかく面白いです。読み始めたら最後まで止まりません。
		若者にお勧めしたい本	『マリス博士の奇想天外な人生』 キャリー・マリス / 福岡 伸一（訳） 早川書房	世紀の大発明PCRを考案したマリス博士のエッセイ。若い頃から「普通でない」人生を歩んでます。世界は自分が思ってるより広く、面白いことはいくらでもあるのかも？
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『Essential細胞生物学(原書第5版)』 Alberts Bruceら、 / 中村 桂子、松原 謙一、榊 佳之、水島 昇（訳） 南江堂	オーケストラの練習に夢中であまり勉強しなかった学生時代。一冊の教科書に出会い、読み始めたら面白くて止まらず、毎日、起きてる時間は連続で読み、読了しました。気づいたら進学して研究者になってました。ここでは手に入りやすい日本語概要版をご紹介しますが、Molecular Biology of the Cell 7th editionもおすすめです。

ブース	登壇者等	推薦図書		
		ジャンル	『書名』／著者名 ／出版社名	推薦理由、コメント、エピソード等
ちゃぶa1	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院総合生存学館・准教授 趙　亮 『一人の価値の計算ー200年の間違い』	自分の研究に関連して紹介したい本	『選挙・投票・公共選択の数理』 大山 達夫（編）/ 日本応用数理学会（監修） 共立出版	我々による第６章「最も好都合な議員定数」（pp.99-122）に今回の企画の背景知識にあたる議員の定数について詳しく述べています。
		若者にお勧めしたい本	『スケール：生命、都市、経済をめぐる普遍的法則（上下巻）』 ジョフリー・ウェスト / 山形浩生、森本 正史（訳） 早川書房	スケールの大きい研究を目指しましょう
ちゃぶa2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院医学研究科・特定助教 鳥嶋 雅子 『あなたが創るゲノム時代の未来』	自分の研究に関連して紹介したい本	『学校ではきっと教えてくれない！　ヒト遺伝：白熱教室』 和田 敬仁 / 松本 仁美（作画） フジメディカル出版	2014年から京都大学大学院医学研究科の和田先生と認定遺伝カウンセラー（とその卵）で開催している小学生向けヒト遺伝教室「学校ではきっと教えてくれない！　ヒト遺伝白熱教室」がついにマンガ冊子として販売されました。“みんな違ってみんないい”、”あなたは世界で唯一無二の存在”、“ご先祖さまがいたから今の自分がある”、“生き物はみんな繋がっている”ということを、科学を通して実感できます。子どもから大人まで楽しめる一冊でお勧めです。
		今の仕事（研究、進路）を選ぶきっかけになった本	『ジェネティック・ラウンズ：臨床遺伝医が出会った16のストーリー』 ロバート・マリオン / 中川 奈保子(訳)、沼部 博直(監修) メディカルサイエンスインターナショナル	遺伝性疾患を持つ患者とその家族を支える臨床遺伝専門医の仕事を描いた、心揺さぶるドキュメンタリーです。マリオン先生の誠実な人柄と、医師としての苦悩や喜びが鮮明に伝わります。遺伝医療の専門家だけでなく、誰にとっても貴重な学びの機会となる本です。翻訳も素晴らしく、一気に読んでしまうこと間違いありません。
ちゃぶb2	ちゃぶ台囲んで膝詰め対話 大学院人間・環境学研究科 ・特定准教授 田代　藍 『人はなぜ自然とつながると癒されるのか？』	自分の研究に関連して紹介したい本	『Green Infrastructure and Public Health』 Christopher Coutts Routledge	人の健康を言及した自然共生の書籍は少ないのですが、こちらはプラネタリーヘルスの街づくりのヒントがわかりやすくたくさん詰まった内容になっているので推薦します。

編集者　藤田弥世（学術研究展開センター）
福田将矢（学術研究展開センター）
渡辺真人（学術研究展開センター）
村角智恵（学術研究展開センター）
写真　岡﨑累

発行日　2025年2月
発行　京都大学総合研究推進本部
（旧・学術研究展開センター）
問合せ　〒606-8501京都市左京区吉田本町　京都大学　総合研究推進本部
Tel：075-753-5119
E-mail：kenkyu-taiwa@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※職名・組織名等は開催当時の名称です。